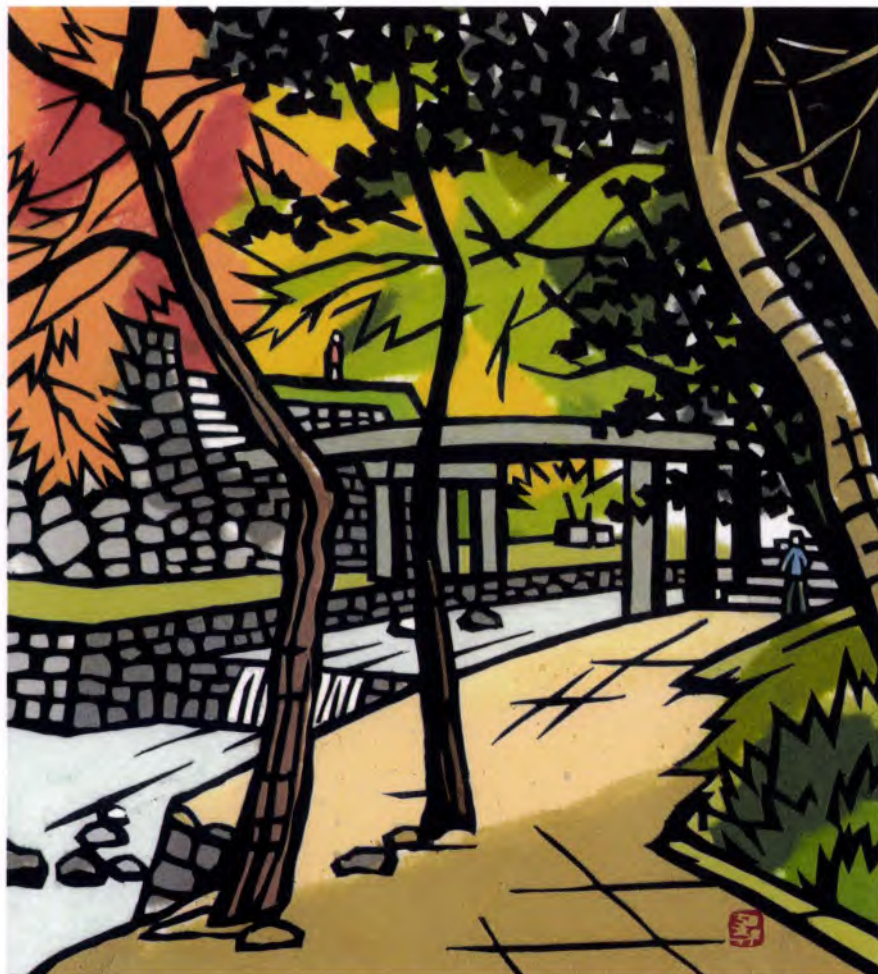


# 川柳塔

創刊大正十三年 通卷一一四六号



日川協加盟

第28回 川柳塔まつり特集・令和4年 六賞発表

No.1146

十一月号

★同人特集★

「私の一句」

■今年中に発表された句に限りま  
■締切 11月15日（本社事務所宛）

年賀広告募集

本誌一月号に掲載する年賀広告を募集いたします。  
同人・誌友ならびに各句会（川柳会）のアピール及び誌上名刺交換の場として、積極的にご利用をお願い申し上げます。

★個人 一口 1/9頁 二、〇〇〇円  
1/6頁 三、〇〇〇円

（巻末の台紙に原稿を貼付または記入してお申込み下さい。）

★団体 次の四種といたします。

- ① 1/3頁 六、〇〇〇円
- ② 1/2頁 九、〇〇〇円
- ③ 2/3頁 一二、〇〇〇円
- ④ 1頁 一八、〇〇〇円

▼原稿締切 11月15日

川柳塔社

第十二回春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第十一回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

課題と選者（各題2句 共選）  
課題吟

「花」

岡 千代美（番傘川柳本社）  
藤村 亜成（川柳塔社）

「待」

佐藤 岳俊（川柳人社）  
木本 朱夏（川柳塔社）

自由吟

樋口 由紀子（「晴」）  
小島 蘭幸（川柳塔社）

投句要領

規定の用紙（コピー可）または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。

投句料

一〇〇〇円（切手は不可）

投句締切

令和五年二月二十日（月）消印有効

送付先

〒543-0052

大阪市天王寺区大道一―一四―一七―二〇―一  
川柳塔社 誌上大会係 宛

賞及び発表

TEL/FAX（〇六）六七七九―三四九〇  
各題特選に賞呈 発表は川柳塔誌五月号誌上  
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

## 第28回川柳塔まつり

小島 蘭 幸

同人総会を終えて会場に入ると、すでに多くの出席者で賑わっていました。暫くすると用意した椅子が足りないとのことでした。

第28回川柳塔まつりは、新家完司理事長の力強い開会の辞から始まりました。私は、三年振りにリアル大会が開催出来たこと、皆様にお会い出来たこと、おはなし、選者の皆様に感謝、六賞受賞、新同人の皆様おめでとうと挨拶させていただきました。

続いて路郎賞ほか六賞の受賞式です。表彰状を読んでいると、受賞者の皆様の瞳がキラキラと輝いていたのが印象的でした。

さてこの度の川柳塔賞準優秀作第一席は、得点表では月波与生氏でしたが、与生氏は、すでに同賞を受賞しております。同じ賞は再受賞出来ないという規程がありますので、次点の二名の方になりました。川柳塔賞と僅か二点差、次回は川柳塔賞受賞さ

れることを心から願っています。

新同人紹介では、新同人を代表して山本三樹夫氏が同人としての心構え等、力強い挨拶をされました。新風期待しています。

おはなし「光を失って手にした五七五」はPR net川柳会「もやい傘」代表の山本進氏です。おはなしは、箱根駅伝で大活躍をした進氏と同じ病をもつ選手にスポットをあてて始まりました。心地好いリズムの話芸に私をはじめ多くの人が引き込まれていました。ありがとうございました。

六賞受賞者、新同人の皆様と記念撮影をして、いよいよ大会の華、入選句の披露です。いいなあいいなあと披露を聞いていると、「芽」「涼」の呼名です。あの小さかったお二人も、もう中学生と高校生なのです。

今はもう金魚命という美魔女

片岡 加代

後から聞いた話ですが、この句のモデルは木本朱夏相談役だとのこと。納得!!

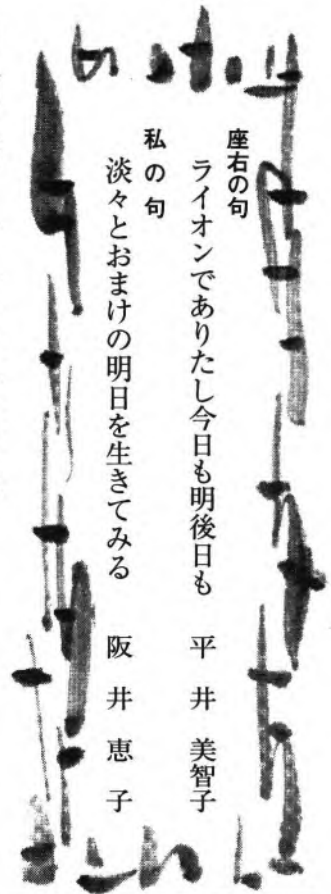
最後になりましたが、二二〇名の出席者の皆さまに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

座右の句

ライオンでありたし今日も明後日も 平井 美智子

私の句

淡々とおまけの明日を生きてみる 阪井 恵子



# 川柳塔 十一月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「滋賀・日吉大社の秋」

■巻頭言 第28回川柳塔まつり……………小島 蘭 幸 ……(1)

贖 金……………森 山 盛 桜 ……(2)

川柳塔(同人吟)……………小島蘭幸選 ……(4)

自選集……………服部十九平 ……(36)

句集の森…………………………(39)

温故知新…………………………(39)

水煙抄……………木本朱夏選 ……(40)

英語 de Senryu ②……………吉村侑久代 ……(57)

誹風柳多留一二篇研究 27……………(58)

橘高薫風句集「肉眼」……………(60)

令和四年度 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞……………(61)

檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞……………

## 贖 金

森 山 盛 桜

今でも時々還付金詐欺の事が地元新聞に載る。ATMに行つて操作するというあれである。何故こうも全く同じパターンに嵌るのか理解出来ないが、お金が戻ると聞いた瞬間に、平常心を失うのだろうか。

私が子どもの頃、家が貧乏だったのでお金が欲しかったのは事実で、親に買つて貰つたスケート(立ったまま片方の足で地面を蹴つて進む乗り物)を十五円で売つてしまつて、えらく怒られた事があつた。アイスクャンディー一本五円の時代だつた。

お金に固執していた訳ではないが、その頃から古銭収集を始めた。近所の四歳上の子が幾つか持つていて、何となく感化されたのが始まりだつた。一冊のホルダーを全部埋めるのが目標で、硬貨で六十二種類あつた。当時は友達に貰つたり、少し長じて大丸の確か四階だつたと思うが、古銭売り場があつて、そこで買つたりしていた。

四十年以上ほつたらかしてはいたが、自粛生活が続く中で何となく復活した。今はネットで見ると無数に出品されているの

第28回 川柳塔まつり (70)

同人総会・おはなし・各賞発表・記念句会

愛染帖 (90)

檸檬抄「一度」 江島谷勝弘・永見心咲共選 (94)

一路集「粒」 成田雨奇選 (98)

「叫ぶ」 奥田由美選 (99)

初歩教室「紙」 水野黒兎 (100)

川柳塔鑑賞 藤井智史 (102)

水煙抄鑑賞 西田美恵子 (104)

せんりゆう飛行船<sup>⑩</sup> 新家完司 (105)

インスピレーション・ナビ 印象吟 大西泰世 (106)

柳界展望 (108)

各地柳壇(佳句地十選/米田恭昌・大内朝子) (109)

十一月各地句会案内 (122)

■編集後記(ひとこと/板山まみ子) 道夫・眞澄・憲彦 (124)

座右の句

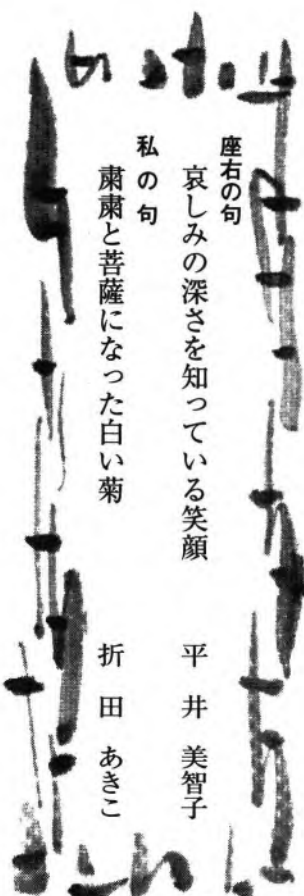
哀しみの深さを知っている笑顔

平井美智子

私の句

肅粛と菩薩になった白い菊

折田あきこ



で、簡単に手に入る。が、問題もある。人気があるのは明治一円銀貨なのだが、これに限らず偽物が結構あるのだ。一寸齧った私のような者を狙って、迷わず買ってしまおうような巧妙な物を作るのだ。現物を手に取るとまず見た目の違和感がある。色合いが何となくおかしい。決定的なのは材質で銀ではないようだ。カタログと比べて軽いのですぐ分かる。出品者は写真付きで、寸法・重量・コメント等載せていて「納得の上ご購入ください」とある。後で文句が言えないようにしてあるとも思える。それでもダメ元を承知で、三千元で一円銀貨を購入したらやっぱりダメ元であった。製造者は材料とかプレス機とか揃えねばならず、この贋金作りは還付金詐欺と一緒に、深い闇があると思った。

一方、一般者からの良心的な出品も多くあり、中には数百円というものもある。送料は出品者持ちなので儲けは無いと思う。切実な思いからか、売れる喜びなのか分からないが、現物が行方不明というのもあったりして面白い。

ホルダーは、あと一枚埋まれば目標達成なのだが、二十万円の「貿易銀」には手が出ない。



小島蘭幸選

大阪府 高杉力

諸行無常知るか知らぬか街スズメ

通行人Aを死ぬまで演じよう

愛なのか野菜ジュースは甘くない

暇になればやりたいことを箇条書き

世知辛い街だ斜めに渡り切る

弱き者たちよ汝の名は男

堺市 栗原道夫

秋来たる水屋箏笛の青磁の青

秋桜がこころの弦をかき鳴らす

雷鳴にもぞもぞとするぬいぐるみ

島の園児の唄が聞こえる旅ごころ

金銀の涙 童話のお姫様

微光いざ十二神将出陣せよ

松江市 石橋芳山

ラッキョウと同じで本心は明かさず

憂いとも味噌ラーメンは売り切れた

書き順の違いか夜がまだ明けず

取り返しつかない自販機の出口  
空っぽの頭七分ほど茹でる

長いことほったらかしの俺の空

藤井寺市 鈴木いさお

秋ひと日古都逍遙の老いふたり

お爺さんと呼んでくれるな老婆さん

わたくしの三十代へアンコール

前科なし賞罰もなし無位無冠

別々のメニユー選んで半分こ

鶴彬と私の母は同じ歳

今治市 永井松柏

一時間歩いてリズム整える

負けたけど楽しかったと孫の声

オートマは嫌いマニュアル車で通す

ごりごりの正論居士でござります

マニュアルが愛想笑いをしろと言う

現状維持であれば是とする勢力図

松山市 大内 せつ子

空っぽになるまで思いっきり笑う  
手が触れるあたりに嘘っぽいおまけ

多面体ごくごく普通ですわたし

大吉引いた小っちゃな石に躓いた

習ったとおり舞っていますと合歓の花

この眉月に合い鍵ひとつ預けます

大阪市 平井 美智子

痛いところありませんかとくる電話

泣きやすい部分を袋縫いにする

乗り捨ての自転車がある駅の裏

座る場所見つけきれないまま日暮れ

夕焼けを集めて明日を組み立てる

秋の夜の月の匂いを浴びている

大山市 金子 美千代

一日が終わる暑さに溶けていた

まだ出ないグレーヘアーにする勇氣

ダイエットの決心させた衣更え

バランスはバッチリ手抜き料理だが

雷を突っ切る郵便のバイク

水木ワールドの懐の深さに嵌る

松江市 藤井 寿代

人生まだまだとマイク離さない

恋する気力だけは誰にも負けない

娘・孫・私・少女に戻る女子会

アイメイクばっちり肩にサロンパス  
水分が足りません 私にも夫婦にも  
毎日が日曜伸び切ったおソバ

西予市 黒田 茂代

遠からずわたしに訣れ待っている

さわやかに介護疲れを癒やす百合

まだ医者是要らぬおしまいまで拒絶

卒寿でも記憶力だけは確か

生ききった夫の小さな骨拾う

枯葉散るようにあのひとは逝った

藤井寺市 太田 扶美代

惣菜にはいつつも祈り込めている

賑やかな窓を覗きに来た天使

願い事三つ巾着に入れている

四捨五入小さな事は言いますまい

時々尖る時々丸くなるハート

男の空女の空も今日は晴れ

大阪市 江島谷 勝弘

アホなこと喋って楽し飲み仲間

いつになったら飽きるのか生ビール

納豆が嫌いだなんてあり得ない

川雑で豆秋さんを読み耽る

おもろない言訳ばかり政

アホだつせ原発神話再稼動

松山市 栗田忠士

青空に父の帽子が吊つてある  
ことごと私を叩く秋の風  
どんぐりが夢見た千年の大樹  
生きてゐる今を楽しむロスタイム  
さよならに表と裏の顔がある

松山市 宮尾みのり

外出着三十年もよそ行きで  
医師の顔はつきり知らぬ歯科の椅子  
判官最良鎌倉殿が姦しい  
一抜けて二抜けて先の無い無聊  
安心を確かめ合っている受話器

松山市 柳田かおる

値段ばかり気になるシャインマスカット  
アドリブは苦手なんです蝸牛  
カーナビのいけず右折をくり返す  
昔がよかつた百日紅のピンク  
本当のわたしが見える向い風

西予市 西田美恵子

同じだよそこで笑つてしまつたら  
このままがいいね何となくシアワセ  
一緒には逝つてあげられなくゴメン  
ソーマンにするかと二人だけの昼  
コーヒーの温め直しのような恋

土佐清水市 辻内次根

自虐ネタいざれ笑えぬ時が来る  
送り火を焚いて聴いてる虫の声  
長居をしてくれる蜻蛉が一匹  
硝子に映る自分を見てびっくり  
来ない日の郵便受けをまた開ける

阿南市 小畑定弘

ほんとうに貴女が押した削除キー  
風流に生きてはいるが質素です  
告げ口の好きな金魚が浮きあがる  
半額のシールへ恥じることはない  
字余りのボクの尻尾を切らないで

東かがわ市 川崎ひかり

明日への夢は大きく丸く画く  
旨いもの食べて笑つて日を送る  
乗り切れぬ事はこの世にない筈だ  
断捨離を済ませ身軽な鳥になる  
侮れぬ九官鳥が抱く謀反

北九州市 小松紀子

八十二少しつかれた影法師  
話すことかみ合わんネと息子は苦笑  
つかず離れずこの距離が心地良い  
量はへりまたまた値上げ日々不安  
星ふる夜亡き子想えば逢いたくて



唐津市 坂本 蜂朗

懸命に父母を支えて悔いはない  
年ごとに前へ前へと傾斜する

どっこいしょ今日も吾が身にねじを巻く  
ライバルが出来いい歳が燃え上がる  
相応に老い酒だけはまだ旨い

唐津市 山口 高明

後光背に微笑み賜う阿弥陀さま  
席譲る児童に心洗われる

床の間で異彩を放つ平家琵琶  
妻からは遊び太郎と呼ばれてる

あちこちに派閥輪に成る酒の席

札幌市 小澤 淳

力こそ正義2パーセントは常識か  
生きている歩く姿は草書体

風評にケチを付ければ背が寒い  
妻介護われ張り詰めた日々があり

核を持つ国が隣で寝不足だ

黒石市 石澤 はる子

欠点を丸ごと晒してから無敵  
人混みでふいに孤独に襲われる

宅急便里の味覚の玉手箱

苦も楽も溶かし込んでる笑い皺

村度が染みついていて舌の先

黒石市 北山 まみどり

耳奥にこだましている祭り笛  
脱ぎ捨てた浴衣に秋の風らしき

手も足も踊りつかれて他人事  
思い出のひとつにどうぞラムネ玉  
しみじみと昼の花火に見送られ

弘前市 稲見 則彦

フォークダンスじつとり濡れた背の記憶  
マジックの種を撒いたが芽が出ない

買いためた切手の価値はそのまんま  
五十年前のLP心地よく

痒い背に届くわたしの鯨尺

弘前市 今 愁女

秋の月拝みたくなる崇高さ  
ウクライナ戦コロナ治らぬ地球から

人類は宇宙旅行の夢あるが  
夢は夢物価値上がり暮らさねば

八月の大雨被害りんご農

塩竈市 木田 比呂朗

庭先で昔はできた落ち葉焚き  
予定表いつものように慌て出す

晩秋と初冬を分ける光熱費

年金増額の通知ゆめだった

コロナに突かれる我が家の危機管理

横浜市 川島良子

流行へわたしも乗っていたコロナ

4回目接種に意味はあったのか

買物天国ニッポン円安への加速

躊躇した冷凍野菜に助けられ

宗教との絡み 国葬への疑問

横浜市 菊地政勝

第七波医療崩壊地獄編

歴史的快拳健在二刀流

自粛慣れ脚の老化に気がつかぬ

玉子かけご飯を孫に教えこむ

西暦の回顧へ脳が動かない

上尾市 中村伸子

夕焼けを見る番組にめぐり会う

喉の痛み少しの熱にも脅える日

誕生日クラシックのリクエスト

同姓同名恩師と同じ人に会う

免許返納行けなくなった店 銀行

朝霞市 前田洋子

白河関越えた越えたね優勝旗

孫は塾その間も友は来て遊ぶ

過疎地帯五人家族はたからもの

芸能人は処罰されます 議員さん

次の選挙入りたい人が居ますよに

越谷市 久保田千代

空白の手帳に自分問ひ続け

まだ少し悔いを残している妥協

しあわせか私に問うてしじみ汁

音は流れて人の心を豊かにす

気がつかぬ間に瘡蓋が落ちていた

東京都 川本真理子

散歩道キミの代わりは見つからず

人間にも欲しい換羽期換毛期

まずは優先それぞれのマイペース

結論らしきもの欲しくなる秋の暮れ

老母はもっと寂しいだろう風を聴く

八王子市 川名洋子

辛いことホットココアが慰める

まっすぐに歩いていけると安堵する

せめてもと元気な声を古里へ

だとしても命削って日々送る

いい話気づけば涙ポロリ落ち

可児市 板山まみ子

エアコンをつけっ放しの電気代

糠味噌に漬けるとランク上がる茄子

もう飽きた炊事係を半世紀

運命のままに生きて来これからも

真実を話せないので政治家に

愛知県 早川 遡行

時代劇さえ見ていれば足る老後

脇役があつて主役の太刀裁き

団栗はドングリなりに生き悩み

ビールが出たからと油断するでない

契約するのには妻の許可が要り

名古屋市 山本 三樹夫

憂うつな世界情勢明日如何に

晴天に新しい靴相応しい

その国の大統領の質を問う

政治家に堪忍袋持つてゐる

古い札人の苦勞が染みている

犬山市 関本 かつ子

五年前の顔は生き生きスポーツ

順調な稲穂喜ぶスニーカー

男にも化粧いるのかコマージュ

高齢化嘆く私もそれなりに

やっぱりな嬉しい電話クラス会

大阪府 米澤 淑子

私の顔を知らない私の背中

健康手帳私の弱味知りつくす

好奇心チョッピリならば持つてゐる

おばあさんらしくない古い服を着る

ゆっくりしてと亡夫がくれた私時間

大阪市 東 敏郎

赤ん坊涙いっぱい溜め笑う

誘われて行つた飲み屋で自腹きる

終活の始める時期をまた延ばす

絵手紙に「うふ、」の一句書き添える

花粉症と診断されホツとする

大阪市 石田 孝純

地下鉄の今日もスマホの競技会

俺に訊くなスマホに訊けば全部済む

比例するスマホ進化と脳退化

ポチの葬儀知らせるメール写真付き

スマホより辞書めくつてる指が好き

大阪市 磯島 福貴子

円安加速舶来物は買い控え

旅行解禁先ずは先祖の墓参り

露とウクライナ馴れっこになる恐ろしさ

過失で済まぬ園児置き去り非業の死

勞厭わず善を一日一つ積む

大阪市 井丸 昌紀

夕立は天からお湯が湧く如く

錯覚が覚めないうちに逝くつもり

とうさんは許しかあさんは許さない

海の青空の青より濃く深く

愛想笑い得意な人の生欠伸

大阪市 岩崎 公誠

ヘルパーのやさしい言葉馬力出す  
月末に少し余裕でほっとする  
飽きもせず酒一滴にしがみつく  
発端はコロナだったと逝つた人  
仲間からはぐれた男石を蹴り

大阪市 岩崎 玲子

半端ないコロナ猛暑の二刀流  
台風のサイズ聞く度恐ろしい  
孫帰りやっこ老いのリズムなり  
ふるさとの三年ぶりの笛太鼓  
ふるさとの送り火見られ安堵する

大阪市 内田 志津子

豪雨には罪ないけれど野菜高  
ピーマンの緑ますます好きになる  
壺印鑑めしの代りになりもせず  
穏やかな日々であつたと父母が  
カタンと郵便受けに恩師の声

大阪市 宇都 満知子

月見草きょうも私が見届ける  
スマホ首見上げてごらん十三夜  
またすこし背丈縮んで亡母に似る  
ユニホームいつも繕う左膝  
背番号一桁になり付け替える

大阪市 榎本 舞夢

骨折の長いトンネルやっこと抜け  
テレビつけ異常気象に気が重い  
甘える頑張る年寄り夫婦匙加減  
三キロ減先ずは体力筋力を  
世の中が大きく変わる予感して

大阪市 大川 桃花

類張つた柿の葉ずしへ法師蟬  
取残された中洲で鹿の肝つ玉  
新聞の音読脳に活入れる  
熱中症と膝の痛みを天秤に  
母の遺影伏せて着物の処分する

大阪市 大沢 のり子

掛け合いは得意のナニワ女です  
思春期の娘には我慢の母でした  
今日もうたた寝ふた駅も引き返す  
セールスは断り役の妻を呼ぶ  
バスが来た真っ直ぐ並ぶ園児たち

大阪市 奥村 五月

シェフですがまだまだ遠い母の味  
美しい花火が極暑やわらげる  
プーチンとコロナ忘れて寝てみたい  
二日酔酒よりうまい朝の水  
父の里母の里とが甲子園

大阪市 小野雅美

泣けるだけお泣きなさいと言うタオル

削りすぎに注意ハートも鉛筆も

便箋と切手買い置きしてるのに

ハードルをくぐる人生ばかり選る

現実を忘れて浮いてくる腫

大阪市 笠嶋恵美

造花でも元気をもらおう好きな花

買ったクツ玄関に合いいルンロンよ

運動靴買うて気分が若くなり

青空も雲も楽しやビル谷間

急な雨後に大きな虹を見せ

大阪市 川端一步

六十年ぶり恩師の手紙読み返す

絵もいいが魁夷の文に惚れました

ロシアのテレビ大本営とそっくりだ

藤井五冠の棋譜を並べて謎が解け

絵の知識ないが大好き美術展

大阪市 古今堂蕉子

白黒に分けて諍い助長する

酒癖の悪さで無くす名誉・金

我ままに生きていいよと言われても

子や孫の事光にする自縛癖

迷ったらコスバ最高ハンバーグ

大阪市 近藤正

憲法を守り豊かになる暮らし

国葬も女王とアベは格違い

百年の苦難の歴史今に生き

核の傘だのみ居場所のない日本

ずぶずぶの自民カルトの深い仲

大阪市 坂裕之

何事が起きても不思議ではない世界

誰だって平和に暮らすのは好きだ

手助けをして頂いて乗り越えた

捨てるよりきっちり直し使い切る

楽しみは明日に回し仕事する

大阪市 阪井恵子

あと何度会えるだろうか老いた母

熱のある額覚える父の指

退屈な今日に予定のない明日

ゆく夏を惜しむカランとソーダ水

美化された記憶でさえも愛おしい

大阪市 高杉千歩

着替えてな寝てなと施設ご親切

割り箸が自分で割れた朝ごはん

寝て起きてスマホゲームに夢中です

お仏壇ほったらかして施設です

優しさに負けて甘えて車椅子

大阪市 田中 廣子

大阪市 寺本 実

コスモスの迷路で遊ぶ園児たち  
送迎バス園児置きざりなさない

お彼岸に孫連れ嬉し墓参り

法話聞き心ひきしめ家路つく

ご先祖を思っついつも生きている

大阪市 田中 ゆみ子

わがままで媚びない猫を飼っている

頑張つて傷つくことも恋の妙

恥ずかしいものか男にも涙

歩数計地球一周できるかな

残されて空を見上げる日々なりし

大阪市 谷口 義

マスクしてみんな真面目な顔になる

趣味のない男にもこだわりはある

地方巡業も面白そうではないか

ええ歳をしてと言われることしてる

フィリップ殿下の杖について旅立たれ

大阪市 津村 志華子

仏間でチン レンジのチンで恙ない

いい恰好したくて今日は美容院

みそ汁は淡め煮物は柔らかめ

粗衣粗食分相応のくらしです

老い先をつくづく思う夜のしじま

国葬でもりかけサクラ始末する

ジュースしか飲めず割勘なんですか

幸せと思えば愚痴も出なくなり

遅れたら酒乱の人の隣席

アサガオを数えるここは平和です

大阪市 中井 萌

病む地球笑つて見てる異星人

感謝のみ五臓六腑の自助努力

職を辞し新たな旅の羽繕い

築百年ここが私の秘密基地

欲捨てた言った端からサブリなど

大阪市 原田 すみ子

歯列矯正もつと笑顔を咲かせたい

斜めに向き合う視野の中にはいる

ゆらゆらと定まらないが転けもせず

光るもの付けてもわたしはおんなじ

母のよに仏壇にまた話しかけ

大阪市 平賀 国和

子等の声老いた団地を刺激する

「にほんごであそぼ」に貰ういい刺激

子供達に教えてもらおうデジタル化

地獄絵図なぜに侵攻ロシア軍

七十七年平和な日本ありがたい

大阪市 降幡弘美

不審者に毎回みえる免許証  
バンドラの箱開けるよな子供部屋  
謎の文字つづつた深夜書いたメモ  
リバンドした体重と部屋の中  
夜店から魅惑の魔法かけられる

大阪市 宮崎シマ子

友達に裏も表も見せておく  
長風呂を扉を開けて覗き込む  
句会日なのにホームが外出をとめる  
コロナの街を人は楽しそうに歩く  
夕冴えて耳にささやく秋の声

大阪市 山本加お里

父母よりも長生き年忌つとめあげ  
名月の今宵会いたい人ばかり  
ご先祖に見守られながら生きている  
無理は無理夫の介護もう一度  
旅行好き自己責任で行きなさい

大阪市 横山里子

未知の老いひたひた寄せる誕生日  
いいかげんに生きれば楽とヘルパーに  
過去は過去変えられないと知りながら  
読み返すこともない本捨てられず  
清貧でかの教団に狙われず

堺市 今井万紗子

亡母を追うひまわり畑出られない  
友は逝きリングが届く息子の名  
物忘れ淋しいけれど受け入れる  
月も泣いてるマトリョーシカも目に涙  
まだこの世只今スマホ格闘中

堺市 柿花和夫

母帰宅妻は突然いい嫁に  
我ながら扱いにくいのは私  
票になる集まりならばどこへでも  
ハンドルを右へ切るのか自衛論  
枝豆を剥いて小言に耐えている

堺市 源田八千代

選手のみならず正堂堂と  
火のない所煙立たずやつぱりね  
「お早よう」と「おやすみ」曾孫の写真へ  
現状の儘で行きたい米寿まで  
皆の無事祈る十句観音経

堺市 齋藤さくら

ウクライナよくぞここまで頑張れる  
他人には穏やかそうに見える  
勝ち負けで決める人生味気ない  
ハキハキと物言う人にあこがれる  
可哀想同情されるのも辛い

堺市坂上淳司

貝塚市石田ひろ子

配達日減って速達料嵩み

メールより声の便りが欲しい古い

家族葬に儀仗隊が立つ不思議

国葬に首を傾げる民数多

国葬を止めよと官邸囲む民

堺市澤井敏治

打ち水をして涼よんでいた昭和

逃げ水がおいでおいでの遍路道

斜めから撮ってもシャボンとせぬ背中

コロナコロナ空咳ではとれぬ小骨

秋ですよとつづぶやき出したちちろ虫

堺市内藤憲彦

いつもの椅子座って暫し梅雨晴れ間

大きな声で小銭を返すセルフレジ

そそっかしい妻が我が家の潤滑油

お久しぶりマスク外してする会釈

錆びてきた脳へ刺激の五七五

池田市太田省三

お湯割りは早く酔えるがすぐ醒める

偏食の癖をあらわにバイキング

一駅ずつ普通列車は時刻む

買い置ききの電池の数を確かめる

二期期だ一気に来るぞ受験の日

夕立ちに両手広げる植木鉢

八十路越す女の見栄の眉を描く

お互いに歳は触れずに趣味仲間

スーパで会う女医さんの主婦の顔

お元氣と確かめ合ってゴミ出し日

河内長野市大島ともこ

つい本音話してしまいう聞き上手

必要か否か見極めこそがエコ

氣まぐれに森に分け入り畏怖を知る

氣だるい午後背筋伸ばせと赤いバラ

高くはないが平らな顔を締める鼻

河内長野市梶原弘光

わたしとお酒どっちと問われ口ごもる

びっくりマーク感情込めてふたつ付け

手前みそ苦もなく聴ける丸い耳

今日もまたスマホで覗くオリックス

国護る氣概を持って吠える老い

河内長野市木見谷孝代

上皇の無念の思い歌碑に見る

上皇の腰掛石に掛けてみる

後髪引かれながらも去る故郷

生き甲斐としんどさ天秤にかける

涼風に熱いみそ汁欲しくなる



河内長野市 黒岩靖博

内緒だと頑固親父がのし袋  
昭和から乗った風船現在地

やはりまだ老人ホームいやと妻  
横文字に社名を変えた三代目  
点と線むすぶ星座にあるロマン

河内長野市 中島一彌

フレイルと認知が忍び寄る後期  
いい加減節制しろと言うベルト  
普段よりいい物食うとこわす腹  
コロナ禍でページの減った求人誌  
抜け目ないお節の予約まだ残暑

河内長野市 藤塚克三

やり込めるプランを胸に妻とお茶  
惚けたのか本音がすつと出てしまう  
生き様が普段の顔を変えていく  
不都合を水に流せば汚染する  
好きにしたら勇気をくれた友の声

河内長野市 村上直樹

久しぶり心ぶらに酔う人に酔う  
妻のムニヤムニヤきつとウナギを食べた夢  
空咳三つもう勘弁というサイン  
書き溜めた勇気産み出す至言集  
自在変化いよいよコロナ座り込み

河内長野市 森田旅人

背伸びして掴む小さい私です  
表彰台八十路にであう初体験  
冒険の赤に挑戦さあ一步  
緊張の受賞八十路のピンヒール  
よかったね僕を肴に受賞かと

岸和田市 雪本珠子

夫婦でも心のシグナル読み取れず  
笑うこと少なくなつた老いの坂  
美人じゃないが会話で人を惹きつける  
未熟でも持つております人間味  
歌声が聞こえてきそう娘の遺影

吹田市 太田昭

国民のためと言うから嘘になる  
3密で食い縛る歯も減つてゆき  
寂しくて小さな嘘を吐きにゆく  
しがみ付くために握力強くする  
自分史のドラマを少し化粧する

高槻市 片山かずお

日曜日八十路もやはり朝寝する  
時々補聴器外し耳休め  
アラームの前に目覚める日が続く  
コロナ籠もりで3桁どまりの歩数計  
手慣れたこともイヤイヤやればミスが出る

高槻市 島田 千鶴子

豊中市 上出 修

夏木立合葬墓地に雨無言

ユニホームの泥熱戦の証だね

みな笑い絡んだ糸が解れだす

風立ちぬ隣のあの子もういない

赤い実に秋のスタート告げられる

高槻市 初代 正彦

ウイズコロナ如何に暮らそう鬼灯よ

ふたりとも懐メロ好きと言うことか

三年も経って得たもの棄てたもの

ユニークな案山子に会釈して散歩

路地裏の吐くエアコンのぬくい風

高槻市 富田 保子

夏休み孫が来てくれ老看護

もう一度夫と散歩車椅子

泥付きだこれぞ安心無農薬

とつときの明るい顔で川柳を

厳しさがまだまだ続く老い暮らし

高槻市 松岡 篤

ここだけの話あの人なら出来る

お茶しよう散歩の夫婦目で語り

気まぐれな台風夫とよく似てる

集まるか一寸待とうを繰り返す

無人駅伝言板に蜘蛛が巣を

今だけと言われ慌てるテレシヨップ

天敵の顔見ただけでもうあかん

公約は万歳したら過去のもの

コロナ禍の帰郷早々Uターン

風見鶏どちらを向くか思案中

豊中市 きとう こみつ

トランプ氏機密文書もなんのその

たつぷりと田舎の空気身にまとう

へらへらとして心の中をさとらせず

むしろくしゃする時に私は鍋磨く

GoToトラベルいまかいまかと待っている

豊中市 藤井 則彦

三度目のチャンスを狙う泥まみれ

良い記憶に背中押されて前を向く

家籠りで分かった昼のいいテレビ

黄泉に居る作家ほど読みたくなる日

遅刻した人の言い訳ふとメモる

豊中市 松尾 美智代

二人が柱一人欠けると転ける家

百日紅咲く娘ざかりの華やかさ

五時半起き夜は八時に眠くなる

夫婦でも時には芝居する茶の間

巣籠り三年新しい服買ってない

豊中市 松田 蟻日路

きっぱりと拒否してあげるのが情け

助けてやった亀は特定外来種

一席持つ話ぐらいいは聞きましょか

弱いなりに歩いていきます穏やかに

妻元氣うらやましいありがたい

豊中市 水野 黒兔

旨ければ酔いも甘いも選ばない

贈り物に添える一句に味がある

花の寺ついに仏像拝まらずに

卒寿白寿次第に童へと返る

米寿へと手探りつづくみぎひだり

富田林市 中村 恵

向上心磨き続けている疲れ

主婦の仕事報酬は家族の笑顔

屋台で飲んでいる父さんの背中

玄関ではと安堵の息を吐く

彼岸への案内役は千の風

富田林市 山野 寿之

妻が病み家事のしんどさ有り難さ

子育ての歴史が匂うおもちゃ箱

さつと来てさつと選んで桃を買う

キリギリスからコオロギへ移ろう季

人間の生活を変えたコロナ以後

寝屋川市 川本 信子

全山紅葉宇治川の絶景

大柄の夫ちっちゃな白い骨

生と死を見詰め直したコロナから

甘露煮が上手く炊けたら暖簾継ぐ

折れ線グラフ熱中症でダウン

寝屋川市 伊達 郁夫

夢追った時に何も立ってない

あつ花火ところに響く故郷の音

その時を知っていたのか落ち椿

良く噛めば私の味が分かります

近づけばだんだん遠くなる彼岸

寝屋川市 富山 ルイ子

警察の厄介ならず子等古稀に

嬉しさは近況を知る友の文

娘の言い分信用をしようたがわず

痛み押しして食事の支度娘がしてる

何もかも値上り暮らしにくい世に

寝屋川市 平松 かすみ

漫才の相手が逝って七回忌

だんだんと好きな人になる七回忌

レトルトの食品届く十日分

見ただけで食欲無くす加工品

三食で喋る元気をつけている

寝屋川市 廣田 和織

小皿たたくとふる里の唄が出る  
猛暑に耐え小さい杖を探してる  
開発に消えてしまった地蔵様

うちの猫も診察券を持っている  
スーパールのピザで今夜はイタリアン

羽曳野市 磯本 洋一

へそくりもスマホが暴く我が家では  
老人会アルバム開き皆若い

流れ星願いが多くもごもごと  
通院中禁酒禁煙禁塩で

ベートーヴェン運命を聞く米寿前  
羽曳野市 宇都宮 ちづる

孫と解くつるかめ算に頭痛する  
冷蔵庫食品ロスに加担する

鍵っ子の孫を見兼ねておさんどん  
満願の経読む声が弾んでる

メール来て手っ取り早い電話する  
羽曳野市 徳山 みつこ

ああ幸せよ新米の朝ごはん  
耐暑耐寒食べて動いてよく眠る

わたくしの癖を教えて下さいな  
人間を探す瓦礫を掘り起こし

心にはいつもごめんとありがとう

羽曳野市 藤原 大子

できる事捜し喜ぶ歳になる  
興奮が制御不能の口にする

広告に目を通すのも呆け防止  
年頃の孫に緊張して喋る

やっ与会える病の友へ寝つかれず  
羽曳野市 三好 専平

戦争の飛び火が怖い世界地図  
すぐ投げる癖が囲碁でもぬげきれず

ソロバン塾廃墟となって草しげる  
がんばって止められるものではないお酒

国葬と決めた首相は虐められ  
羽曳野市 吉村 久仁雄

平和へのつぶやき神が聞いてくれ  
プラス思考他には生きる術知らず

斜め読み知ったかぶりで世を渡る  
子育ての緩さがタフな子に育て

地球の未来思うと心電図が乱れ  
東大阪市 北村 賢子

ああコロナ令和五年は如何になる  
マスクしたままでコーラス フラダンス

旅番組見て想像をふくらます  
お月さま私も傘寿になりました

テレビからおせちおせちと気ぜわしい

東大阪市 佐々木 満 作

量減らし値上げ抑えた打開策  
東京五輪エゴが渦巻く舞台裏

要支援要介護とは未だ無縁

若者よそこはシルバースhirtだよ

孫からの祝い6B一ダース

東大阪市 西 村 哲 夫

犯罪と知らずに欲が暴れだす

エゴイズムモグラたたきにして候

誕生の顔はおそらく天才児

真実が見えず閻魔が泣いている

眠られぬ日々のくらしも飽きてきた

枚方市 谷 英 也

大木とて見えない風に倒れます

カッコつけ手品を披露すぐばれた

まだ呼ぶなこの世に未練八十路です

山なみをいくつ越えたか古希の坂

マスクして声かけられて君の名は

枚方市 丹後屋 肇

中秋の名月乱視双つ観る

浜風に背中押される初ホームマー

諸企業のメールが届く信用度

身辺整理促すヨメの好かんだこ

遺言書改めている離れ小屋

枚方市 栃 尾 奏 子

とどかない想いは深くなるのです  
触れられぬ月はこんなに近いのに

吾亦紅ワタシも変化しなければ

ムーンライト女は生まれ変わります

母さんも妻も娘もかぐや姫

枚方市 藤 田 武 人

キヤッシュレス使えぬ店にある情け

一瞬でミクロの違い見抜く指

コンニャクを食べて議論に参加する

ありふれた話が弾むカウンター

柵を漂白剤に浸けてみる

藤井寺市 鴨 谷 瑠 美 子

ぶたの蚊取りまた来年も出すつもり

気分が盛り上がりつつらぼうになる

顔洗った瞬間に目覚めるわたし

絵手紙を書きたい夢を持っている

夏が過ぎ秋が来たらと引き伸ばす

藤井寺市 吉 田 喜 代 子

白鳥も私も一人遊歩道

朝歩き誰も居ないがおはようさん

コロナウイルス隣組まで攻めて来た

私より若い友の死聞く夕べ

園児死になんでなんでと慟哭す

箕面市 大浦 初音

自転車に乗ると背筋が伸びてくる  
定年後好きな処で暮らそうと  
四十年住んで地に根が生えました  
プロ使用と言われ道具に使われる  
せっからは幾つになれど治らない

箕面市 酒井 紀華

めりはりを利かせ一日を使い切る  
枝豆とビールがうまいひとり宴  
豆知識ひとつ覚えた孫の笑み  
なんとかなるさ魔法の言葉もっている  
足の爪切ってくれる人さがします

箕面市 出口 セツ子

子の事件見るたび怖くなってくる  
よく無事に育ってくれたと子に感謝  
要領よく次男は欲しい物ゲット  
親らしいことはできぬが愛してる  
孫切望しても結婚せぬ息子

箕面市 中山 春代

バスを待つ小さな風の通り道  
公園を掃除たったの三百歩  
秋日和まだあきがある予定表  
自粛なお菓子を持ちよる秘密基地  
四時に目がさめる私のDNA

箕面市 広島 巴子

芋堀りの子らの歓声天高く  
秋風に思考回路が動き出す  
値上がりにはまずは断捨離延期する  
とまどうな敬老会の御招待  
胸キューン翔平聡太我が孫よ

八尾市 村上 ミツ子

頭の中もからっぽになったよう  
いらんこと考えないでのんびりと  
考えてみたってたかが知れている  
きびしい夏もあともう少ししんぼう  
名月を愛でるきもちがわいてくる

神戸市 上田 和宏

元氣だよただそれだけの良い電話  
プライドを支え続けている散歩  
戦後期を祖母が育ててくれました  
不都合なことは忘れてよいのです  
迷惑を振り撒かぬよう家に居る

神戸市 奥澤 洋次郎

ほっこりと気持が通う塩むすび  
つくづくと阿呆やったわ人生ゲーム  
入院仲間楽しかったと交流会  
消えてゆく固定電話のベルの音  
反対多数だが税金でする国費

賀状欠礼思い巡らし字面追う  
神戸市 輿水 弘

老いの一年しみじみ落ち葉見つめたり  
口は元氣テレビに喋り今は友  
さぶちゃん節に成り切り唄い今日の締め  
愚痴ボヤキ転がし混じりいい笑い

神戸市 近藤 勝正

くやしいが信頼薄らぐ日本製  
国産の文字とプライド薄れゆく  
政界に踏み込み乱す統一教  
政治家は擬似餌にすぐに食らい付く  
ワイドショー足向けられぬあの教団

神戸市 斎藤 隆浩

隠すから探したくなるあれやこれ  
巢ごもり中MからLにどっしりと  
酒は灘山は六甲湯は有馬  
お賽銭願いやつてからにする  
割り勘で何でも言えるお付き合ひ

神戸市 敏森 廣光

ゆっくりと歩け動けと妻が言う  
ほんまやろか医師が言ってる太鼓判  
はかなさとしぶとさ宿る余生です  
新しいジーンズ買ってやる気です  
子は宝もつと大事にしましょうよ

結局は君につながる道でした  
川柳が優しさくれた自爾中  
神戸市 富永 恭子

そうだねと肯定すれば済むと言う  
かけ蕎麦がしあわせでした夢見てた  
船はもう次の港をめざします

神戸市 能勢 利子

合い服の出番なくなる温暖化  
早朝は気持ちだけ風吹いている  
彼岸花咲いたら秋と認めます  
暑くても夏服はもう着れませんが  
少しずつ日本の四季が変わり出す

神戸市 松倉 正美

孫去つて障子繕う古い二人  
円安をだしに使つて値を上げる  
票の為あの教団を利用する  
村上に食指が動く大リーグ  
寂寥感残して夏が去つて行く

神戸市 山口 光久

誰にでも自動扉はすぐ開く  
妻と母どっちの肩も持ちません  
ストレスを解消します大ジョッキ  
病弱な母を支える父がいる  
子育てを終えて女は姦しい

神戸市 山崎 武彦

尼崎市 近兼 敦子

母となる夢がたつぷりマタニティー  
悔しいがこの先言えば愚痴になる  
わたくしが居ないと駄目な夫です

究極の武器はあなたの涙です

誰のための国葬ですか総理殿

明石市 糀谷 和郎

不確かな今日も始めるルーティーン

いつだって尺取り虫の歩で進む

言いわけの上手さツルリと玉子むく

ひとつぐらいみんなあるだろ武勇伝

ありのままの私に戻るひとり旅

芦屋市 竹山 千賀子

友が来る今日は朝から日本晴

10年振り少し派手目な服で待つ

思いつきのグラス並べて独り言

寺の門くぐると聞こゆ亡夫の声

一人が好き拗ねているんじゃない

芦屋市 新阜 義明

哀れやな医者患者を選べない

白黒を付けずばかしてこれからは

どっちなやねん老化早める肉はいい

嗚呼ジヨッキ水分補給成らずとは

虎が負け新聞めくるこの重さ

足踏みし歩調がうまく合ってきた

得意料理聞かれて五秒考える

心配性の母には事後報告

週一の電話で無事を確かめる

しかられて伸びるタイプじゃないのです

尼崎市 永田 紀恵

男だから女だからの無い時代

根回しが見えかくれする多数決

先輩と言われ割り勘言い出せず

顔ぶれはいつも変わらぬ三次会

福引きで当たった様な妻と居る

尼崎市 羽奈 和子

消えてゆく光が美しい花火

安倍さんの遺品のようなマスクあり

断捨離の本も重ねて置いたまま

小学校歌今も歌えるすごい脳

山の道足元ばかり見て登る

尼崎市 藤井 宏造

冷酒から温燗にする秋彼岸

ダンボール開けるとふる里の匂い

つべこべ言わず目の前の山を越す

あやとりは勝手に指が動くのよ

宇宙人に一目会うまで死ねません



荒地にも心とらえる草の花

不思議だな近く感じる帰り道

消えてゆく街の昭和と純喫茶

笑えないニュースが一時間流れ

ヨーグルトをひと口飲んで朝動き

尼崎市 山田厚江

手を合わせ三年ぶりの大文字

久々に会った笑顔に皺が増え

僕の育休小さな声で言ってみる

西瓜豊作配り歩いて日が暮れる

面倒をよく見た部下が出世する

尼崎市 山田耕治

皆どうしてるの施設の姉が聞く

いいニュース警察犬に感謝状

ホテル行く話を犬が聞いている

椅子出してくださいました経を読む

うれしい悲鳴補助椅子も足りません

加西市 山端なつみ

国喪でこそ国葬と言えもの

衝撃で人寄り癒着で人離れ

功罪はあろうと弔意表します

愛されていたか評価は死亡時に

国葬で日本国力低下知る

五冊持ち鯛の中図書館へ

丸い背にミンミン蝉のリズムかな

ルーティンこなして帰る渡り鳥

朝供え夕に食する無花果よ

防災の日の訓練の被害増え

三田市 足立つな子

一陽来復春を念じて精進す

ふんばってサアこれからだ正念場

マンネリ化心を起こし夢を追う

お供えは自分の好きな物ばかり

色黒は色白さんに憧れる

三田市 稲角優子

平凡を平和と知った字の重さ

耕して明日の色で咲きましょう

縫い上げて姉とそろいの大文字

流灯ゆらり母の未練か少し泣く

この川を辿れば母のいる辺り

三田市 上田ひとみ

本当にあなたは強いそう思う

あまりにも優しくされてまた泣いた

ばあちゃんもおこりんぼだし泣き虫だ

カレンダー何があろうと止まらない

さあやるぞ声かけてやる私に

三田市 大西重男

割勘と決めて飲んだら早く酔い  
どうするの麻酔が怖い目の手術  
タイガース勝てば飲み会盛り上がる  
カタカナの名前ばかりの薬飲む  
値上げラッシユなんてへいちゃら卵の値

三田市 尾崎一子

暑さ忘れ球児にエール送る夏  
球児だった我が子彷彿してエール  
暑いあつい昭和の夏のアツパツパ  
ナスキウリスイカにトマト里の盆  
涼風がそつとささやく誕生日

三田市 九村義徳

ちよつとだけ離れて見えた世の情  
しがらみを捨てて余生をまろく生き  
人生の最後のピース埋まらない  
想定外あつて人生面白い  
悔るなシニア世代の底力

三田市 住吉美和子

虫の音で眠る贅沢里ぐらし  
秋の気配おしゃれ心が騒ぎだす  
見ため変わらずちよつと体重減りました  
玉の汗かいているのにもうおせち  
水茄子のぬか漬食べて夏がゆく

三田市 多田雅尚

月二回飲んでた友も医者通い  
広がるコロナに小さくなる葬儀  
反論はしないが目では拒否してる  
居酒屋百選見てすすむのはお酒  
是非是非を貫き通す父の背

三田市 中山昭美

採りたての色があふれる夏サラダ  
勘違いしたまま続く良いご縁  
値上りの秋刀魚の顔がよそよそし  
ラブソング昭和の曲が心地良い  
旅みやげ数と予算のせめぎ合い

三田市 野口真桜子

恋に熟れた女の鮮やかな退き際  
女という薄衣をさせる娘は二十歳  
全ての嘘を暴き散るのか蔦紅葉  
よこしまな薄い紅ひく老いの恋  
ヒモ付きの議員半分もいる阿呆かいな

三田市 堀正和

虹が出た予報士さんも嬉しそう  
草の名で宿題もらうハイキング  
無人駅丸いポストがお出迎え  
猿だって露天風呂では目を瞑る  
青い空黄色い小麦守らねば

三田市 村田 博

やつとこさ猛暑に疲れ出たようだ

肘タツチまるで喧嘩をするように

チヨコレート嘔んでは駄目と言われても

卵かけご飯にするか妻不在

可憐なるツルムラサキに絡まれる

高砂市 松尾 柳右子

そうめんへ大はしゃぎの子等集う

蝉の声絶えてワクチン四回目

鮮やかな帽子が揃う送迎車

カラオケも一曲ずつの好い仲間

据え膳へ一直線の八十路坂

宝塚市 丸山 孔一

マイ灰皿持つてベニチの愛煙家

置時計はつと気がつく電池切れ

暑いけど洗濯物に陽の香り

ノンアルを飲んで上戸と共に酔い

他人とは腹に力を入れ話し

丹波篠山市 北澤 稠民

手のひらに稲穂をのせて感謝する

読みにくい名前だけれど覚えられ

裏切られ口に出さぬが顔に出る

鈍感へ錯覚足して老い楽し

美しく老いてひっそり逝くとする

丹波篠山市 酒井 健二

がんばるなあ朝一番のかけ言葉

休肝日開けはすこおし身が軽い

日本のダークサイドが晒される

銃撃よマインドコントロール撃て

カルトとの縁切り本真にできますか

丹波篠山市 藤井 美智子

わが句会八〇〇号へゴールイン

精進の佳句が支えた八〇〇号

詠んできた自分の句史を振りかえる

大切な命もつともつと大切に

プランターひとりぐらしのミニトマト

西宮市 緒方 美津子

九月の表紙力強さが湧いてくる

スイッチはオンより忘れやすいオフ

元部下の下で働く難しさ

へこたれぬ老いてもペンで勝負する

日日自粛生き生きしてる庭の花

西宮市 亀岡 哲子

萩の公園桃の公園あり散歩

主治医まで歩ける足のあつて秋

まほろしのような家族となりコロナ

六甲おろし歌える日までまず生きる

ご近所の長老へとは成りおかせ

疎まれてもさもうまそうに吐く紫煙  
西宮市 西 口 いわゑ

曾孫たちのマスクの顔も可愛らし

一冊の本と時空を超えている

ああ夕日予期せぬ人の計が届く

りんどうが仏花に混じる秋立ちぬ

西宮市 福 島 弘 子

三年振りねぶた故里しきり恋う

仏壇の抽出しの奥亡母の鈴

頑張つて成人式の孫を見る

株上がるゴーヤにきゅうりプランター

お隣もそのお隣もホーム行く

南あわじ市 萩 原 狸 月

溝の幅ためらう老いと跳ぶ若さ

若いねと言つて欲しくて背を反らす

先端を走る必要ない老後

貧相も膝にやさしい功德あり

CMに太る葉のない不思議

奈良県 安 福 和 夫

脱炭素空の青さが戻るかも

青い空戦火で汚す国がある

露の民よ妄想狂のボス降ろせ

攻撃が続くとロシア没落す

修行した武道の心思い出せ

温暖化地球の悲鳴ひどくなり  
奈良県 谷 川 憲

核兵器廃絶言えぬ被爆国

電力危機また原発に手が伸びる

ユニセフの悲惨な写真今もなお

法師蟬やつと聞こえてほつとする

奈良県 中 原 比呂志

飢えの国あるのに放映食べ放題

神聖な五輪にもある裏ルート

両耳に両手あてがいが聞き直し

入選句作者はきつと達筆家

やつと秋規則正しく回る星

奈良県 中 堀 優

川柳つて生きるがための潤滑油

老いたのか努力いうネジ進まない

喜寿越えたもう好きな事やればいい

為せば成るサボろうなんて考えぬ

ポチポチでいいからいつも前を向く

奈良県 長谷川 崇 明

人の手が創る地獄のウクライナ

裸の王オレのものだと勘違い

あるんです金魚すくいに教室が

菌車のひとつ無理やり踊らされ

力抜くことを覚えてきた八十路

奈良県 渡 辺 富 子

日替りの老いの百態楽しまん  
容赦なく若者捨てていく政治  
温度差がいっぱいあって夫婦です  
マンネリを和えるからしがありますか  
ちよろちよろと残り時間が流れ出す

奈良市 東 定 生

よく笑う妻と出会った儲けもの  
飾らない素朴な人にぐっとくる  
雨上がり思わぬ場所に花が咲く  
動乱を乗り越えてきたアブラ虫  
Web会議ほかしが欲しいシミとシワ

奈良市 宇 賀 史 郎

物価高更に医療費負担増  
三年で身内に二人感染者  
聞かれてもポイントカードない八十路  
酒飲まず記憶飛んでるやはり歳  
名月に薄雲待つ間とろり酒

奈良市 大久保 眞 澄

政治家の目に国民は票に見え  
また飛んでしまった私の一票  
もつと怒ってもいいのに日本人  
傷つきやすいなんて自分で言いますか  
外出自粛呼吸困難おこす足

奈良市 加 藤 江 里 子

家庭という不確かなもの脆きもの  
サザエさん平凡な日が生き生きと  
息子たちみんなしつかり主夫をする  
すがられる薫だとしてもまあいいか  
季節は秋変わらぬ心抱いたまま

奈良市 高 橋 敬 子

懐の機嫌気になる物価高  
秋服の陰に置かれるパーゲン品  
また一段上座に秋刀魚上つてる  
秋刀魚焼く匂いの消えた夕の道  
凍土崩壊戦どころじゃないでしよに

奈良市 辻 内 げん せい

リハビリ歩きいつも見守る近所の目  
猛暑日も熱いお茶飲む昼ご飯  
甘すぎるイチニを競う爺と婆  
孫みんな子より出来ると期待する  
コロナ前こんなに洗った覚えはない

奈良市 山 本 昌 代

寸前でドアが閉まった八十の足  
昼の電車ふわっと眠り誘い来る  
億劫もエイと出掛けて晴れ渡る  
大笑いしたら吹っ飛びましたべソ  
台所拭きあげ今日の日を閉じる



京都市 清水英旺

活気ある政治に日ごと飢えている  
お互いに老いの繰り言聞いている  
生きていること実感させる内視鏡  
プレスリー聴いて覚えた英単語  
アメリカをぎゃふんといわせる二刀流

京都市 藤井文代

ゴミの日が曜日の記憶くれています  
傘寿の今まあいっかまで前進む  
出て来ない顔と名前は忘れとく  
煩惱さて置き老い先食べて寝て喋る  
此の極暑干物になった夢を見た

長岡京市 山田葉子

夏が越せた今年も紅葉見られそう  
横にいて欠点探すのはやめて  
年齢がしつかり書いてあるカルテ  
歌った後一日機嫌良く過ごす  
持ち物はひとつでないと忘れそう

鳥取県 門村幸子

洗髪す「ああ極楽」の血が巡る  
風さやかポーターシャツに夏帽子  
せつかちといい加減さが同居する  
格差社会の尻尾の方で生きている  
温暖化の被害今度はわが町か

鳥取県 斉尾くにこ

人間味あらず椅子のたたずまい  
青もみじ朝の光のパンケーキ  
きみのパス受け取って駆け抜けた夏  
カーテンはゆれて長閑な昼下がり  
お疲れさまと椅子の両手が迎えてる

鳥取県 竹信照彦

日曜に発熱外来三時待ち  
診察で赤丸外へ押し出され  
出入りはトイレだけだと隔離部屋  
三食は妻が運ぶが収容所  
コロナ隔離されて愚作のメモをする

鳥取県 細田裕花

線香花火ボトリはかない夢でした  
熱帯夜遠い人たち夢に出る  
よく笑う孫は思春期ど真ん中  
点検をするたび増えていくクスリ  
八月の空へ反戦歌をうたう

鳥取県 本庄ひろし

飲み過ぎも紙バックなら判るまい  
家族にも言えない事が二つ三つ  
それまでよ歳は伸びても背は縮む  
曲がらないカーブが効いて初勝利  
忘れない忘れるものか何だっけ

鳥取県 山下 節子

手ごわいぞ監督さんがやる気出す  
びしびしと昭和の父はこわかった  
何よりの土産元気な笑顔です  
四度目のワクチン打った居直ろう  
再会を約して赴任する四月

鳥取市 奥田 由美

騰写板の文字も拙いレシビ帳  
手広くて中途半端な趣味の会  
七種類の球根埋める秋仕事  
アレルギーで高級拒否の化粧水  
金木犀の香りが包む兄の墓

鳥取市 加藤 茶人

末席で付和雷同の拳上げ  
三步前妻が先行き影踏まず  
百円を投函募金には同意  
手応えは合い鍵彼女から貰い  
ああ俺も年か遅れて来た痛み

鳥取市 岸本 宏章

年金者に値上げラッシュの秋が来る  
もう糸は切れなくなつた糸切歯  
実現はならず傘寿のクラス会  
目に見えぬ歯車があるこの社会  
反戦へ生かせ昭和の知恵袋

鳥取市 岸本 孝子

掃除機の音聞くだけで汗が出る  
年一度延ばし延ばしの歯の検査  
八十路坂転げるように過ぎて行く  
熱中症水で効くなら安い物  
地球汚し暑い寒いと不足言う

鳥取市 倉益 一瑤

夕焼けの赤がタブーに触れてくる  
どんぐりが吠えたら森になりました  
悲劇から喜劇をのぞく鍵の穴  
さよならを言った数ほど曼珠沙華  
振り出しに戻ろう足も手も洗う

鳥取市 田賀 八千代

出産間近ばばも見直すスケジュール  
胎動に夢溢れだす母子手帳  
生きていくレシビ笑顔と忍の文字  
秋風が急かして鋏が離せない  
コロナ禍を恐れ赤子が顔出さぬ

鳥取市 棚田 大

山道が子どもの頃を浮かばせる  
知恵を出せそう言う奴が何もせず  
いい知恵にこだわり過ぎてくらくらに  
再会をしたのに友は無口です  
旧友に再会するも誰だっけ



鳥取市 谷 口 回春子

顔と声瞬時にスマホでやって来た

愛してるとよとなかなか言わぬ意地っ張り

浅知恵と悪知恵ならば無尽蔵

二年ぶり孫の元気に疲れ飛ぶ

活字見て本気度倍になる不思議

鳥取市 永 原 昌 鼓

コロナ禍に祭りばやしが甦る

知恵少しついたか今日も辞書を繰る

ワツ凄いいペットの知恵に驚いた

腰曲がるこれも老いたという事か

再会を果たした友の名が出ない

鳥取市 中 村 金 祥

猪鹿にやられ今夜もカップ麺

入賞とブービー賞は紙一重

宗教禍アフター安倍がかしましい

付度と手抜きに慣れるのが怖い

ミスをして灸の痕が疼きだす

鳥取市 福 西 茶 子

六十年振りの独身楽しんでまん

体力と時間はあるが第七波

ラジオ体操操屈伸捻りまだいける

ニコニコとします耳が遠いから

宅配便ハーイと元氣よく立てる

鳥取市 山 下 凱 柳

後世に残す歴史と文化財

横文字が増えてニュースが読み取れぬ

温暖化阻止使命を帯びて舞う風車

走るのは止めてゆっくり歩む老い

四季折々地域活性化する祭り

鳥取市 吉 田 孔 美子

おやつをずーと晩酌に繋げてる

痛快だ脱走猫の食 昼寝

皺の手でわんさとおせち作ったなあ

近未来わんさと来るか宇宙ごみ

球体で収まっていたい 地球よ

鳥取市 吉 田 弘 子

半分こすればハートに梨だって

甲子園負けたチームへもらい泣き

仏さまきつと守ってくれたんだ

高齢者割引き独りになって縁がない

棲みにくくなったと猿も街に出る

倉吉市 大 羽 雄 大

可愛さはマスクあろうがなからうが

表情が見え隠れする電話口

その時の風に乗るのも許されよ

変り身が早すぎる賢い人だ

もたもたとしても確実な仕事だ

倉吉市 田中紀美恵

議長席矢面に立ちたじたじだ

よしよしこれから五億ためてやる

全没だ次回は全部天とるぞ

叱るよりなだめ宥めればいい子なる

両隣老人夫婦ひっそりと

倉吉市 牧野芳光

過疎地では星のざわめく音がする

秋の風疑り深くなつていく

きつと逢うこの世に生きている限り

思い出の真白な日々の色を塗る

断捨離の中には友も入れてある

境港市 藤原久直

華やかさ無いがコツコツやるタイプ

家族のだ真ん中誕生の祝い

暇みつけ断捨離進む秘密基地

投句欄前が載るとやる気出る

蚊帳の中家族五人で寝た昭和

米子市 池田美穂

ノアの方舟にプーチンは乗せない

勉強の事ばかり言うババ嫌い

黄金のジバンクがほら目の前に

一ヶ月毛染めかぶれで泣きました

到来のメロンワイロに持ってこい

米子市 伊塚美枝子

先祖様大雨の中帰路につく

停電時のつびきならぬ交差点

あきらめた時点で夢が終り告げ

コロナ感染魔の身身近に迫りくる

コロナ禍にどこでもドアが欲しいなあ

米子市 後藤美恵子

台風に耐える稲穂に応援歌

外出が減るも断捨離捗らず

記憶よりメモを頼りに日暮らす

いつまでも君だけ頼る墓参り

自粛続き子を待つ首が伸び切った

米子市 妹能令位子

米農家メシにうるさい舌を持つ

ダイエツトとうにグルメに負けている

裏口は友で玄関はクロネコ

今の家三指をつく場所がない

おしゃべりで私の老化食い止める

米子市 竹村紀の治

地方紙にくるんで届く里の旬

どちらでも無い派が握る選挙戦

アルパムになって笑っている家族

爛酒が恋しくなった秋が来た

止まり木があちこちにある散歩道

米子市 中原 章子

雑草が人間好きと伸びてくる  
お隣を知らず世界のニュース知る  
しつかりと愛犬留守を守ってる  
再チエック馴れで仕事をしてならぬ  
競い合いレベルアップに繋がった

米子市 成田 雨奇

キリストも釈迦も宇宙を回ってる  
鉛筆で勝負を決めたことがある  
校長に説教受けた反抗期  
嗅覚が鈍くてグルメにはなれぬ  
玄関にそのままわが家映ってる

米子市 野川 宣子

ゴミ箱は菓子と葉の空袋  
水ばかり飲んで本音が吐けません  
暮らし向き慎ましやかに生きてます  
「こはんです」スマホ可愛く呼んで来る  
きょうの日が楽しかったら良しとする

島根県 伊藤 玲峰

私より煙草と逝った夫想う  
相返答なくて淋しい日々おくる  
夢見せず迎えにも来ずまだ召さぬ  
掴まえる力も弱り浮くような  
生かされる嫁の確かな愛を受け

松江市 松本 知恵子

浜歩くみずいろ薄い日本海  
涼風に熱いコーヒーもう一杯  
九月来てよくすれ違う散歩道  
戦争のニュース聞く二十一世紀  
飼い猫ととりわけ暑い夏を越す

岡山県 高岡 茂子

草取り二時間点滴一時間  
過疎ゆえに免許返納できず住む  
品不足の玉葱軒で欠伸する  
子の家では睡眠剤飲まずによく寝れる  
月見茶会今年も流れ泣く夏衣

岡山県 田中 恵

夏山の命をつなく岩清水  
一等賞駆けた日もある車椅子  
秋の風遠いふるさと連れて来る  
一呼吸おいて一からやり直す  
節くれた指で明日の夢を研ぐ

岡山県 藤澤 照代

幸せは長居ができぬ里の家  
変化球投げてでもバツと受ける妻  
年金は足踏み物価猛ダツシュ  
甲子園暗いニュースをかつ飛ばす  
孤食する食卓にある冬の海

岡山市 大石 洋子

笠岡市 藤井 智史

折りたたみ傘開くよう自粛解除  
ぱりぱりと音たて開くマイハート

人の匂がうらやましくてじっと手を見る

左手の拳にぎって我慢する

円安にいつのまにやら無抵抗

岡山市 丹下 凱夫

朝焼けが見たくて岬まで歩く

百日紅にハイタッチして今日元氣

ゴキブリを潰して平和語るのか

晩酌のころにゴロゴロ様が来る

虫の声届かぬ老いの耳になり

岡山市 永見 心咲

玉買いのキャベツに挑むマイレシビ

ナイーブなレタスを剥がす優しい手

忘れられた人參白いヒゲ生やす

海老チリの出来は生姜の新鮮度

主婦の知恵お見せしましょう保存瓶

岡山市 前田 恵美子

これからはやりたい事をやってみる

気楽だと体のネジが緩み出す

畑仕事いい汗かいて肌光る

体裁は気にもしないで翔んでいる

回りの助言耳を半分閉じて聞く

迷いなどしない愛はインストール  
アップデートする三年目の愛だ  
パンパンに膨れた愛のストレージ  
愛に侵される心のレジストリ  
心身を奪われた愛のウィザード

広島市 岸本 清

徒然草読んで自分を取り戻す

温暖化怒りを阻む術がない

部屋の中頓に年寄りじみてきた

政治家の口にリトマス紙が欲しい

チケットで深夜帰宅の遠い過去

竹原市 岩本 笑子

野に咲くや花は小さい方がいい

蜜ばちの汗を君は知ってるか

雨が降ったらどうするのだろう蜜ばちは  
巣箱まで遠いがんばれがんばれ

私にも覚えがあつて応援す

三原市 鴨田 昭紀

Iターン都会に馴染めないカラス

振る舞いに生活感が滲み出る

飲み会になると存在感がある

肩書きがひとり飲み屋で浮いている

マスクしたままで毎年老いていく

三原市 笹 重 耕 三

ベースボールに引き込むショウウヘイの偉業  
一羽目を折って重ねていく平和  
困った時にと備えている余白

勝つても負けてもカーブが好きで赤が好き  
得るものはない戦場の厚い雲

岩国市 上 村 夢 香

真実を語ってほしい永田町

聴く力先生方に教えたい

水不足乗り越え実る秋は来る

秋桜揺れるわたしの恋はどのあたり

デコボコの道はまだまだ抜け出せず

防府市 坂 本 加 代

琴線がふるえる君のあの言葉

超えたいと思う気持ちがあ空を飛ぶ

左右見て正面見ない講演者

男だね力仕事を軽々と

ていねいな電話丁寧語で話す

(前月分) 札幌市 小 澤 淳

言の端を繋ぎ合わせて心打て

熊捕獲先住権を言えぬまま

人間は愚かチンパンジーに諭される

風に伏す葦に地下茎しかと伸び

北海道果樹に熊増え人は減る

(前月分) 東大阪市 北 村 賢 子

三年ぶりねぶた祭りに活気づく  
コロナ禍を耐えて今宵の遠花火  
待ちに待った祇園祭や阿波踊り

コロナ案じて電話をくれる里の友  
声だけは互いに元気老いた今

(前月分) 松山市 栗 田 忠 士

錆びてなお重みに耐える釘である

笑うだけの妻にサーブを握られる

エアコン稼働ますます地球温暖化

戦死の父の顔写真しか知らぬ妻

戦費拡大第九条が軋みだす

「川雑」語録 ⑥

川柳の背後に

河 野 春 三

技巧はどうでもいゝとはいはないが、それは後の問題である。まづ私達の考へなければならぬのは句の内容ではあるまいか。生活的内容ではあるまいか。哲学的基調、思想的背景ではあるまいか。

(「川柳雑誌」昭和3年1月)

# 白 選 集

小 島 蘭 幸

サスペンス再放送に僕がいる  
スマホ忘れて二泊三日の旅にいる  
食細くなつたを誰もまだ知らぬ  
蕎麦うどん吸引力も落ちて来た  
勉強イコール学校 自覚したようだ

西 出 楓 楽

人の隙からそっと見るフェルメール  
煎茶ガブガブ酷暑を無事に乗り越える  
前頭葉も海馬も疲れ果てている  
コマーシャルどれも話がうますぎる  
わが子でも結婚すればもう他人

仁 部 四 郎

世の掟生年月日忘れない  
世の掟親の享年忘れない  
恋人にゼニを借りない世の掟  
世の掟嘘八百は一度だけ  
世の掟今の平和に溺れない

平 田 実 男

もう少し背筋伸ばせと万歩計  
淋しさは叱ってくれる人が居ぬ  
柳暦は六十年と言う卒寿  
考えた句より浮かんだ句が抜ける  
先頭にパトが居るから渋滞し

福 士 慕 情

青春を楽しみたいと蟬時雨  
もう少し此の世にいたい油蟬  
カマドウマ追いかけてこが始まった  
鈴虫の声をトイレできいている  
晩秋の虫はかすれた声で啼く

藤 村 亜 成

発熱に先ず感染を疑われ  
発熱に大騒ぎする家族  
受けに来た検査でうつされそうな人並ぶ  
判明するまで軟禁座敷牢  
陰性と判明胸を撫で下ろす

松 本 文 子

次の芽の準備している枯れた枝  
湖は荒れて誰かを呼んでいる  
勝てないけど負けていません歯をみがく  
狂わぬように御師の写真我が部屋に  
早朝散歩カラス応援してくれる

三浦 強一

心電図大波小波里の海  
ばれそうな病に揺れる心電図  
呆けたなと互いに自覚して夫婦  
三年振り浴衣マスクの盆踊り  
ガタピシと家も一緒に老いている

三宅 保州

廃校になつても校歌忘れまじ  
書くことがない一日を恥ず日記  
余命表はつきり老いを知らされる  
地球から核を廃絶できぬのか  
頂上も一歩一歩の積み重ね

村上 玄也

暮らしからだんだん笑い減つてゆく  
漫才の解説が要る遠い耳  
体力の衰え気力まで奪う  
世の中がスマホを軸に回りだす  
句会なし飲み会もなしコロナ禍中

森山 盛桜

孤独死の形は蟬か螻蛄か  
出処を言わぬと不審物になる  
無茶な槍素首落としに呆気ない  
メビウスの帯に乗つかりたいマウス  
照準に見えて来たのは亀の首

月の屋根

八木 千代

「オツキチャマ」母の背から手を合わす  
歌になる「みかづきさん こんばんは」  
一つ覚えだから満月にも歌う  
「待たせたね」月美しく昇りくる  
順々に屋根から屋根を渡り給う

山本 希久子

膝腰腕に冬景色早ばや  
日本茶ハーブ茶相乗効果への期待  
頭も心もからつぽにして深呼吸  
ひと色を足せば完結余生の絵  
会話のキャッチボールゆるやか老夫婦

居谷 真理子

食うために殺す殺すために殺す  
洗つても洗つても汚れている手  
貧しさを恥じていた日の怒り肩  
大丈夫時は過ぎると百日紅  
タクトいま第三楽章へ秋へ

川上 大輪

迷つたらグーを出すのが私流  
診察券いいえイエローカードです  
鍵括弧外せば呼吸楽になる  
振り出しに戻ると消えていた記憶  
忘れ物多分昭和に置いている

北野哲男

竹治 ちかし

父方のDNAで弱い酒

ケータイは公衆電話の代りです

二病息災体力維持の努力中

呆けたとは思いたくない物忘れ

読むが増え聴ける句会が減るコロナ

木本朱夏

津守柳伸

ドーナツも竹輪も痩せる原油高

愁思かな河馬のお尻が動かない

園児らへ鼻振りあげて笑う象

退屈で死んだふりする金魚たち

神々は息を潜めているらしい

新家完司

世界中見るには足りぬ時と金

チャリンコが歌う明るい下り坂

晴れた日も響めつ面のゴミ屋敷

ひとりでも平気スマホと酒がある

予想より傘寿の傘は重たいね

高瀬霜石

愛すこしお金もすこしあればいい

息子から味もそっけもないメール

まずトイレそれから試食 道の駅

充電をしすぎて高い血糖値

団塊世代優先席を譲り合う

発見も学びも友の好奇心

梅雨か夏かと迷う私のカレンダー

知らぬ間に老いに染まっている仕種

新年だ春だ夏だと秋の我

コロナにも負けぬ余生の五七五

マイペース笑顔に会えるスニーカー

外出の足躊躇する感染数

朝顔のつぼみ次つぎ予告する

俄雨スマホに所在たしかめる

無理をせぬ居職引退した卒寿

「川雑」語録 ⑦

車中吟

岸本水府

電柱は都へつどくなつかしき

名古屋から帰りの汽車中、関ヶ原あたりで大阪を思ひ、ふと浮んだ句です。

間もなく博多へ行く車中、篠山吟葉氏に句を乞はれて、それを書きましたため、同氏の或るところへ発表された日記には、山陽線で作つたやうに見えてゐます。

(「川柳雑誌」大正3年8月)





# 句集の森

## 『十九平柳樽』

服部 十九平

過去現在未来の中の君と僕  
 桐一葉人生観がまた変り  
 虫籠に入れば鳴かぬ虫となり  
 先輩と老眼鏡をくらべあい  
 十九平さんご飯ですよと妻が呼ぶ  
 机上論もう止めましょう師走です  
 ラッシュユアワー皆んな人生選手なり  
 くもの巢を通して秋の月を賞で  
 昼寝から覚めて冷蔵庫をのぞき  
 噴霧器の霧へきれいな虹がたち  
 雲足の早さ目的あるごとく  
 退屈を言う青年の爪が伸び  
 海水着出せば去年の砂が落ち  
 頂上の一本松にある悩み  
 蚯蚓切られて儂は長すぎた

(昭和44年12月14日発行、川柳岡山社)

## 温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

新世紀生きる「十年日記」買う  
 敵半分 味方はんぶん砂の城  
 一旦緩急 夫婦の絆たしかなり  
 折々に神が鳴らしてくる鈴  
 神様に無理を言うてる鈴の音  
 幸せはじっくりがよし豆を煮る  
 忙しい日はゆっくりと飯を食う  
 兄死去  
 デスマスク七十年の皺も消え  
 年金の枠でどうにか生きている  
 偶然というには役者そろいすぎ  
 憎しみも少しは混じる愛の鞭  
 さかすきで打つ一日の句読点  
 湾岸戦争 (五句)  
 時時刻刻 破局が迫る砂あらし  
 シナリオのとおりにはボタン押す戦  
 ミサイルは正確なれば血が流れ



木本朱夏選

尾道市 清水久美子

朝顔へ咲いた数だけ礼を言う

スクワット案に出来る日出来ない日

孫の手が無くして団扇で背中搔く

モーニングコールをし合う無二の友

いつも会う人と出合わぬホスピタル

九十の姉がすらすらクイズ解く

尾道市 八木幸彦

心身がスマホに管理されている

包丁を持つとやさしい妻となる

世渡りの奥義ソーシャルディスタンス

まあまあ的人生だけ悔いもある

義経を探す菊人形の駅

句想練る朝のバツハを聴きながら

尾道市 村上和子

秋の味覚へ片目をつぶる物価高

どこを削るか家計簿と睨めっこ

家事数多手抜き夏で秋忙し

秋夜長虫とハモって指を折る

十年目おしゃれをしろと言う遺影

長生きへ肉をしつかり食べている

大阪市 岡田恵子

曼珠沙華続く大和路恋の道

せわしなくスマホ操る赤い爪

スマホで会いスマホで終わる夏の恋

大丈夫O型やもん若いもん

拳骨で壁をなぐった日の痛み

いつまでも味の無いガム噛んでいる

岐阜県 喜多村正儀

モニターが守るもしものある命

またたいて合図を送りあう星座

千里来て最期にひとり渡る橋

テンポよく歩いて今日を整える

人間が時どき作る謎の影

人間の目線やさしい野の地蔵

松江市 中筋弘充

どうでもいいよ手紙の中の母の誤字

道草で学んだ知恵が今に生き

マドンナの今の姓など知るもんか

好きなようにやらせてみよう反抗期

米びつの心配ばかりしてた母

許してねちやらんぼらんでする介護

貝塚市 吉道あかね

前略と書けばほろほろ萩が散る

オルゴール昔話をしてくれる

今はもう会いたい時に会いましょう

背伸びせず尻尾も振らず来たふたり

ネクタイを締めぬ暮しもいいもんだ

故里の荷物に秋が詰めてある

佐賀県 真島久美子

白いシャツ風の出自を知っている

革命を起こした後のつけまつげ

表情を消すコンビニの出入口

石鹸の匂いでやってくる手紙

影だけが類語辞典の森を出る

戦から戻り象とかパンダとか

大阪市 青木隆一

戎橋風はほどよく髪梳かす

京橋と鶴橋だけで用は足り

朝刊を二度読み返す贅沢さ

冷奴やはり律儀な佇まい

少しづつ酒の肴は好きな本

雨の日もまた良しとする昼の酒

河内長野市 穂口正子

電話切り普段の声に戻る妻

来世では出会わんように注意する

譲られるはずだすっかりお婆さん

じつくりと一葉選び遺影用

来し方をざっくり混ぜて中の上

風を叱る扉はそっと閉じるもの

河内長野市 坂野澄子

持ち札を一枚減らし今日たたむ

手の平に仏が御座す無の境地

幸せて膨らむ甘いパンを焼く

未来図の筆がにぶって霞む文字

神の裁きか近頃舌がよく纏れ

新米の香りに秋の感嘆符

和歌山市 定松宏枝

縁側は一風呂浴びた父の場所

靈感があるので壺は買いません

年齢を重ね従う子の意見

美しく老いて行くためストレッツ

柚子坊に少し情けをかけてやる

気晴らしに冷酒一杯江戸切子

門真市 坂本星雨

健康を朝の小皿に盛りつける  
何もかも許してくれる秋の天

淋しいと素直に言えぬ薔薇の刺  
夕空へゆつくり溶ける母の笑い

思い出を語れば滲む秋の月  
幸せの欠片を集め目を閉じる

府中市 岸田武

緋衣でお出で下さる彼岸花  
もう秋ですな大福の口当たり

儲けにはならぬと店主愛想いい  
コマーシャルの間に逆転されたがな

僕だけが知る笹ユリの香る谷  
顎を引いてみても鏡の中の老い

神戸市 城戸誓子

実習生ジャンバン懂れだったのに  
核家族働くママは綱渡り

子の帰省肉肉がスタンバイ  
ときめくと体の中を星が舞う

ポチよりも散歩行きたい爺元氣  
鉄橋を打楽器にして汽車は行く

大阪市 今村和男

散歩道除けてくれないマルチーズ  
余生なら横にしておく砂時計

賛成の拳手の高さがバラバラで

地団駄をエイトビートで刻んでる

夏終わる大きな穴の浮き袋  
夕焼けに男竹槍研いでいる

ガラクタは過去の見える化手離せず  
妄想が浮かんで消えまた浮かぶ

頑張りを止めたら時間余りだし  
句の中は年重ねない若いまま

本当にやりたいことは後回し  
ニコニコと元気な人が大好きだ

大洲市 花岡順子

逆らって流れて海にたどりつく  
物足りぬ味にケチャップ足してみる

七転び躓く癖がついたのか  
政治家のくるくる変わる主義主張

一日にバスは二便の田舎です  
直行で逝こう隣はお寺さん

神戸市 米田利恵子

喜楽暮らしゴミ出しの日は着替えます  
海山も知らずカレンダーは九月

巣ごもりのアクセントにと菌科通い  
登山靴とうとうカビがはえました

地球壊すのはプーチンと温暖化  
釣りをするとプラゴミ拾う人

クルーザーのルートをたどる地球儀に  
尾道市 小畑宣之

おふざけもTPOをわきまえて

真面目過ぎ時に頑固が玉に傷

八十路坂漫画劇画が愛読書

好きだった夏も嫌いになる八十路

マンションが増えて消え行く虫の声

横浜市 加藤佳子

老人力付いてきたなど自然体

96歳まで現役張ったエリザベス

爽やかな風を残して赤いバラ

奪還のニュース極東まで響く

ウクライナ士気衰えぬ祖国愛

武器供与いつまで続く長い冬

海南市 山中閑

テディベアは孫に寄り添い聞き上手

ああしんどーあれほど待った子らなのに

娘頼り掃除洗濯悪いわね

惚けぬようこっそり稽古するピアノ

更地になり住処の猫は旅に出た

ダメにした糠床義母の歳月よ

大阪市 滝井えみこ

放任主義の庭先に咲く水仙や

各停がホームシツクを加速させ

我が涙おいてトンボは秋の旅

「勝手にしろ」勝手に生きて鮭を焼く  
心の右立入禁止エリアです  
七時間寝かせば私素直です

福岡県 本田 さくら

いりこたち海で楽しく泳いだか

沢田研二わが昭和史に色どりを

その昔父と屋根にて遠花火

そうしよう風が後押ししてくれた

壁の傷ふと亡き猫を想い出す

コロナ増え雨はさびしい音で降る

丹波篠山市 河南 すみえ

ケーキよりたこ焼き老いの誕生日

絵手紙のもみじなつかし古里よ

一番星天の声するからうれし

わあかぼちゃ下げてくる友ありがたい

ああ老いたスマホないので手紙書く

秋の陽が歩け歩けと呼びに来る

神戸市 横田 次郎

一目惚れ買ってどうしよ赤目鏡

面白い兄はさらりと嘘をつく

喧嘩して先に喋れば負けた気に

初孫の右手の小指俺似だな

良い人を休んで世間広くなる

ふつくらと言われ嬉しい病み上がり

鳥取県 橋谷静江

太陽が背を押し今日も畑へ出た  
両足が仲良くせずに転びそう  
健康にスクワットをと無理言われ  
毎朝に先祖へ折る線香立て  
値上げせず中味減らしてちょうど良い

鳥取市 上山一平

日々値上げおしくらまんじゅう辛い日々  
嵐避けコロナと一緒狡休み  
台風に耐えてゆつくり秋をみる  
畑肥えトマト真っ赤に微笑んで  
重い腰よいしょ金魚の丸い口

鳥取市 大前安子

望んでた自由の道が怖くなる  
脛かじり居なくなったら足弱り  
ダイエットモモナシスイカ目の前に  
自転車を手手に一人遠出する  
盆終わり健康器具が動きだす

鳥取市 狭武紫陽

また明日ゆっくり沈む日を送る  
風速3充分すぎる向かい風  
恵みの雨昨日の事は忘れよう  
求愛のときめき尽きて乾く音  
じゃあまたね気軽と言えぬ日の憂い

鳥取市 山野すみれ

赤ちゃんのポニョポニョが好き抱きしめる  
やって来たコロナが遂に我が家にも  
買ひ物の興味薄れて山歩き  
繰り返し悩み悩んでまた悩み  
三歳の知恵の多さに夢驚く

倉吉市 宮田風露

雷鳴におへそ押えた幼き日  
台風はうろろせず早く行け  
また一人同級生が星になる  
八十路でもスマッシュ決めてまだ元氣  
ピーピーと薬缶が呼んでいるように

倉吉市 若松由紀子

八十路すぎ脚立に上がるも限界  
三面鏡昨日と同じ老いた顔  
誕生日遺言書いて子に送り  
おばあさんの知恵袋にも穴があき  
心配は山程あるがよく眠る

米子市 川本美津子

自分だと認めたくない顔写真  
夫と住むこれでいいのか風通し  
老いた身は異常気象が毒になる  
半世紀続く絆は宝物  
旧姓で呼ばれて気分若くなる

安来市 原 徳 利

ワクチンの接種を止めたねじれ花  
訳ありの今日一日は休息日  
吾が胸の海はいつでも凧いでいる  
ひんがしの大山一幅の絵窓  
朝鏡十一面の顔貌

美作市 岡 本 余 光

炊き方は匠と同じ安い米  
百均のメガネ急場の助っ人だ  
助っ人のコスバが悪いタイガース  
コロナ禍のストレス入る五七五  
衰えた力加減がままならぬ

津山市 高 橋 由 紀 女

古道具に作業手順が書いてある  
途中まで詠めた一句がまとまらず  
コスモスの海に一日の憂さ晴らし  
ATMに老いのつぶやき入れておく  
粒揃いの新米届くてんこ盛り

広島市 田 桑 恵 子

臥した身に友の好意が身に染みる  
ベストセラー「八十の壁」回し読む  
SDGs畑に埋める野菜くず  
また貰うゴーヤ結局チャンプルー  
思い出が古手紙より溢れ出す

広島市 松 尾 信 彦

トメハネを意識した字に浮き沈み  
いつからか気温体温書く日記  
退いて短針相手にひもすがら  
金婚も阿吽の呼吸誤差に時差  
積ん読の山を崩して識を積み

広島市 森 田 博 之

何度でも尋ねなさいと妻笑顔  
リハビリに精出し過ぎて医者通い  
スピーチにもう頃合いと腹時計  
ふと消えた夜の靴音軒先で  
新聞を読みゴミを出した後フリー

尾道市 小 川 道 子

断捨離は手際よくとはゆかぬなり  
一番は孤独なものよ風当たり  
疲れ気味やさしい言葉目減りする  
慌てないこれぞ私の歩幅です  
苦も楽もわたしに似合うものでした

山口市 中 前 幸 子

眠れぬ夜はビノキオとお散歩に  
想い出色のころをパレットに溶こう  
運命線たどれば青い日本海  
青空に落書き誰も居ない午後  
手拍子に合わせて影も調子良い

竹原市 土井輝恵

マーボーにも揚げ出しにもと茄子の色

随分とスマートサンマテーブルに

カラツとしたいじめはあつた昔から

「そうですね」絶対言わぬ八十五

親しみのゴルバチョフ氏の死を悼む

山口市 兼崎徳子

スーツからスイーツ男子になる土日

アルバムの母の笑顔に会いに行く

物価高おかずの質も少し下げ

ポイントで帯締め一本買いました

悲しみの淵でも爪はよく伸びる

松山市 郷田みや

戴いた新米を待つ電気釜

カーナビに曲り損ねを謝罪する

あの頃はそうねそうねと巻き戻す

きつとまた会える気がする別れ方

箇条書にするとはつきり見える訳

今治市 安野かか志

入道雲の当てが外れる力瘤

猛暑日のあの世この世を行き来する

涼風に恋をしたのかアキアカネ

冗談を愚直な父が大真面目

畦道に愛でられもせぬ月見草

沖繩県 あらさくら

茶柱に今日の運勢決めてみる

ハグできぬ逢うも別れもグータッチ

呑むほどに打ち明け話盛り上がる

キラキラと楽しむ老いを見つけた日

大事にとしまったものは場所忘れ

宮崎市 恵利菊江

ラーメンを啜れば猫がのぞく顔

連休は財布頼みの遊園地

祭りだと聴けば騒がす胸の中

白桃の旨さに顔を綻ばす

静かさが里に届ける鳩の声

宮崎県 黒木栄子

ひっそりの無縁仏へ曼殊沙華

コロナ禍のマンネリ皆でパーベキュー

突然の訃報に暫しおしまる

愛着の亡母のベスト捨てがたし

巣ごもりも限界旅に出たくなる

弘前市 小山内真由美

育児書は暗記する程魅力的

二階建てラクラク越える黒アゲハ

かぶと虫過ごした夏が去ってゆく

月のうさぎ夢語るにはちようどいい

無糖か微糖そんなところが問題だ



石川 堀本 のりひろ

陽が昇る負けず輝く末娘

孫笑顔百を越えろとライン来る

おじいちゃん飲み過ぎだよと孫嘆く

ばーちゃんの自慢話で耳にタコ

ちやらんばらん道外れずに八十路過ぎ

富士見市 中島 通則

プーチンよ返せ四島秋田犬

国債は打ち出の小槌とは違う

靴紐を結び直して老いの道

一切の未練残さぬシュレッダー

約束は堅く守るといふ小指

横浜市 巖田 かず枝

台風に好かれて困る沖縄よ

辛くても沖縄人の明るさよ

金持ちに子供食堂頼みたい

四回目ワクチン打つてもういいかい

この戦いつたい誰が裁くのか

小田原市 虎澤 昭久

老いてなお怠け者夢は老衰

鏡見て何が何やらおじいさん

耳鳴りは退屈しのぐコンサート

故郷は過去だけがある西の空

江戸っ子顔負けプーチンの強情

東京都 宮田 栄子

姉が逝き古里またも遠くなる

盆迎え岐阜提灯の花揺れる

母夜なべ金魚の浴衣弾む下駄

街路樹を仰げば槐花が散る

リアス線新築並ぶ津波跡

八幡市 武田 悦寛

無人駅アザミ一輪列車待つ

もつれ糸ゆるく解ける露天風呂

古い二人粘りを学ぶ大和芋

役目終え過去のレットルゴミに出す

今日少し守備位置変えてシツプ薬

大阪府 大浦 福子

おごるなど叱る名残りの尾骶骨

君去つてやつと気付いた愛の鞭

今ここで退けば女の意地すたる

余生きて我が人生はいま佳境

逝く日まで可愛いばあば目指してる

大阪府 奥野 健一郎

足下をふわりと浮かす褒め言葉

ノスタルジーだけじゃ消えゆくローカル線

欠点がないからすぐに忘れられ

ごちゃごちゃと言わず一言詫びてみて

空元氣出してるうちに立ち直る

大阪市 白谷 よしみ

ガラケーがそろそろお暇くださいと  
セルフレジ次々文句言ってくる  
ヨギボーで眠る子馬にホホ緩む  
昼に起きバジャマで過ごす死んでた日  
ねほけ顔息吹きかけて鏡拭く

大阪市 田原 康雄

孫が来て一品増える肉料理  
美容院行った妻には声を掛け  
まあいいか！自分を許す合言葉  
夫婦仲たまの外食焼肉上

肩書が消え言葉と背中丸くなり

大阪市 松田 聰

友からの残暑見舞が来ぬ不安  
今年こそお詣りしたい彬の忌  
医者へ行くたびに薬が増え不安  
いつからかこんな借金国になったのか  
悪い奴もぐらたたきのゲームめく

大阪市 宮本 千恵子

鎮魂の歌になったね知床旅情  
聞き役も少しうんざり孫自慢  
くやしいが魚さばくの夫が上  
義母の糠床ベタベタと良い音してた  
お盆前仏花果物みな値上げ

大阪市 吉積 栄次

幸せの手前に来たがオフサイド  
何もせず体重だけは量つてる  
見たこともない黄泉の世界に手を合わす  
ウクライナ飛んで行けない千羽鶴  
スマホ見て何を調べるソクラテス

堺市 古川 光雄

一言の多い友とは距離を置く  
高三の孫髭をはやして大人びる  
ウクライナの鬱を越えたかコロナ鬱  
プーチンの片意地世界は大迷惑  
平均寿命越えてしぶとくまだ生きる

泉大津市 葛城 隆雄

太鼓判押し出した句ままならず  
いざ祭り俄然岸和田活気づく  
煮え切らん話に愛想つかされて  
記者魂何より強いペンの先  
今日もまた入道雲が威張ってる

池田市 倉本 一弥

夫婦ゲンカ負け続けている五十年  
昔はあった出世払いという夢が  
泣き虫の孫明日嫁にゆく淋しいな  
鼻と口顔の印象消すマスク  
西日追い影とぶらぶら土手散歩

泉佐野市 檜葉良子

傷口に塩を塗るよなアドバイス  
譲るのも譲られるのも気をつかう  
その噂きつと火種はあの人よ  
妻の座にあぐらをかいて古稀となる  
成り行きに任せた道でつまずいた

泉大津市 助川和美

ジープの穴が自慢の青き頃  
黄ばむまで使いこなしたレシビ本  
菓子目当てまずは仏壇拝む孫  
ボタン付け針もハサミも錆びている  
炎天下信号の赤なせ長い

柏原市 神崎江

迎え盆せぬまま送り盆も過ぎ  
風が吹く夏の終わりの風が吹く  
言えぬことガラスポットに閉じ込める  
去り際を決めて見上げた空に虹  
スマホから貴方を削除ジ・エンド

交野市 山野双葉

日に五粒サプリ効果で一万歩  
空高くベランダに干す抱き枕  
名前呼ぶ声で機嫌が分かる犬  
お互いを掴み損ねてばかりいる  
熟れすぎた柿の実ひとつ鳥を待つ

吹田市 岩口のぞみ

よいこらどっこいしょ長いが必要母の気合い  
安い時知っているから手を出せず  
くしゃみした途端によぎる腰の危機  
九時就寝年を重ねて園児並み  
コロナ禍でどんちゃん騒ぎ大罪に

吹田市 西沢司郎

コロナなどどこ吹く風と甲子園  
ロング傘杖と日傘の二刀流  
大胆なポーズでテレビ笑い買う  
よもやまあ総理もコロナのパンチ食う  
年金にボーナスが出る夢を見る

高槻市 鳥居宏

台風よ涼風みやげありがとう  
甲子園かしこい雨の中休み  
始まった戦はちよいと止まらない  
抑止力ちと間違えば発火力  
省みてやたら他国を避難すな

高槻市 三谷白黒

コロナにてあわれカープよ白旗だ  
孫達はひとついとこあればよい  
SNS孤立する人作ってる  
死ぬ時は二人同時が希望です  
今日は今晚はとの境いつ

豊中市 貝塚 正子

並ぶのが今日は楽しい年金日  
母さんのエプロンすべて包みこむ  
薄曇りぐらいが私落着ける  
連発のクシヤミ最後は笑っちゃう  
才才熱が出たワクチンが効いている

豊中市 齋藤 奈津子

猛暑日に猫が陣取る籐の椅子  
優先席譲り合う椅子空いたまま  
発言者テロップ欲しいマスク顔  
鹿せんべいバブルは去った奈良の鹿  
酔ってないと豪語している酔っぱらい

寝屋川市 長尾 千賀

熱中症避け在宅も三日目に  
退屈が断捨離少し加速させ  
アルバムに50年老けぬ友笑顔  
非常口出口ほしい人生の迷路  
熱き人もいずれ離れてゆく村か

八尾市 田邊 浩三

考える最早往つてもいい歳だ  
更年期歳か気力か体力か  
仏壇にコロナ ロシアは荷が重い  
歳ですか言われる前に医者に言う  
神経痛安全ライター火が付かず

神戸市 田本 古鈴

知ってるかあの世の次があることを  
六十を過ぎれば年は加速度に  
秘めやかな人の噂の容赦なく  
耳すまし虫の淋しい声を聴く  
何もかも済んだことだと振り向かず

神戸市 村松 久江

エース4枚揃えて時を見失う  
女三人話の尽きる気配なく  
手の掛かる人と暮らして元気です  
恋人のように並んで生きて行く  
明日へと踏み出すための戸を開く

神戸市 山根 弘華

焦らずに明日という日待つゆとり  
雑談の中でひろった一行詩  
新米に梅干し一つあればよい  
全没に心の舟は沈みだす  
悪ふざけすぎて自分を見失う

明石市 瀬島 流れ星

わけあって離脱孤高のちぎれ雲  
仲直りしたのに火種持ち込まれ  
簡単な操作などない機器音痴  
同じ柄出会った愚痴を家で吐く  
不都合なことはうやむやそしてちよん

芦屋市 荒巻孝子

図書館へ脳にヒントを詰めに行く

生きがいを探して歩く今もなお

星占い良い事情じ出かけよう

新しい靴をおろした日の覚悟

はぐれた母探し回った夢の中

尼崎市 宗和夫

長月の夏と秋とのせめぎ合い

物忘れ暑さの所為としておこ

古稀過ぎたプラス思考に舵を切る

票のためなら瓜田に履を納れ

聞いたことがない「丁寧な説明」

尼崎市 山本百合

捨て切れぬ恋をとじこめ五山の火

放たれて故里へ飛ぶ籠の鳥

引取られ老いを重ねた友の文

拳骨の痛みも愛も知らぬ子よ

拳骨に説明のない隠し味

伊丹市 延寿庵野鶴

出不精へ巢籠りの癖ぬけぬまま

長生きの秘訣を聞けばよく笑い

振り向けば時はだまって消えて行き

絵手紙を覗けばすすき秋を呼び

燃えたぎるものがあるから詩を書く

伊丹市 岡村風琴

一に二に笑顔たやさず生きてます

立ち直る自分を磨く向かい風

炎天の街にマスクが風に舞い

たればの話がつづく午後のモカ

明日の絵のヒントを捜す旅に出る

三田市 生田えい子

することが山ほど有るとサブリ飲む

頑張れとウナギに手紙付いていた

スケジュールにラジオ体操組んだ母

スイーツの広告持つて列に居る

補聴器を直し相槌打つ私

三田市 幸田厚子

棚経のスクーター急ぐ小雨中

八方美人利用されても笑つとく

柔い口調中身のきついニュアンス

若気の至り飛び出た足は里恋し

今年こそ赤いルーージュで出かけた

三田市 野口龍

泣くもんかあかんたれだと思われる

スツキリと片づく机ペン走る

この世ではかなわぬ思い遺書に記す

温故知新オール電化に変えました

頑固者と言われつづけた仮面置く

三田市 松下英秋

西宮市 高瀬照枝

リーリン訳せばたぶんアイラブユー  
強いものに擦り寄るように核を持ち

パンダならそのだらしなさ許せませす

女房のアイコンタクト怖気付く

タコ不漁何処に消えたか火星見る

宝塚市 岸田万彩

脂質ゼロ水よりまずい牛乳だ

なによりも空腹という味の素

ノンアルでなだめすかせる休肝日

愛情の衣羽織ったおせっかい

働かない働きアリを目標に

たつの市 江尻房子

酔わそうと勧めたワインに足とられ

いわし雲暦通りに大根播く

鏡の中こんな年まで生きた顔

名月や一口タルト咀嚼する

慰める言葉を持たず共に座す

丹波篠山市 横溝安子

断捨離で私の人生後始末

後始末できるとこまでやってみる

あれこれと残していくけどあとたのむ

奥の部屋先祖と犬が坐ってる

口の奥でんと居すわる親しらず

会いに来るむすめ食材ぐちも置く

夕暮れも散歩に行けず熱い日

冷しすぎクシャミ止まらずおまじない

どうしても生きるためには食べた夏

娘は休み母をなぐさめ世話をやく

西宮市 高橋千賀子

手が出ないアンモナイトの首飾り

妥協は知らぬ生きた化石のオウム貝

口肥えて財布が痩せる食の秋

ウリ坊が子猿を乗せて人気呼ぶ

もう一度食べたい母のサンマ寿司

西宮市 藤原みよし

秋来たと思わせ夏が逆もどり

旅立ちは好きな花咲く頃に決め

何してる隙間こっそり猫覗く

独り言月に返事を待っている

愛犬がいつか夫にそっくりに

生駒市 饗庭風鈴

手に残る温もりほのかベトロス

ものもらいもらって今朝は物思い

かさぶたの剥がれてまたも血のにじむ

老兵の見た夢平和祈るだけ

夏がゆく南蛮煙管もの思う

生駒市 永田 美美子

萩の寺母に逢いたい話したい  
絵本読みほのほの語るボランテニア  
美術館暫し余韻の蟻の列  
ミルクテイ砂糖いっぱい雨の夜  
神妙に振り袖通す七五三

和歌山市 北原 昭枝

追憶の中でみている彼岸花  
若かった日も色あせて鬼あざみ  
秋時雨しとしと降って会えぬひと  
不器用に泳ぎ世間の情け知る  
夕焼けをまだ追いかける明日がある

和歌山市 倉橋 悦子

思い出を美化する老いの独り言  
来た道のところどころに水たまり  
シヨートした回路濃い目のコーヒーで  
空白の深みに嵌る雨しとど  
困難をゲームのように対処する

和歌山市 佐藤 まき

古都奈良にお能楽しむ非日常  
シテ方と同郷ゆかり面映ゆい  
大卒から内弟子修業如何ばかり  
精進の謡も所作も美しい  
幽玄に覚めやらぬまま帰路車中

和歌山市 鍋嶋 澄子

空と海青の世界で鶯が舞う  
楽しそう箱に若き日眠つてた  
海の青心の憂さを溶かしゆく  
晩夏には匂が届くの新生姜  
小さいがコオロギ鳴いて秋ですよ

和歌山市 西川 千鶴

思い出を小出ししている独り宿  
じつくりと論してくれた郷の風  
嘘ひとつ紛れ込ませて鯛雲  
個性です奇人だなんて言わないで  
新妻は奏でるように葱刻む

和歌山市 まつもと もとこ

ふつくらと冬毛になった三毛とタマ  
おしながき柿の葉寿司が赤い秋  
高額のお布施で神は何を買う  
モデルナは知らないけれどファイザー派  
ひぐらしが鳴きすぎて夏終わらない

和歌山県 三枝 眞智子

マンネリの暮らしを変えた妻の嘘  
自立した息子へ父の孤独感  
裸一貫店を持つまで嫁持たぬ  
もうそろそろ現われる頃と水を打つ  
気紛れな風が灯りを一つ消す

鳥取県 田中重忠

のんびりと天寿まつてる老いの亀  
スコップで跳びつく蝮ぶった切る  
鍬を振る野良着にしみた汗の地図  
鍬の柄にすがって拝む伯耆富士

倉吉市 伊藤嘉昭

ほめてやる私超えたよ孫の背よ  
「元気でいてね」別れにいつも孫が言う  
マスク顔さすが親子はすぐわかる  
墓掃除まだ逝かないが子に教え

松江市 相見柳歩

ふたりして未来の扉開けようね  
スイッチを切ったかどうか自信なし  
伸びようとすると心がけ合格へ  
限定をはずすモテ期がやって来る

三次市 伊藤寿子

常連さん「なんでえ辞めるか」ごめんなさい  
コロナ・コロナ・50年の店を食い  
明日の日が分からぬ身でも取る予約  
ああ神さま御先祖さまよ守ってね

高知市 三谷松太郎

社交とか浮ついたこと要は下手  
生めて「肌色」という色絵具  
いいですよハニートラップ仕掛けてよ  
広い空ユーホーを見たひいばあちゃん

沖縄県 禰モト

園帰りアイス二本をコンビニで  
褒め言葉素直にお世辞だと思  
近場ですバイク百円駐車場  
ばあちゃんは物知りだねと言う五歳

沖縄県 宮すみれ

長雨にピンクの靴も退屈で  
夕焼けがバックミラーで反射する  
ねむたくて我慢できずに目を閉じた  
うつぶんを無口の人が聞いていた

東京都 高岡弥生

子のスマホ親のクレカをインスタール  
ワクチンを三回接種で都民割り  
即日の陰性証明破格なり  
電車乗り有機野菜を背負ってく

京都府 北野クニオ

朝夕のお経の意味が解りかけ  
七回忌迎えて家族一安心  
サンキューと言うてこの世と別れたい  
暑さにも負けずに咲いてる夾竹桃

神戸市 石川克美

生きてます誰の為でもないけれど  
生きてゆくヒントを五木氏に学ぶ  
必要とされない気楽さ味気なさ  
シワさえも美しかった女王さま



三田市 木村 マユミ

武器捨てて平和に向かう突破口

母の味じっくりニシン煮ています

三年目マスク外した顔と顔

まち望む動物保護法のいのち

丹波篠山市 澤

良子

孫五歳バイリンガルの使いわけ

自家製の黒にんにくでスタミナを

メダカ飼う尊い命直で見る

赤い服常に着ないといつ着るの

三田市 辻

開子

日焼け止め日目のスルーがシミと出て

なつかしい利息でグルメしてた過去

術後だが好きな料理に動き出そ

今日もまた目覚め遅いがシャンとして

三田市 馬場 貴美江

夫遺影詠歌リンの音孟蘭盆会

断捨離は昭和一桁無理がある

接種して微熱続いた四回目

卒寿です足腰弱りリハビリへ

三田市 森

玲子

悲しいなあこの頃歳のせいにする

スマホにも熱中症あり「えっほんと」

孫の顔幸せくれる宝物

老いる日々今日も一日ありがとう

大阪府 高木 道子

桐一葉豪邸かたむく様哀し

今晚はハイイソプラノ夕餉どき

坊さんと世相を語る月命日

娘だけ覚えていました誕生日

大阪市 尾崎 文子

赤になり太陽の塔なおあついで

楢重の裸婦像夏が終わらない

マスク取り頭に酸素送ります

お財布に一万円札があつたはず

大阪市 近藤 風羅

ほんのちよつと嫉いたつもりが大げんか

八月は別れの月と誰決めた

振り返る今来た道はこれで良い

繰り返す歴史二度目は喜劇となり

大阪市 前川 善之

人生は男無しでは生きられぬ

旨い物食べて幸せ感じられ

銭湯も入るルールは有るを知る

冷凍食一人者にも美味しくて

摂津市 野々村 レイ子

母ゆえに許す心を幾つ持つ

在りました川柳塔の中に我

燕の巢優しい人の軒先に

感性を磨かなくては句はできぬ

羽曳野市 黒木 ひとみ

鈴虫の羽音爽やか秋の風  
茎を裂き友と遊んだかやつり草  
穂の垂れが実り具合を教えてる  
遠距離の友は次第に疎遠なる

奈良県 室田 行久

人に言えぬ目覚めの悪い夢を見た

オフレコの話明日には皆知る

責任をほかし繕う正誤表

感謝しつつ時には困る妻元氣

和歌山市 福島 一雄

悩みなき一生なんてつまらない

パン食が口に合うのか朝楽し

日本食口にあうのは鮎だけに

親心命をかけて子を守る

(前月分) 大阪市 宮本 千恵子

総理殿拉致家族には猶予なし

婚来る日おかず二品増えています

悲しくてまだ歌えない知床旅情

太るより痩せる怖さを知りました

舌だけはまだかるうじて元氣です

## 川柳塔 柳箋

3冊 送料共 1000円

事務所あてお申し込み下さい。

### 「川雑」語録 ⑧

## 川柳を客観せよ

出口雨町

「川柳を客観せよ」とは冷静なる理性によって批判せよといふことである。凡そ批判のない処に進歩がない如く客観しない処に正しき批判はあり得ない。更に「川柳を客観せよ」とは眼をみ開いて川柳の圏外に立ち、一般文芸的レベルから批判せよといふことである。今日伝統派の通語となつてゐる「川柳はどこまでも川柳だ」とか「川柳は川柳らしくあれ」等いふ言葉は要するに何等の内容を持たぬ痴人の謔言である。何となれば、もし「女は女らしくれ」を固持してゐたならば、恐らく目覚めたる近代女性の誕生を見ることは出来なかつたであらう。女が女の圏外に立つて客観し、従来（なごし）の夫婦生活乃至社会的関係を批判したればこそ、初めて近代女性といふものが生れたのだ。

(「川柳雑誌」昭和5年2月)

## 英語 de Senryu ⑬1

麻生 霞乃 『福寿草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

相談をしてひとしなをはぶく膳

*talking to the meal*

*I omit one dish*

*from your table*

気を変えて雲は東へ流れ出し

*feeling change*

*clouds float toward*

*east*

---

*talk to* 相談する *meal* 食事 *omit* 省く *dish* 料理 *table* 食卓

*feel change* 気分を変える *cloud* 雲 *float* 流れる *toward* 向かって *east* 東

---

### ～リバーウィローのため息～ ㊦ フェイスブックが結ぶ海外のハイク

フェイスブックで知り合ったギータンジャリ・ラージャン (*Geethanjali Rajan*) さんは、日本語俳句も、英語ハイクも創作するインドの女性です。あまりにも日本語が上手なので、日本への留学経験を尋ねると、2015年、埼玉に短期間滞在したが、ほぼインドで日本語を勉強したとの返事でした。彼女は南インド、ケララ州出身で現在はチェンナイ在住です。栄養学、微生物学、英文学、英語学をそれぞれ大学院で修了し、英語教師、海外の日本語教師として活躍しています。2003年ごろに俳句と出会い、「俳句は文化の懸け橋になる」をモットーに創作に勤しむ日々です。現在はオンラインジャーナル「*cattail*」の編集者、「*Café Haiku*」の編集委員をこなしています。またブータンの俳人、ソーナム・チョッキ氏 (*Sonam Chhoki*) との俳諧共同歌を電子ブック *Unexpected Gift* (2021) で出版しています。漢字も彼女の得意分野です。それでは彼女の見事な日本語俳句を紹介しましょう。

書初めや 香りあふれる 恵の字  
高潮や 取り残された 鳥の声  
七夕や また落ち合える 星空で  
マンゴー花 しとと散るや 別れ道  
ジュース屋で 秋の黄昏 瓶の中

# 誹風柳多留一二三篇研究 27

伊吹和男・高野範雄  
山田昭夫・小栗清吾  
細井龍夫  
清 博美

210 人魚を買って来て汐干不首尾なり

伊吹 品川遊里。遊郭の裏は海なので、その季節には潮干狩りにぎわった。潮干の縁語の人魚ならぬ遊女を買ったため、潮干狩りの成果はさっぱり。あるいは、潮干狩りに行くという嘘がばれたのか。

とんだうそふとんのうへて汐干なり

安五松3

小栗 賛。「不首尾」は、「結果が悪いこと。事のなりゆきが思わしくないこと」(「日国」)だから、潮干狩の成果がなかったことでも、嘘をついて潮干狩に行ったことでもなく、本当に潮干狩に行ったのだけれども、ついでに人魚も買ったので、それがバテて女房と具合

の悪いことになってしまったというニュアンスだと思ふ。  
清 同右。

211 母じまんやれそつからもこつからも

伊吹 縁談。申し分のない息子あるいは娘なので、そこからもここからも見合いの話が降るようになると自慢している母親。

あいきやう娘そこから愛からも

二三10

清 賛。

212 下女こしをゆすぶるやうにもんで居る

伊吹 力を入れて主人の腰を揉んでいる下女

なので、まるで揺すぶっているようだ。描写句なのだろう。

下女腰をいたゞくやうにもんで居る

一一25

山田 賛。加減が分からないから力まかせにもむ。

小栗 賛。下手なマッサージの表現。

清 賛。

213 女房つるさくながしてハなりやせん

伊吹 女房の着物を質草として亭主が入質したため、質流れにしないでくれと女房がうるさく言っている。

女房ハ流れますよとしちくどき 五五3

清 賛。

214 かさねて八間男をせぬはつですみ

伊吹 この場合の重ねては、この次、今度。他人の妻と通じているうちに、自分の妻も浮気をしているのを知った。お互いおあいこの不倫だから、今後は間男をしないことにする、というのであろう。

いけんせぬはつよ女房もこさへたり

安一松4

高野 今後間男はせぬようにします。で決着したという解はないでしょうか。

山田 右説でよいでしょう。固く誓ったのだから、この次は「間男はせぬはず」。馬鹿亭主。もふいごハさせやるなよとばかりいしゆ

天五高2

小粟 山田説に同じ。馬鹿亭主（或は女房に首ったけの亭主）の句というところがポイント。またするのです。

清 賛。「間男は重ねておいて斬る」、が洒落になつていないだろうか。

215 つよいお酌だとたもとをくわさつかせ

伊吹 強い酌は、酌が強いと同じで、この句の場合は、盃に、こぼれるほどつぐ（『江戸語の辞典』）だろう。強く酒を注がれたので衣服にこぼれ、それを拭くために袂から紙を出している。なにが面白いのだろうか。

清 賛。あわててガサガサさせる様が面白い。

216 わたの師へ母どなり込ムむづかしさ

伊吹 塗り桶の上で綿を延ばし、小袖の中入れ綿や綿帽子などを作る職業が、綿摘みである。その仕事を教える女師匠を綿の師という。しかし内実は、その弟子に浮売の世話もした。そのようなことをしているとは知らなかった娘の母親が、妊娠したと怒鳴り込んできたの

はらんだて綿の師匠ハにちられる

明七巻1

清 賛。

217 ト者へ巷人六郷へ二三人

伊吹 女房が突然失踪したので、亭主やその仲間が手分けて、八卦見へ一人行き、松ヶ岡東慶寺ではないかと、六郷の渡しへ二三人出かけた。

清 賛。ひら沢にも、引かけで二三人 一八二三

218 ちよつとかほ見てハたゝらへほつり込ミ

伊吹 踏輔は、『日本国語大辞典』に、

①足で踏んで風を送る大型の輔（ふいご）。  
②①を用いる。焼物に用いる。②①を用いる。焼物とあり、②に主題句が引用されている。焼物

の鉄製品を持ってきた人の顔を見て本当に入れているのか確認しながら、炬にくず鉄を入れていたのではないか。

たゝらの中へ葉鍋なけ

武二41

小粟 礎説のようなことは思うが、状況がはっきりしない。

不明句とします。

清 礎で可ならん。

219 ひげをくいそらしてかけま後家へ出る

伊吹 食い反らすは、

口にくわえたようにはやしたうわひげの末端を、上へそらす。

と『日本国語大辞典』に書かれている。

明治の元勳のような髭なのだろうか。少年の陰間は男性用で、年かさを増したのが御殿女中や後家向きであったから、髭を大げさにはやして男っぽい陰間が後家に出てきたのだろう。

後家へ出るかけま髭くひそらしてる

一五〇20

清 賛。よし町ハ化ケそうなのを後家へ出シ 三21  
「日国」の文章下手だなあ！ 諸兄これでわかります？

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

黝々と水かけ不動 恋の垢

処女の死 鏡の中へ歩み去る

おたまじゃくしのままでありたし少女の恋

人を待つ かたわらの花嗅ぎもして

旅に出て帰り来るまで麦の秋

一日の重さ軽さよ 日記帖

風薫る キューピーほどの裸はなし

風薫る 歩きながらのハーモニカ

歌うより踊るよりない平和かね

テレビ見る 子を頤と膝に埋め

金環蝕 そらエンゲージリングだよ

舟歌は最も人を恋う歌か

捨猫とうなだれがちの向日葵と

童顔は首から上だけのことさ

同期の桜 酒に爛れてしまいけり

四五人が来て瞬時句碑華やげり

句碑ありぬ 亡き先生の背丈程の

悼 水谷鮎美氏

風のない浄土へ帰る心の灯

夏雲の 死ねば越ゆべき峰ならん

蠟燭の数 来し方の女人像

受験子に昼夜階なす時間表

乗鞍 二句

母と来てお伽話の花の色

雲海に槍 胸中に人尖る

噴水の形変らず恋終る

明治村 醉生夢死の昼の月

明治村 烈婦というはすでになし

犬と住む都会の底の夜の底

信濃の旅 五句

霧のダム 紺の背広の竜神か

黄色い屋根の旅館に寝たり 秋の信濃の

幻の女の息の霧の音

令和4年度 路郎賞



堺市

澤井敏治 さわ い とし はる

路郎賞準優秀作第一席

三原市 鴨田昭紀 かも だ あき のり

また戦かと象が静かに目を閉じる  
黙食という拷問に耐えている

和平会談まずはビールと枝豆と

半熟のたまごが抱いている自由

大河の一滴なれど一句を残したい

暮参り急かすまっ赤な彼岸花

若き日がドツと噴き出すビートルズ

人生のパットラインが読み切れぬ

血圧にスロライフを処方する

しがらみが切れてすっきり老いほれる

柳歴

平成二十一年 川柳塔社 誌友

平成二十一年 堺川柳会

(現川柳塔さかい) 入会

平成二十二年 朝日カルチャー川柳人会

平成二十三年 川柳塔社 同人

平成二十四年 愛染帖賞準賞受賞

平成二十九年 川柳塔社理事

令和三年 川柳句集『鹿の声』上梓

理事長からのお電話には心底驚き、路郎賞とお聞きしても、一生縁があるとも思っておりませんだけに、きちんと受け答えできたかどうかと、夢心地でした。言い尽くせない感謝と、湧き上がるパワーに包まれました。

川柳句集『喜寿薫風』に出会って嵌った川柳も、大きな壁を感じ始めた矢先だけに、人間諦めたらアカント、感慨もひとしおでございます。

選考に携われた皆様、ありがとうございます。今後ともご指導の程、お願いいたします。

令和4年度 路郎賞



大阪市

平井 美智子  
ひらい みちこ

戻ってきた葉書が雨に濡れている  
むずかしい字はひらがなでかけば良い  
大鍋のおでん此の世は具沢山  
泣き終えた人から去ってゆくベンチ  
祈りから祈り 月来香が咲く

路郎賞受賞作品は、毎月投句する川柳塔（自由吟）の一部ですが、自由吟というのは、その人の心だと思っています。

一句は一幕の舞台という信念のもとに、一句一句の心や姿を丁寧につぎながら、生きる哀しみを詠み続けられたらと願っています。

身に余る賞をいただいたことを励みに一層の精進をとの思いを新たにしているところです。

暖かいご声援をありがとうございました。

柳 歴

平成二十六年 誌友

平成二十九年 同人





## 令和4年度 路郎賞得点表 (応募総数105名)

1位 = 5点    2位 = 4点    3位 = 3点    4位 = 2点    5位 = 1点  
(表の数字は得点)

選者 \ 作家	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
小島 蘭幸				1	4	3	5				2				
新家 完司	3	1	2		5						4				
稲見 則彦	5						1					4	2		3
川本真理子					4	3	5			2				1	
鴨谷瑠美子	5						3		4	2					1
谷口 義		3			4				5	1			2		
山野 寿之			3	2				5	1	4					
吉村久仁雄				1	3			4	2	5					
安土 理恵			5		3			1	2		4				
藤井 宏造	3				2			5		4			1		
岸本 宏章	3					2			5	1					4
斉尾くにこ	1							4	5		3				2
永見 心咲	3				4		1		5					2	
<b>計</b>	<b>23</b>	<b>4</b>	<b>10</b>	<b>4</b>	<b>29</b>	<b>8</b>	<b>15</b>	<b>19</b>	<b>29</b>	<b>19</b>	<b>13</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>10</b>
	鴨田昭紀 <small>(三原市)</small>	高杉千歩 <small>(大阪市)</small>	宇都満知子 <small>(大阪市)</small>	藤井寿代 <small>(松江市)</small>	平井美智子 <small>(大阪市)</small>	小畑定弘 <small>(河南市)</small>	辻内次根 <small>(土佐清水市)</small>	西田美恵子 <small>(西予市)</small>	澤井敏治 <small>(堺市)</small>	倉益一瑤 <small>(鳥取市)</small>	森田旅人 <small>(河内長野市)</small>	田賀八千代 <small>(鳥取市)</small>	今井万紗子 <small>(堺市)</small>	丹下凱夫 <small>(岡山市)</small>	黒田茂代 <small>(西予市)</small>

令和4年度 川柳塔賞

川柳塔賞準優秀作第一席

門真市



坂本星雨

黒石市 北山 まみどり

風よりも静かに母が逝くなんて

精一杯生きると満開の桜

子育てを委ねる ふるさとの自然

独りには贅沢すぎる秋の天

善人に一瞬戻る除夜の鐘

万歩計すねたのだから進まない  
どの辺をさ迷っている記憶力  
齢とはこんなにもろいものなのか  
母の身を案じながらもまだ頼る  
いつまでも娘のまままでこのままで

川柳塔賞準優秀作第一席

山口市 中前 幸子

月の暈かすかに愛の脈が打つ

最高のシナリオ夜の観覧車

裏切ったまま浮上せぬ深海魚

ざりざりまで信じた底の無いカップ

終列車わたしの生命線走る

コロナ禍の完全終息も見えず鬱鬱と作句のペンも捗らないおり栄えある川柳塔賞受賞の一報に信じ難く驚いております。

川柳のおかげで出会えた多くの方々の優しさと励ましに支えられ今の私があります。

これからも自分自身を見つめ人の心に寄り添える川柳を目指し一層精進して参ります。

本当に有難うございました。

柳 歴

- 平成二十二年 川柳作句を始める
- 平成二十四年 番傘わかさ川柳会入会
- 平成二十七年 番傘川柳本社 同人
- 平成二十二年 川柳塔 誌友
- 令和三年 第6回 水府賞受賞

## 令和4年度 川柳塔賞得点 (応募総数55名)

1位 = 5点    2位 = 4点    3位 = 3点    4位 = 2点    5位 = 1点  
(表の数字は得点)

選者 \ 作家	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
小島 蘭幸			5			2		4		1		3			
新家 完司			3	1		5				2	4				
稲見 則彦		2				4	3					1			5
川本真理子		3	4			2	1			5					
鴨谷瑠美子						4	3		2	5				1	
谷口 義			2			1				3		4			5
山野 寿之			4				5				2	3			1
吉村久仁雄		5						1		4				3	2
安土 理恵	1			3			5			4					2
藤井 宏造			5			4			3			2			1
岸本 宏章	3		5					4				1			2
斉尾くにこ			2				4	3		5					1
永見 心咲			5				1			4		3			2
<b>計</b>	<b>4</b>	<b>10</b>	<b>35</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>22</b>	<b>22</b>	<b>12</b>	<b>5</b>	<b>33</b>	<b>6</b>	<b>17</b>	<b>0</b>	<b>4</b>	<b>21</b>
	恵利菊江 (宮崎県)	饗庭風鈴 (生駒市)	坂本晴雨 (門真市)	荒牧孝子 (芦屋市)	近藤風羅 (大阪市)	北山まみどり (黒石市)	中前幸子 (山口市)	村上和子 (尾道市)	花岡順子 (大洲市)	月波与生 (青森県)	中島通則 (富士見市)	岡田恵子 (大阪市)	折田あきこ (大阪市)	神崎江 (柏原市)	坂野澄子 (河内長野市)

# 令和4年度 愛染帖賞

## 受賞作品

東京都 川本真理子

吹き出しの中の「・・・」気分  
娘からの絶交状も取ってある

「捨てるかな」までに時間がかかりすぎ

砲弾も白球も飛ぶ広い空

虫けらになって抗議の声あがる

評 川本真理子：「吹き出しの中の気分」や「絶交状も取ってある」など、自分の心と行動を見詰める目が冷静且つ的確

そして、「砲弾も白球も飛ぶ」外部に対する観察眼も鋭い。

高杉千歩：自らの現状「老い方の見本」「車椅子がソファ」

も秀逸だが、「せめて十歩」の正直さも高く評価する。

水野黒兎：当然のことと見逃している事柄に対して、「無茶か果敢か」「怪しい決まり方」など鋭い分析力を買う。

岸本 清：「うんこミュージアム」という名称「付度を盛った」食レポなど、見付ける力はピカイチ。  
(新家完司)

## 準賞作品

大阪市 高杉千歩

老い方の見本を見せる車椅子

人生の放課後車椅子がソファ

せめて十歩私の足で歩きたい

豊中市 水野黒兎

どこまでが無茶か果敢かアスリート

全会一致なぜか怪しい決まり方

さあと腰あがるが薬飲むため

府中市 岸本清

究極の空間うんこミュージアム

付度を盛って食レポ羞無し

自然薯のように私は永らえる

## 柳 歴

平成二十六年 川柳塔 誌友

平成二十七年 川柳塔 同人

令和 元年 愛染帖賞準賞受賞

令和 三年 愛染帖賞準賞受賞



川本真理子

新家先生からの直々のうれしいお電話に、思わずとったWガッツポーズ。準賞を二回も頂き、本賞はとてとても思っておりましたので喜びもひとしおでした。

特定の会に所属しておりませんので、川柳塔の先生方、同人、詩友の皆様、どうぞこれからもよろしくご指導下さい。ありがとうございます。

受賞作品

鳥取県 齊尾 くにこ

残像を抱いてあの日のカフェの椅子

評「くにこさんの句。「残像を浮かべ」ではなくて「残像を抱いて」であることから、その思い出が今でも自分にとって大切なあなたかきものであることが伝わってくる。孔美子さんの句。「有るわ」の「わ」から、一見揺るぎないように見える石の中にも「漂うものがある」ことに気付いた、軽い驚きと安堵が感じられる。ひとみさんの句。「あなたの罨」に落ちたことをむしろ喜んでいいることが、「すっぽり」と「からうかがえる。」

評「樽様賞」に寄せられた年間五千句もの力作に、選者としてじっくり向かい合うことができ、有意義な一年間でした。その中で輝かしい受賞句となった句、あるカフェのドアに柔らかな秋の陽が射しこみ物思いにふける人物像が読み手にも伝わり、セピア色した写真の一枚か、懐かしい映画のワンシーンを見ていいるような、しみじみとした幸せそうな絵が浮かぶ。上品で何気ない、それでいて時間の経過、人生を思わせる重厚さがある秀句です。

(葉原 道夫)  
(久保田千代)



齊尾くにこ

吉報は突然にもたらされました。驚きと嬉しさと、続けていれば、ご褒美が頂けるのだとしみじみおもいました。  
歴史ある川柳塔の樽様賞受賞はとても光栄におもいます。  
これを励みにして学びながらまた一句ずつ創っていきます。選者様ありがとうございます。

柳 歴  
平成十七年 新聞初投句  
平成十九年 川柳塔 誌友  
平成二十二年 川柳塔 同人

準賞作品

鳥取県 吉田 孔美子

石の中にも漂うものが有るわ

三田市 上田 ひとみ

すっぽりとあなたの罨に落ちました

候補作品

枚方市 丹後屋 肇

ギブアップしてはならない子守歌

大阪市 森 廣子

淡いピンクを温めているおばあちゃん

受賞作品

河内長野市 森田旅人<sup>もり たつひと</sup>

アドリブで生きたまゆらの陽の光

評 本賞、旅人さんの句、時には気転を利かせることもある日、暮らしのメリハリを感じさせます。目のつけどころはもとよりリズム感も素晴らしい作品。

準賞、ひとみさんの句、やわらかい表現で味わい深い作品。和織さんの句、文字通りユーモア句。とりわけ「柩まで軽い」に惹かれます。

(初代 正彦)

評 今年の選考は少し難しかったようです。その中で、旅人さんの句、アドリブで生き・・と一瞬、軽そうに詠まれその実、玉響という言葉が印象的で、下五「陽の光」への着地が、重き命の想いを伝えている受賞作品です。

準賞のひとみさんの句、いつもひとみワールドのほんわかとした句に心癒やされます。和織さんの句にユーモア川柳を味わい、二句とも素晴らしい作品と思います。

(久保田 千代)



森田 旅人

準賞作品

この場所で咲いていたこと忘れない

ちやらちやらの男で柩まで軽い

上田ひとみ<sup>うえだ</sup>  
廣田和織<sup>ひろた</sup>

候補作品

あわてるな水が澄んだら見えてくる

僕の芯を作ってくれたのはお米

牧野芳光<sup>まきの</sup>  
栗田忠士<sup>くりた</sup>

身に余る賞をいただきました。

好きで好きで追い続けてる川柳さんから「片想いではないよ」と微笑み返してもらったよう。

うれしいです。いつそう身を入れて追いかけます。導いてくださった先生、先輩、柳友、出会ったすべての方に感謝します。

ありがとうございます。

柳 歴

平成二十六年 川柳を始める  
平成三十年 川柳塔 同人

# 令和4年度 各地柳壇賞

## 受賞作品

### 子育ても味付けも皆目分量

大阪市 宇都 満知子



宇都 満知子

句会での出句した中から提出した一句。掲載された句の中から佳句地十選に載せて頂ける。今回はその上の各地柳壇賞に選んで頂きました。とても驚き、とても嬉しく、感謝しております。ありがとうございました。

柳 歴  
 平成二十四年 川柳塔すみよし入会  
 平成二十五年 川柳塔社 誌友  
 平成二十七年 川柳塔賞受賞  
 川柳塔社 同人

評 受賞の満知子さんの句、マニュアルがなくても子育ては出来るし、レシピなどなくても美味しい料理は出来る。「目分量」から強さ、遅しさがじわりと伝わってきます。準賞のまつおさんの句、いつもぶれないで、しつかりきれいな円を描けるのは素敵なことですね。準賞の理恵さんの句、コロナなんて何のその、互いに励まし合いながら明るく元気に乗り切りたいものです。  
 (高杉 力)  
 評 何もかも熟知したうえで、目分量、という絶妙の匙加減。仕上がりが楽しみな納得の一句。  
 準賞1人の輪の中心で、ぶれない存在が頼もしい。力強さ、を感じさせる一句。  
 準賞2のときに掛けそうになったとき、こんな励ましを貰うとうれしい。口語に依る表現が巧みな一句。(中村 惠)

## 準賞作品

中心がぶれると円が描けない

へこんだらアカンよ空気入れたげる  
 松原市 森松まつお  
 桜井市 安土 理恵

## 候補作品

話題にもならずこの世の隅にいる

残照よまだ励ましてくれますか  
 倉吉市 牧野 芳光

ひとつまみ程の味が居てくれる  
 海南市 小谷 小雪

ちよつとした冒険妻の手を握る  
 神戸市 青木 公輔

鳥取市 平尾 正人



# 第28回 川柳塔まつり

## 《 同人 総会 ・ 議 事 》

と き 2022年10月1日(土) 午前10時~11時

と ころ ホテルアウィーナ大阪 3階 生駒の間

2021年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2022年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

## 《 各賞表彰式・記念句会 》

と き 2022年10月1日(土) 午前11時開場・午後1時開会

と ころ ホテルアウィーナ大阪 4階 金剛の間

開会の辞 川柳塔社 理事長 新家完司

挨拶 川柳塔社 主幹 小島蘭幸

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし 「光を失って手にした五七五」

RP-net 川柳会「もやい傘」代表 山本 進 氏

兼 題 「楽しみ」 川柳塔社 上田 ひとみ 選

「とける」 川柳塔社 藤井 宏造 選

「再 び」 川柳塔社 伊達 郁夫 選

「 味 」 川柳塔社 居谷 真理子 選

「 点 」 川柳展望社 天根 夢草 選

事前投句 「自由吟」 川柳塔社 小島 蘭幸 選

閉会の辞 川柳塔社 副主幹 川上 大輪



# 同人総会

に変更し、五五八名の参加者を得た。  
・第十回「春の川柳塔誌上大会」を実施し、五四二名の応募を頂いた。

二〇二二年（令和四年）度第五十七期川柳塔社同人総会は十月一日午前十時よりホテルアウイーナ大阪で開催された。総務部

江島谷勝弘の司会で開会し、冒頭小島蘭幸主幹から、コロナ禍のため三年振りに開催できたことを皆様と共に喜び、日頃の川柳塔社への協力支援に感謝が述べられた。その後小島蘭幸主幹を議長に選任して、議案審査に入った。

第一号議案の二〇二二年（令和三年）度事業活動を藤村亜成企画事業部長が報告した。

・二〇一九年（令和元年）九月十八日、第五十四期同人総会を開催した。二〇二〇年（令和二年）「第五十五期同人総会」

二〇二二年（令和三年）「第五十六期同人総会」はコロナ禍のため中止をした。

・二〇二二年（令和元年）十一月八日に「第三十回高野山川柳塔碑合祀祭」を開催。八名を合祀した。二〇二〇年（令和二年）二〇二二年（令和三年）はコロナ禍のため中止・延期をした。

・第二十七回「川柳塔まつり」は誌上大会

「川柳雑誌・川柳塔誌電子化事業」は川柳塔誌一―一―号まで、同人・句文集も合計四四冊の電子化を実施した。

次いで内藤憲彦会計部長から二〇二二年（令和三年）度の収支決算及び財産目録の提示と報告があり、初代正彦会計監査が監査承認の報告があった。質疑は無く、一号議案は承認された。

第二号議案の二〇二二年（令和四年）度の事業計画について藤村亜成企画事業部長から各別別に活動計画を提案。また、内藤憲彦会計部長から新年度予算案が提案された。

本件も、質疑は無く、二号議案も承認された。

第三号議案として、新家完司理事長より役員の新任、再任人事が提示され拍手をもって承認された、新役員は後掲。

新役員を代表して藤田武人新常任理事の挨拶があった。

最後に川上大輪副主幹の閉会の辞で総会を終了した。



主な受賞・表彰

\* 本社会月間賞永久保持者 上田ひとみ  
 出版・句集の発行

\* 山下 凱柳 句集

「愚蛙の戯言」

\* 柴原道夫・堺 利彦編

「近・現代川柳アンソロジー」

\* 松岡 篤 川柳句集

「ただいま三合目」

\* 翠洋会

「翠洋 合同句集Ⅹ」

\* 川柳塔すみよし

「合同句集Ⅱ」

\* 大山句座

「大山滝 (五)」

\* ほたる川柳同好会

「創立三十周年記念合同句集(第6句集)」  
 物故者(6名)

遠山 唯教 令和3年8月5日没 88歳

都倉 求芽 令和3年10月3日没 93歳

山口弘委智 令和4年2月18日没 89歳

山東日出雄 令和4年4月27日没 70歳

内海 幸生 令和4年5月2日没 92歳

奥田みつ子 令和4年5月20日没 90歳

新任役員(再任・留任は含まず)

常任理事 平賀 国和 藤田 武人

山下じゅん子

相談役 木本 朱夏

理事 石田 孝純

きとうこみつ

永井 松柏

新同人(令和3年10月〜令和4年9月)

東 定生(奈良市) 東 敏郎(大阪市)

石澤はる子(黒石市) 大沢のり子(大阪市)

折田あきこ(大阪市) 北山まみどり(黒石市)

阪井 恵子(大阪市) 櫻井 崇史(神戸市)

妹尾令位子(米子市) 新阜 義明(神戸市)

松田蟻日路(豊中市)

同人総会出席者(受付順・63名)

松岡 篤 上田ひとみ 江島谷勝弘

山田 厚江 羽奈 和子 藤井 智史

鈴木いさお 牧野 芳光 平賀 国和

藤村 亜成 石田 孝純 片山かずお

藤井 宏造 伊達 郁夫 木本 朱夏

廣田 和織 小島 蘭幸 森松まつお

山下じゅん子 大久保眞澄 藤田 武人

山田 耕治 きとうこみつ 梶谷 和郎

山野 寿之 村田 博 内藤 憲彦

敏森 廣光 上田 和宏 新家 完司

中堀 優 柴原 道夫 高杉 力

新阜 義明 櫻井 崇史 吉村久仁雄

大浦 初音 川上 大輪 森田 旅人

初代 正彦 宇都満知子 朽尾 奏子

坂 裕之 近兼 敦子 加藤江里子

原田すみ子 古今堂蕉子 居谷真理子

金子美千代 西出 楓葉 山本希久子

松尾美智代 松田蟻日路 小野 雅美

石田 隆彦 齋藤さくら 中井 萌

内田志津子 緒方美津子 磯島福貴子

久保田千代 松原 寿子 榎本 舞夢



# 記念表彰・記念句会



十月とは思えないほどの残暑厳しい一日（土）、第28回川柳塔まつりがホテル・アウイーナ大阪で開催された。コロナ禍の2年間、誌上大会として実施されたま



脇取 雅美・智史 司会 隆彦



つりは、3年ぶりに顔が見える、声が聞こえる大会となり、同人、誌友はもちろん、他柳社からの川柳愛好家など、参加者220名の盛会となった。

記念品の舞昆の塩昆布や、栃尾奏子さん手作りのクッキーなどが入った封筒を片手に、旧交を温め合う参加者を、会場正面から麻生路郎師の胸像が見守っていた。

司会進行は石田隆彦・栃尾奏子。新家完司理事長の開会の辞、小島蘭幸主幹の挨拶、その後、六賞の表彰が行われ、各受賞者には表彰状と記念の楯が贈られた。続いて誌上大会では紹介できなかった2年間と今年度の新同人36名の内、出席者の15名が紹介され、代表して名古屋市の山本三樹夫さんが新同人としての抱負を述べられた。

おはなしはPPinet川柳会「もやい傘」代表山本進氏の「光を失って手にした五七五」。三年越しで実現したおはなしに会場は聞き入っていた。（詳細は75頁参照）お話の後、主幹を囲んで表彰者及び新同人の記念撮影が行われた。

内藤憲彦副理事長の指導の下に太極拳で体をほぐした後、いよいよ川柳大会。



まつりを「楽しみ」にしていた気持ちの  
伝わる披露から始まり、主幹選の「自由吟」  
まで、天位には記念品が贈呈され、恙な  
く進行、川上大輪副主幹の閉会の辞で、  
再会を約しながら終了した。(眞澄)

月間賞は片岡加代さん(大阪市)

(司会―隆彦・奏子)(協取―雅美・智史)

(懸垂幕墨書―耕治)

(清記―憲彦・勝弘・国和)

(撮影―松岡恭子)



受賞者(敬称略)右から、宇都満知子・森田旅人・澤井敏治・主幹・  
平井美智子・坂本星雨・川本真理子・斉尾くにこ



新同人の方々(蘭幸主幹を囲んで)

おはなし

## 光を失って手にした五七五

R P i n e t 川柳会 山 本 進

私は一昨年の箱根駅伝では創価大の10区・嶋津雄大君に注目していました。二人を抜いて9位でゴール。区間新記録。翌年は4区で日本人トップの区間2位。創価大は準優勝。今年はまだ4区で6人抜きの間賞。創価大は7位で、3年連続のシード権を獲得。実は、彼は私と同じ眼の難病・網膜色素変性症（RP = Retinitis Pigmentosa）の患者です。

RPは国の「指定難病338」の一つで、夜盲、視野狭窄、視力低下、羞明が主な症状です。私は36歳の時、帰宅時に勤務していたLNG工場の側溝にはまったことがきっかけで眼科を受診し、RPと診断されました。そう言えば、以前から暗い所で見にくかったり、事務所のゴミ箱を蹴飛ばしたり、車の運転中に電柱やトンネル



山本 進氏

の側壁にぶつかりそうになったり、文字が欠けて見えたりしていました。眼科医から「この病気は遺伝子の病気で、現在治療法はありません。将来失明するかもしれません」と引導を渡されました。

それから37年。現在では①i P s細胞による再生移植治療、②人工網膜の開発、③遺伝子治療、④薬物治療等、各分野で研究が進んでいます。未だ実際の治療法はありません。治療法の開発は寿命との競争になっています。

眼科医の診断どおり、RPは徐々に進行、文字を拡大しても読み辛くなり、仕事にも支障が出て、満50歳の誕生日に退職。退職したものの、何もすることがなくぶらぶらしていると、家族から毎日のように、将来失明しても一人で生活できるように、日常生活訓練を受けるように催促され、しぶしぶ日本ライトハウス視覚障害者リハビリテーションセンターに入所しました。白杖による歩行訓練、パソコンの技術習得、点字の読み書きを中心に一年間の寮生活を送りました。ここでは点字とパソコンについて少し触れてみましょう。

皆さんは、視覚障害者といえばほとんどの人が点字の読み書きができると思っておられませんか。20年前の調査では、点字利用率は10・6%。その後、視覚支援学校の生徒・学生の減少や中途視覚障害者の増加、IT機器の普及などによって、今では10%を割っているかもしれません。

次に一マス六点で「いろは46文字」が表せるのか。数字の組み合わせの公式を使って計算すると、六点で63通りの組み合わせがあります。これで十分なのです。

さらに、「弁慶がな、ぎなたを持って」と、区切るところを誤って読む「ぎなた読み（弁慶読み）」を防ぐために、仮名が並ぶ点字には「マスあけ」というルールがあります。

また、墨字と同じように、点字にも「漢点字」と「六点漢字」という2種類の漢字が考案されています。ただ、非常に複雑なので、50年経った今も公認されていません。私は3マスで漢字を表す六点漢字を覚えました。パソコンのアプリを使って川柳を書くのに重宝しています。

私はパソコンは点字入力。FJをホームポジションにして、その周辺のキーを7本の指で操作すればほとんど入力できます。それに六点漢字を使えば変換キーを使わず一発で漢字が出てきます。今では頭より指の方が賢くなっています。

話は少し前に戻りますが、RPが進行しだした40歳過ぎに、このままでは好きな読書や金剛登山ができなくなる、何かそれに代わる趣味はないかと探していた時に出会ったのが毎日新聞の中畑流万能川柳でした。私にも簡単に出来るかと勇んでハガキを出しましたが、全く掲載されません。郵便局員がちゃんと配達していいのではないかと本気で疑ったこともありました。しかし、その冤罪が晴れる時が漸くやって来ました。「長電話並んだ列が悪かった」。それをきっかけにどんどん載るようになりました。そして、退職後は番傘に投句したり、各地の句会に参加するようになりました。

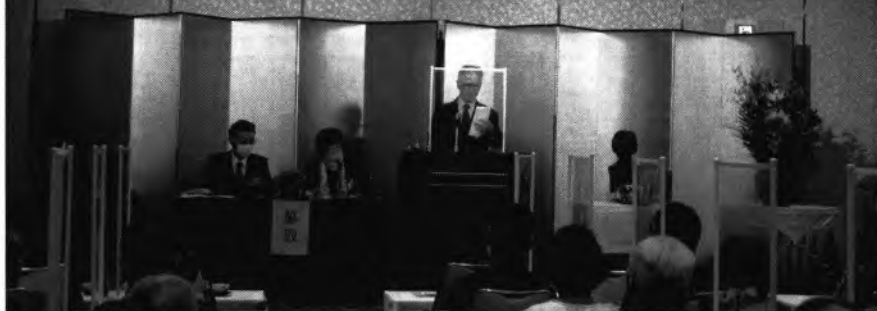
私が句会に参加する時は、兼題の句をパソコンで書いて印刷して会場へ持参、ガイドヘルパーさんに句箋に清書してもらいます。その間に席題を作句して6Bの鉛筆でメモ用紙に横書きします。途中で止まると、文字が重なったり空白ができるので、句は一気に書き上げます。皆さんも6Bをお使い

のようですね。こんな句がありました。「6Bで川柳を書く眉も描く／居谷真理子」。

一方、日常生活訓練を受けて自信を付けた私は、病気を受容できるようになりました。10年余り患者会活動を続けた後、RPの仲間に声をかけ、「RP net川柳会」を10数名で発足させました。それから11年、今や72名の会員を擁する句会に発展しています。視覚障害者80%、嗜眠者20%です。eメールで毎月句会をやっています。途中から「もやい傘」（相合傘の意）というペットネームを使っています。

では最後に、視覚障害者に因んだ文芸・文学を三つご紹介しましょう。まず、古川柳の「百人で九十九人は蛇に怖じ」という句。裏に百人一首が隠されています。百人の歌人の中に一人だけ蛇に怖じない人、つまり視覚障害者がいるというわけです。それは蟬丸です。二つ目は、著名な作家の手になる視覚障害者が主人公の小説。①さだまさし著「解夏」（ペーチェット病の男性小学校教諭）。②宮尾登美子著「蔵」（RPの酒蔵の娘）③浅田次郎著「めぐりあい」（RPの女性マッサージ師）。いずれも感動的なドラマです。三つめは、琵琶法師。平安時代中期に現れた盲目の僧体芸人で、鎌倉初頭に街角で、琵琶の音に合わせて平家物語を語っていました。現在「平曲」には前田流が残っていますが、私は、講談調山本流で「祇園精舎」のくだりを二分間語ってみましょう。最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございます。

# 第28回 川柳塔まつり



## 参加者の感想

### 今日もつばや句

饗庭 風 鈴（誌友・奈良）

今年の川柳塔まつりは三年ぶりという。二百名を超える大盛況の会である。やはり五感で味わう句会は楽しい。目で読むだけの誌上句会とは天地の差である。活字で知るだけの人が確かに其処にいて十人十色の呼名をする。わが名を発する番は最後に一度だけ。

たまたま隣の席には、新同人に紹介された川本信子さん、二言三言の会話がまた楽しい。日の浅い私は旧交を温めることはないが、新しい出会いが嬉しい。

これからも句会に身を置いてつばや句会にしよう。

### 川柳で文字と接する時間が増えました

青木 ゆきみ（誌友・大阪）

初めて川柳塔まつりに参加しました。思えば一年前、城北川柳会にどうぞ、とお誘いいただいたご縁をきっかけに、あまがさき、西宮北口、そして今年1月か

ら本社句会に参加しております。

初めて飛び込んだ世界の感想は、皆さま物知りで、丁寧に接していただける方が多いこと、女性はおしゃれで気品があり、男性は紳士、そう感じています。「よう来てくれたね」「ご苦労さん」など声もかけていただけました。

まつり当日は丁寧なアナウンスに困ることもありませんでした。また蔵書コーナーから5冊もいただきました。楽しい時間をありがとうございました。

### まつりに参加して

石田 孝 純（同人・大阪）

川柳塔まつりは二度目の参加でしたが、今回も会場の広さと参加者の多さに圧倒され緊張の一日でした。

その中で新同人の紹介をして頂きましたが、コロナの中止がなければ私は二年前の紹介だったので、少々色褪せた新同人ではないかと面映ゆい気持ちでした。

私にとって川柳は、日常生活の中の一つのアクセントです。しかし会場で皆様の笑顔や輝いているお顔を拝見し、川柳はもう生きる原動力の一つになっているのではないかと感じた一日でした。

## 第28回川柳塔まつり

桑原 すよ (番傘・大阪)

抜けるような青空の下、第28回川柳塔まつりおめでとございます。

みなさん、待ちに待ったこの日、どの方も嬉しさに輝いておられます。

普通の生活を取り戻す事がこんなに難しいと感じたのは私だけだったでしょうか。耐えた日々を超えて、右から左から元気な呼名が飛び交い、心の震える思いでおりました。

また元気に次の機会をお約束させていただきます。ありがとうございます。

## 第28回川柳塔まつりに参加して

篠原 伸 廣 (川柳展望・兵庫)

第28回川柳塔まつりのご盛会おめでとうございます。

私は他柳社の大会に参加したのは、初めてでした。川柳展望社と同じ会場で大会を致しますので、今回はコロナ対策で展望社の円卓の正餐形式とは異なり、学校のスクール形式で2人用のテーブルの間にアクリル板の仕切りがあり、正面に麻生路郎先生の胸像が置かれ引き締まった感じがしました。締め切り時間20分前

の句箋の「中取り」は、あまり意味がないように思いました。

## 楽しい時間

近 兼 敦 子 (同人・兵庫)

3年ぶりの川柳塔まつりの開催です。

久しぶりにお会いできた方もいたのでしよう。あちこちで、皆さん楽しそうにお話されていました。私も、名札をつけていたおかげで、お声をかけていただき、とても嬉しかったです。

披露が始まり、緊張感の中にもユーモアのある句に、クスツと笑いもあって、楽しい時間を過ごさせてもらいました。

誌上ではない句会はやっばりいいですね。来年はもっと成長して、川柳塔まつりに参加します。

## 会いたかったね

敏 森 廣 光 (同人・兵庫)

二年間、コロナの影響で開催できなかっただけに、待ち受けていた多くの参加者であふれ熱気に包まれた川柳塔まつりでした。

「おはなし」も、光を失われる過程と、ハンデのある方の句会運営のご苦労にふ

れられ興味深いものでした。

そして記念句会。緊張と笑いの中で淡々と披露が進められました。やはり生でいい句にふれる、いいもんですね！今後の研鑽を決意する機会になりました。

主催者のご尽力に感謝します。

皆様、来年も元気で会いしましょう。

## 川柳塔まつりに参加

山下 じゅん子 (同人・奈良)

これまで他人事と思っていた川柳塔まつりに役員として参加。9時には役員さん方が喜々として持ち場についておられ、川柳塔まつりが始まるのだとワクワクしてきました。

「光を失って手にした五七五」の山本進さんのお話は、箱根駅伝で大活躍した創価大学の島津雄大選手と同じ網膜色素変性症というところから始まり、ハンディを乗り越えて進む逞しさを声からも感じ取れました。

晴れ晴れとした受賞者の方々の笑顔など会場は3年ぶりの活気に溢れていました。私も頑張って作ったつもりが全没。帰路、全没仲間とご馳走を食べて帰り楽しい一日でした。



# 川柳大会入選句

## 楽しみ

上田 ひとみ 選



わくわくと待っていました塔まつり  
 初参加むね踊らせて待つ呼名  
 自信作できて句会が待ち遠し  
 そぞろ満ちてくる琥珀色の時間  
 徘徊へ老父はゆらゆら頼ゆるめ  
 ホームセンター一泊ツアーあれば行く  
 ここからは未体験ゾーンのいのち  
 貴方のその笑みを貯金する  
 フランクな友で垣根がないのです  
 楽しみは小出しでこっそりと食べる  
 素うどんを作ってくれる母が居る  
 退院後飲もうあいつとあいつとも  
 たわいない夫の話聞いている  
 リハビリのノルマ果たして飲むビール  
 楽しみを明日に残した子の寝顔

初代 正彦  
 大浦 福子  
 新家 完司  
 中村 恵  
 吉村久仁雄  
 青木ゆきみ  
 菱木 誠  
 失名  
 柴田 桂子  
 岸井ふさゑ  
 中井 楓華  
 松岡 篤  
 加藤江里子  
 石田 孝純  
 上田 和宏

面会時間まだかまだかと待つベッド  
 楽しみですね大声で泣いてはる  
 楽しみはとっておいたら湿気まず  
 楽しみは傘寿となりし僕と酌む  
 明日逢えるブラウス買って髪切って  
 ご褒美はおすし屋さん決めて  
 楽しみのアトラクションで気絶する  
 長電話ほかに楽しみないさかい  
 猫の待つ家へ一直線になる  
 真夜中にシンク拭き上げ缶ビール  
 この場所ですいつも時間あの人と  
 ちよいと待つ俺の祭りがやって来る  
 年金日映画二本で泣き笑い  
 私を捨てたあなたの三年後  
 輪になって踊るこの世はパラダイス  
 百二歳と一緒に飢えたチュリリップ  
 寝たきりになったら開ける玉手箱  
 初めまして新人ですと声がした  
 束の間の楽しみくれた老いの恋  
 楽しみがグリコのおまけだった頃  
 楽しみが増えた婚殿いける口  
 コスモスの迷路抜けたら翔べそうよ  
 百均でメリーポピンズの傘を買う  
 次から次でプラス思考の薔薇が咲く  
 月一度単身赴任に妻が来る

藤井 宏造  
 川上 大輪  
 宇都満知子  
 糀谷 和郎  
 小野 雅美  
 近兼 敦子  
 谷口 東風  
 都 武志  
 柏原 夕胡  
 阪井 恵子  
 内田志津子  
 藤井 智史  
 中田 尚  
 栃尾 奏子  
 牧野 芳光  
 能勢 利子  
 山本希久子  
 大沢のり子  
 山崎 武彦  
 八木 幸彦  
 高杉 力  
 西 美和子  
 みぎわはな  
 山本さくら  
 矢倉 五月

秋の宵鰻のたたきと冷や二合

楽しみが溢れる朝の登山靴

美味い酒手に入ったと飲み屋から

孫娘少女の頃の君に似て

生後四日目笑った顔はあべっさん

マドンナもプリンスも来るクラス会

待つ人へ絵筆が弾む花切手

楽しみは老いた父との二人酒

もうちよつと待ってね腹を蹴るベビー

トトロからもらった森の新刊書

人

楽しみな年金いつも同じ額

それでもと楽しみぎゅつと引き寄せる

スニーカー買った体重計買った

傘寿の空どんな色だろ風だろう

軽トラに新米積んで父が来る

人

人生も敗者復活あるそうなの

地

楽しみにしときと遺言書に封

天

楽しみを長持ちさせるため咀嚼

軸

母さんとあれこれ話す夢の中

吉永 団風

丹後屋 肇

廣田 和織

中岡千代美

山田 厚江

萩原 狸月

木見谷孝代

西上 遊二

久世 高鷲

鈴木 かこ

天根 夢草

辻 肇

山田 耕治

桑原すゝよ

島田 明美

宗 和夫

居谷真理子

穂山 常男

# とける

藤井宏造 選



プーチンへ怒りなかなか溶けませぬ

汚染水溶けて流れて処理水に

溶け墜ちた燃料デブリ誰の罪

政界へ溶け込む為に寄付をする

群青の海に溶けてくわだかまり

囁きに姫はあつさり溶けました

ウクライナから来た人と打ち解ける

落日にとけだす開脚の姿勢

プロポーズ顔とろとろにして受ける

恩讐を酒に溶かして父と子と

たまらんな練乳かけたかき氷

抱きしめて溶かして欲しい瘦せた月

溶けてきたらしいあちこち痒くなる

オンザロックちあきなおみにとけてゆく

温かい言葉にとけていく誤解

モルジブの悲鳴は溶けていく氷河

母の髪とかし笑顔の車イス

川端 一步

天根 夢草

山野 双葉

松岡 篤

穂山 常男

中村 恵

谷口 東風

石橋 芳山

川端 六点

長高 俊雄

江島谷勝弘

高杉 力

川上 大輪

片岡 加代

東 定生

久世 高鷲

上辻美奈子

ダリの絵にとける私の安堵感

夕焼けは赤トンボから出来ている

歳月がゆっくり溶かす愛もある

水でも溶けだすほどのプロポーズ

水溶け水に近付くウイスキー

打ち解けて笑いが弾む縄のれん

善人のふりを止めたら解けた謎

化粧はげろう人形になる猛暑

これ以上褒めたら私とけますよ

数独が解けるまだまだ頑張れる

ボケットの拳を解いてする握手

わだかまりが解けたらおなかすきました

青春はアツと言う間のカキ氷

動脈に沁み込んでいく赤ワイン

シェーカーで溶かす今日一日の鬱

絡まったしこり解いた里の風

かき氷とけてさよならしてしまふ

氷山が溶け出し沈む国

盃に溶ける程度のわだかまり

溶けるまで待てない嘔んでしまう飴

蟠りとけて御萩も半分こ

肩書きがとれて気楽なループタイ

政界のからくり闇に溶かすまい

ようもったもんや夫婦がとけてゆく

野口真桜子

真島 涼

鈴木 かこ

中堀 優

原田すみ子

山野 寿之

石田 孝純

きとうこみつ

齋藤さくら

松尾美智代

廣田 和織

大沢のり子

牧野 芳光

居谷真理子

村田 博

小川賀世子

中井 佳子

田吹 宗鉄

大西 將文

みざわはな

初代 正彦

山崎 武彦

桑原ひさ子

田中 新一

水引きは解いてはならぬのし袋

ありがとうで疲れが消える介護の日

角砂糖溶けて私も丸くなる

冤罪でとけても世間目を瞑る

抱きしめていよう心がとけるまで

知恵の輪が解けたら知恵もなくなった

エルニーニョ氷がとけて沈む島

停電で冷凍品がパーになる

やっぱりね同じ痛みで打ちとける

生きるなら溶けよと迫るデジタル化

佳

お美しいなんて言われてとろけてる

腐葉土が溶けて明日の命抱く

彼の声に半分とける私です

バリトンの甘いことばにとけてゆく

仲たがい自然解凍しています

人

清流で溶けるハートを持っている

地

秋空へメゾソプラノがとけてゆく

天

赤ちゃんが笑うと溶けてゆく空気

軸

わたくしの汚れを溶かす珊瑚礁

丹羽 杏

能勢 利子

青木ゆきみ

本田 智彦

平井美智子

大久保眞澄

鈴木いさお

塚越 育子

木見谷孝代

辻 肇

柴本ばつは

伊達 郁夫

山田 厚江

菱木 誠

北川ヤギエ

森 茂俊

西出 楓楽

羽奈 和子

# 再び

伊達郁夫選



お久しぶり笑顔こぼれる塔まつり  
 再びの春人生は二毛作  
 再起へのチャンスを探る白い杖  
 再会へふたりで開ける玉手箱  
 古郷に精気戻った獺の夢  
 大阪にまた万博の長い列  
 再会を信じて今日の窓開ける  
 再びのない人生だから楽しまん  
 人間に戻してくれる酒二合  
 再びを信じ研いでる赤い爪  
 瘡蓋が取れてまたぞろ恋の虫  
 定年にネジ巻き直す落葉樹  
 今更を繋ぎあわせて返り咲く  
 輪廻転生してもあなたを愛します  
 再びのない人生を輝かす  
 再診を重ねいのちの重さ知る  
 二度づけはあかん浪速の串かつ屋

内藤 憲彦  
 長高 俊雄  
 川端 六点  
 松原 寿子  
 本田 智彦  
 上田 和宏  
 上田ひとみ  
 穂谷 和郎  
 田中 新一  
 森田 旅人  
 金子美千代  
 辻 肇  
 柴本ばつは  
 出口セツ子  
 坂本 星雨  
 中田 尚  
 矢野 野薫

再びの平和信じて竹を踏む  
 畳替え昭和の記事と巡り会う  
 酔うほどにくり返してる武勇伝  
 被爆地と再びなるなウクライナ  
 慟哭の蓋再びはない柩  
 マスク美人恋のページがまた開く  
 満月に再び猫へ戻る夜  
 形見分けリフォームをして母を着る  
 拉致の海再び逢える日が遠い  
 再会へ笑顔嬉しい塔まつり  
 再会を念じ続ける拉致の闇  
 捨てた夢拾い直して老いの道  
 もう一度挑戦したい逆上り  
 優しさに触れ再び気づく人の恩  
 再加熱すれば私もまだやれる  
 夢を見ましたもう一度会えますか  
 百越えた母が子供に日日戻る  
 再興はあるかガレキと化した街  
 再会の笑顔弾ける塔まつり  
 明暗は覚悟再び立ち上がる  
 先生がまた文春の記事に出る  
 休眠の恋が目覚める同期会  
 ばあちゃんの特技なんでも再利用  
 肉じゃがもカレーも翌日が旨い

齋藤さくら  
 藤田 武人  
 石田 隆彦  
 長谷川崇明  
 久世 高鷲  
 銭谷まさひろ  
 くんじろう  
 木見谷孝代  
 宮本 緑  
 上田 紀子  
 桑原ひさ子  
 宗 和夫  
 則末美代子  
 今井万紗子  
 吉道あかね  
 平井美智子  
 水野 黒兎  
 田中おさむ  
 坂上 淳司  
 富田 末男  
 両澤行兵衛  
 菱木 誠  
 岩田 明子  
 美馬りゅうこ

また来ると言ったでないの鯛雲  
恩返しできず再び墓掃除

再会をあきらめてない拉致家族  
再開発他人行儀な街になる

いまいちど逢いに来いよと夜空見る  
それぞれの暮らしを生きた同期会

再会をしたいと思う友が逝く  
来月もまた満月になれる月

恋がまたイチゴミルクになりたがる  
左手に小銭右手に再雇用

再会は必然赤い糸だった  
再起へと柘榴ぱっくり目を覚ます

まっ新でないが出直す靴はある  
リサイクルされて嬉しい母の帯

リプレーの検証ボクが生き返る  
人

思い出を武器に燃やしてきた命  
地

再びを信じ一会を噛み締める  
天

復活の狼煙は虹になりました  
軸

折鶴になつて羽ばたく再生紙

奥澤洋次郎

稲葉 良岩

鴨谷瑠美子

片岡 加代

山田 耕治

北村 賢子

古川 日向

三村 舞

真島 芽

真島久美子

小川賀世子

鈴木 かこ

桑原すゞよ

村田 博

川上 大輪

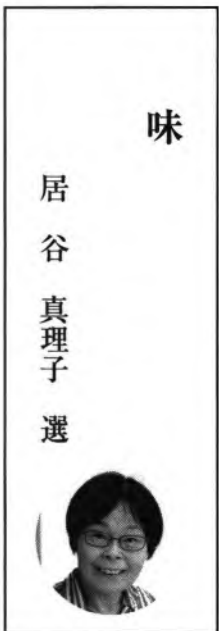
山内 迪

長島 敏子

小島 蘭幸

# 味

居谷 真理子 選



隠し味から消えてしまった妻の愛

美辞麗句という人工甘味料

風呂の熾から焼芋のAクラス

反芻し味わいつくす褒め言葉

敏刻みやつと味ある顔になる

絶妙の間で笑わせるプロの味

豆皿の梅干しそつと主張する

かくし味キリリとここで効いて来る

味気ない話に入れる親爺ギャグ

マクドナルド巴里で食べても同じ味

無味無臭きつと裏には何かある

煮え切らぬ男をお酢で締めてみる

平凡な味に満足する夫

カナダ産よりも永谷園の味

しまったの数ほろ苦く噛みしめる

ヒーローの弱味は妻が握ってる

幸せを味わう初孫のあくび

宗 和夫

平井美智子

久世 高鷲

中村 恵

中井 萌

内田志津子

櫻井 崇史

上田ひとみ

村田 博

きとつこみつ

糀谷 和郎

小野 雅美

近兼 敦子

藤田 武人

神田 良子

廣田 和織

澤井 敏治

辛かった頃のうどんの味が好き  
カタカナよりも平仮名のへに味がある  
粉ぐすりはまずそうな方買いました

じゃがいもはちよい煮くずれたのが好きだ  
無味無臭の男番犬にもならず

冷や飯を食べて来たからこそその味  
すっぴんの顔に何とも言えぬ味

味な真似してくれたなと嬉しそう  
これ以上とけたら不味いかき氷

ラブラブの舌に味覚は判らない  
居酒屋で再会できた母の味

一合の酒を味わうガード下  
隠し味は愛ですなんて嘘っぽい

どの国でも生きてゆけそう味音痴  
味半分見ばえ半分白い皿

コンピニの味で育った反抗期  
ブルシカ知らない孫の海の味

少年は酸味を残しつつ老いる  
美味しいと言えば美味しい味になる

飲み込んだ涙の味は忘れない  
脇役に徹し輝く紅生姜

腹の子に半分食わす旬の味  
道頓堀グリコも苦い待ち呆け

憎いのに別れの文に味があり

坂本 星雨  
正信寺尚邦

大沢のり子  
内藤 憲彦

桑原ひさ子  
吉道航太郎

八木 幸彦  
高杉 力

西 美和子  
みぎわはな

大西 將文  
木嶋 盛隆

岸井ふさゑ  
森 菊江

立蔵 信子  
酒井 紀華

木見谷孝代  
くんじろう

山内 迪  
永田 紀恵

野口真桜子  
川端 六点

藤島たかこ  
矢倉 五月

ただいまとおかえりの味お味噌汁  
出酒らしになつてちいさく老いてゆく  
わたしと財布 味わうには軽い

愛があればからあげだけのお弁当  
究極は塩味 君と生きていく

舌だけはまだかろうじて元気で  
動脈が勇んで運ぶ味噌の味

猿だつて好き嫌いある夢の味  
真実はうす味淡々と語る

円熟味です加齢とも言いますが  
佳

素うどんの苦勞政府にわかるまい  
アメリカン風味の吐息零される

ミックスジュース中途半端な恋のまま  
お口直しにいかがが私のドジ話

味が変わった貴女の心知つてから  
人

手料理を味わっているのは心  
地

苦虫の苦さ慣れると乙なもの  
天

恋の味わすれてなんかいませんよ  
軸

なめたつて旨ないうま味調味料

真島 涼  
木本 朱夏

原田すみ子  
栃尾 奏子

島田 明美  
宮本千恵子

稲葉 良岩  
米田 恭昌

鈴木 かこ  
大久保眞澄

錦織 久  
石橋 芳山

桑原すゞよ  
金子美千代

失名

柏原 夕胡

新家 完司

藤井 宏造

# 点

## 天根夢草選



笑点の看板スターまたは消え  
週刊誌が追う安倍教団の点と線  
小数点以下も気になる値上げ幅  
点滴をしながら雲を追いかける  
点と点繋げば南十字星  
戻るの字常用漢字点がない  
つい「点」をつけて涙に叱られる  
半濁点八行の肩がこそばゆい  
句点にはマールチョコを打ちました  
100点を取って震えが止まらない  
百点を取った事ないランドセル  
向日葵に負けぬ百点取った孫  
百点をとれば母さん泣いている  
どの子にも満点をやる持久走  
点字ブロック優しいですか白い杖  
滑るように点字をなぞる指の先  
点字の凸をたどるのにいる指の腹

多田 雅尚  
杉本 光代  
長島 敏子  
山本加お里  
佐々木満作  
北野 哲男  
青砥たかこ  
中井 萌  
岸井ふさゑ  
真島 芽  
松尾美智代  
柿花 和夫  
鴨谷瑠美子  
山野 双葉  
田中おさむ  
坂上 淳司  
藤井 宏造

凹凸の路面に意味のある点字  
触角を磨き点字で読む絵本  
見える人のため黄色くぬってある点字  
ポイントが貯まるカードはいいカード  
いつからか点取り虫になっている  
着地点あなたの胸と決めました  
点線を跨げば木の葉また木の葉  
幸せの沸騰点でゴールイン  
引き際の誤算を悔む早合点  
もう一度やり直す気で点を打つ  
弱点をさらして君が近くなる  
決められたところに降りる着地点  
取り敢えず寝よう合点は行かないが  
一点がこんなに遠いロスタイム  
頂点から落ち還暦の後遺症  
読点をきちんと打たぬまま句点  
落第が俺の大きな分岐点  
原点を見つめ直して再始動  
ノーマットでも点を取るそのなさ  
目標は平均点があれば良い  
飲み過ぎた朝点点になる記憶  
論点を巧みに逸らした逃げる  
満点の男おもしろみに欠ける  
人生の成績表は五十点

篠原 伸廣  
野口真桜子  
きとうこみつ  
三村 舞  
中堀 優  
柴本ばつは  
真島久美子  
塚越 育子  
穂山 常男  
吉道あかね  
島田 明美  
上田ひとみ  
吉道航太郎  
菱木 誠  
奥澤洋次郎  
居谷真理子  
古川 日向  
久保田千代  
油谷 克己  
西上 遊二  
斎藤 隆浩  
安福 和夫  
片岡 加代  
宗 和夫

永遠の点ポラリスの道標

小数点以下のわたしを切り捨てる

交差点行き交う人の顔がない

ニュータウンの終点にあるマイホーム

原点に還ると見える明日の空

百点の答弁に無い庶民性

テールランプを見送る母は点となる

点として生きる仮住まいのこの世

亡夫に点をつけるなら百点だ

生前葬はくの終点見届ける

大さめのピリオドを打つ秋ひとり

点取り虫と点を取れない人が言う

夕焼けのどこに打とうか返り点

沸点を超えたら恐い憤り

宇宙から見れば私が作用点

点描画やがては動き出すだろう

小数点切り捨てさせぬ点である

日の丸の大きな点は魂か

先生のためいい点とりましょう

軸

久世 高鷲

山本 進

今井万紗子

山田 耕治

山崎 武彦

水野 黒兎

緒方美津子

鈴木 かこ

宮崎シマ子

銭谷まさひろ

神田 良子

木見谷孝代

くんじろう

平賀 国和

真島 涼

川上 大輪

森田 旅人

森中恵美子

天

地

# 自由吟

小島 蘭 幸 選



いざ句会草鞋を腰に武者震い

毎日反省昨日も飲み過ぎた

庭の花摘んで行きますケアハウス

あやふやな平和の中で育つ孫

大国のエゴに地球が枯渇する

日本海寄せては返す波の哀

赤ちゃんが笑った福の神来たる

住む人のいない実家のガスを止め

色褪せた亡夫の服を今も抱く

雑草に埋もれて叫ぶナスきゅうり

家族の輪手料理という武器がある

起き抜けの冷気わたしの一等賞

東大を出てタレントになりたがる

昭和の詩がふるさとに來いと言う

私を知る人はだれもいない故郷よ

十人十色じつに人間おもしろい

結跏趺坐雑念ばかり湧いて来る

吉永 団風

江島谷勝弘

稲葉 良岩

青砥たかこ

上田 紀子

澤井 敏治

栃尾 奏子

高杉 力

桑原ひさ子

森 茂俊

松原 寿子

斉尾くにこ

みぎわはな

山本三樹夫

宮崎シマ子

藤村 亜成

木嶋 盛隆



診察券一枚減った酒うまし

電話には一番若い声を出す

切狂言心残さぬよう生きる

辛い日も白紙にしない日記帳

虹がでた二人はしゃいだ声になる

明日がある途方に暮れる今日だけど

十七の夏は海賊船に乗る

雷鳥も駒草も見た登山靴

風のマークつけて米寿の立ち姿

日々好日ビビッとほもう来ないけど

日本が昭和に戻る八月忌

世渡りが下手で信用されている

議事堂を覆うグラデーシヨンの闇

雨の夜は母の残した梅酒飲む

恋文の切手の位置がずれている

人生も仕上げの時よ赤とんぼ

花火咲くとき魂は上を向く

百歳の明日へ道連れは希望

お互いに背中を押している絆

老斑も母に似てきた墓参り

うまいもん仰山食べたええ顔や

遺影には照れずに言えるありがとう

人混みの中を歩いていた案山子

鮮やかな約束がある曼珠沙華

松岡 篤

藤田 雪菜

大内 朝子

藤田 武人

近兼 敦子

饗庭 風鈴

真島 涼

徳山みつこ

山本希久子

小川賀世子

平賀 国和

都 武志

吉道航太郎

大沢のり子

平井美智子

中井 萌

菱木 誠

木本 朱夏

西 美和子

金子美千代

鈴木いさお

山野 双葉

川上 大輪

吉道あかね

いつものとこで分かるようになりました

邪魔せぬよう嫌われぬよう輪の中に

孫六人曾孫二人の語り草

神様は見えているのに見ていない

いのちまだ朝昼晩と手を合わす

誰にともなくオヤスミと言って寝る

離婚届の重石に据えたカップ麺

戦争は無駄と知らない人がいる

いもうとが向日葵だった頃のこと

数の子をポリポリ妊活へ挑む

佳

疲れたらどうぞ我が家のティータイム

少年よ金色が零れているよ

今という奇跡に響くファンファーレ

輝ける七十七年のパトロン

混沌のこの世ワルツで参ろうか

人

歩けますように食べられますように

地

ティーシャツの大統領の力瘤

天

今はもう金魚命という美魔女

軸

ほんと生まれた父百句母百句

中岡千代美

北川ヤギエ

西出 楓葉

牧野 芳光

森中恵美子

新家 完司

山本 進

三村 舞

真島久美子

藤井 智史

丹羽 杏

柴原 道夫

桑原すゝよ

居谷真理子

岩田 明子

島田 明美

山田 耕治

山田 耕治

片岡 加代

片岡 加代

片岡 加代

片岡 加代

片岡 加代

片岡 加代

# 川柳大会参加者

総数 220名  
(順不同・敬称略)

〔埼玉〕 久保田千代 桑原ひさ子 栗原道夫 くんじろう 都 武志 宮崎シマ子 宮本千恵子

〔東京〕 川本真理子 耕 章 古今堂蕉子 齋藤さくら 森 茂俊 森田 旅人 森中恵美子

〔静岡〕 中田 尚 阪井 恵子 酒井 紀華 坂上 淳司 両澤行兵衛 矢倉 五月 山野 寿之

〔愛知〕 浅井 典子 金子美千代 坂 裕之 阪本 秀子 坂本 星雨 山野 双葉 山本加お里 山本希久子

〔三重〕 富田 末男 山本三樹夫 佐々木満作 澤井 敏治 柴田 桂子 山本さくら 山本 進 吉道航太郎 吉村久仁雄 青木 公輔 上田 和宏

〔大阪〕 青木ゆきみ 青木 隆一 初代 正彦 杉本 光代 鈴木いさお 上田ひとみ 緒方美津子 奥澤洋次郎

穂山 常男 油谷 克己 天根 夢草 鈴木 かこ 銭谷まさひろ 高杉 力 上辻美奈子 北野 哲男 梶谷 和郎

池田 純子 井澤 壽峰 石田 孝純 立堀 尚子 伊達 郁夫 立蔵 信子 輿水 弘 斎藤 隆浩 櫻井 崇史

磯島福貴子 今井万紗子 岩田 明子 田中 新一 田中 廣子 谷口 東風 篠原 伸廣 清水 成子 瀬島流れ星

内田志津子 宇都満知子 宇都宮ちづる 丹後屋 肇 辻 肇 土田 欣之 宗 和夫 多田 雅尚 田中おさむ

江島谷勝弘 榎本 舞夢 大浦 初音 津守 柳伸 出口セツ子 徳山みつこ 田吹 宗鉄 近兼 敦子 塚越 育子

大浦 福子 大沢のり子 大島ともこ 栃尾 奏子 内藤 憲彦 中井 佳子 土谷ひさ子 敏森 廣光 中井 楓華

小川賀世子 小野 雅美 柿花 和夫 中井 萌 長高 俊雄 中村 恵 中岡千代美 長島 敏子 永田 紀恵

片岡 加代 片山かずお 鴨谷瑠美子 西上 遊二 錦織 久 西沢 司郎 新阜 義明 西 美和子 丹羽 杏

川口 明 川端 一步 川端 六点 西出 楓楽 原田すみ子 平井美智子 野口真桜子 野口 龍 能勢 利子

川本 信子 神田 良子 岸井ふさゑ 平賀 国和 廣田 和織 藤井 則彦 野口真桜子 萩原 狸月 羽奈 和子

北川ヤギエ 北村 賢子 きとうこみつ 藤井 康信 藤島たかこ 藤田 武人 則末美代子 萩原 狸月 藤田 雪菜

木見谷孝代 久世 高鷲 桑原すゞよ 藤村 亜成 本田 富子 本田 智彦 坂東佐和子 藤井 宏造 藤田 雪菜

増原 文子 松井 正義 松岡 篤

松尾美智代 松田蟻日路 水野 黒兔

南 タカ子 美馬りゅうこ 三村 舞

古川 日向 堀 正和 みぎわはな 真鳥 芽

宮本 緑 村田 博 森 菊江

八木 幸彦 矢沢 和女 矢野 野薫

山内 迪 山崎 武彦 山田 厚江

山田 耕治 吉田 キミ

〔奈良〕 饗庭 風鈴 東 定生

安福 和夫 居谷真理子 稲葉 良岩

宇賀 史郎 大内 朝子 大久保眞澄

大西 將文 加藤江里子 木嶋 盛隆

飛永ふりこ 中堀 優 長谷川崇明

菱木 誠 山下じゅん子 吉富ひろし

米田 恭昌

〔和歌山〕 石田 隆彦 上田 紀子

柏原 夕胡 川上 大輪 木本 朱夏

小谷 小雪 松原 寿子

〔鳥取〕 斉尾くにこ 新家 完司

平尾 正人 牧野 芳光

〔島根〕 石橋 芳山 伊藤 玲峰

〔岡山〕 藤井 智史

〔広島〕 小島 蘭幸 吉永 団風

〔山口〕 兼崎 徳子

〔佐賀〕 真鳥久美子 真鳥 涼

ご芳志御礼（敬称略・順不同）

田中 新一・天根 夢草・小島 蘭幸  
新家 完司・川上 大輪・西出 楓楽

木本 朱夏・片岡 加代・居谷真理子  
上田ひとみ・上出 修・宇都満知子

江島谷勝弘・大久保眞澄・鴨谷瑠美子  
片山かずお・久保田千代・栗原 道夫

古今堂蕉子・坂 裕之・杉野 羅天  
鈴木いさお・高瀬 霜石・栃尾 奏子

内藤 憲彦・中前 幸子・平井美智子  
藤井 宏造・藤田 武人・藤村 亜成

松原 寿子・南 タカ子・森田 旅人  
山下じゅん子

番傘川柳本社・番傘わかき川柳会・  
卑弥呼の里川柳会・おりひめ☆ひこば  
し川柳会・美研アート

★以上の皆さまにご芳志拝受致しま  
した。  
有り難うございました。



# 愛染帖

新家 完司選

(投句255名)

宝塚市 岸田 万彩  
値上げ見るたびに人相悪くなる

(評)食料品を初めてとして多くの物価が高騰している昨今。値札を見るたびに眉間に皺が寄って、我ながらトゲトゲしい人相である。

河内長野市 大島ともこ  
ぬいぐるみ無いといい夢見られぬ

(評)ぬいぐるみを抱いて寝るのは幼い頃の習慣が沁み込んでゐるのだろう。眠るときぐらいは幼児に戻って楽しい夢をみたい。

宇部市 平田 実男  
奥さんも花も隣は美しい

(評)隣の芝生や花は美しく見えるものだが、奥さんまで美しく見えるとは。ひよっとしたら、お隣さんもそのように思っているかも。

大阪市 古今堂蕉子  
爆食いのテレビに何の意味がある

(評)つまらないテレビ番組もいろいろあるが、大食いで騒いでいるのもその一つ。まあナンセンスな面白さもアリはアリだが…。

倉吉市 宮田 風露  
百寿までまだ十五年あるじやない

(評)ということは現在八十五歳ということ。一応は立派な後期高齢者ではあるが、川柳界ではまだまだバリバリの現役世代である。

神戸市 奥水 弘  
長寿の扉開ける呪文はのんき節

(評)長生きの秘訣の一つは、何があっても「何とかなる。のんきのんき」と眩くこと。至難ではあるが心身共にリラックスできる。

宝塚市 丸山 孔一  
他人とは病隠してご挨拶

(評)腹を割って話せる友人ならともかく、あまり親しくない人にまで持病や体調不良のことは言わない。それも「礼儀」だろう。

岡山市 大石 洋子  
健康のパロメーターぞ屁と嘘

(評)オナラやクシヤミは身体からの信号。腸内の悪玉菌が増えるとオナラも比例して臭さが増す。スルーせず嗅ぎ分けてやろう。

松江市 中筋 弘充  
自分史の「はじめに」だけが校了す

(評)終活の一つとして自分史を書き始めたのだが「はじめに」から先が進まない。まだ人生を振り返る歳ではないのかもしれない。

大阪府 大浦 福子  
呆けたかも近頃あまり腹立たぬ

(評)ボケてきて感受性が鈍くなってしまっ

たのか? いや、人間が出来てきて少々のことは許せる度量が身についてきたのだ。

鳥取市 岸本 宏章  
安売りの卵も黄身はちゃんとある

東京都 川本真理子  
卵割る力加減もむずかしい

明石市 瀬島流れ星  
端っこから埋まる乗る気のしない会

箕面市 中山 春代  
わたくしを的に線状降水帯

大阪市 中島 幸徳  
思い切り眉間に皺を寄せてみる

大阪市 滝井えみこ  
階段を一睨みして昇る祖母

唐津市 仁部 四郎  
歳ごとにせわしくなりぬ劇事

黒石市 石澤はる子  
終の住処まだ迷つてる樹木葬

尼崎市 山田 耕治  
町内会質問したら役当たる

豊中市 きとうこみつ  
カレーライスにちよつと醤油が我が家流

河内長野市 村上 直樹  
ぶらぶらぶらお国自慢の出る足湯

鳥取市 倉益 一瑤  
自画像の顔半分がずれてきた

松山市 栗田 忠士  
新聞に教えてもらう日と曜日

折る手で折る形で蚊を叩く  
大阪市 島田 明美

栄転も左遷も顔つきが変わる  
三原市 笹重 耕三

丁寧に頼んで丁寧に断られ  
大阪市 谷口 義

猛暑日は日傘をさせと影の愚痴  
明石市 梶谷 和郎

やりくりが面倒くさくなってきた  
板井市 安土 理恵

二年ぶり出会った孫に髭がある  
大阪市 折田あきこ

梅干しになってしまったマスク下  
三田市 北野 哲男

免許証七十年の伴侶切る  
香芝市 山下じゅん子

いい智恵が湧く事もあり卒寿越す  
インコまで夫と同じ咳払い  
赤いマイカー シルバーマーク4つ貼る  
倉吉市 大羽 雄大

梅干しの一つ程度の厄払い  
犬山市 金子美千代

一日一回口角あげておまじない  
アシナガバチの駆除にびつくりする出費  
奈良県 長谷川崇明

「暑いなあ」以外に話す言葉なし  
催し事枕詞は「三年振り」

手を抜くと勝利の女神そっぽ向く  
堺市 村上 玄也

ピンチには神仏先祖皆拜む  
神戸市 城戸 誓子

口喧嘩妻から返る一万語  
豊中市 水野 黒兎

元氣よねうん生きてる一言言葉  
沖繩県 宮 すみれ

北からの波がつぶやく韓国語  
倉吉市 牧野 芳光

筋力低下頭の重さ知りました  
和歌山市 柏原 夕胡

切り詰めてフードバンクに寄付をする  
岡山市 丹下 凱夫

算数が苦手で金が貯まらない  
今生はにんげん来世はゴキブリか  
鳥取市 狭武 紫陽

ポジティブになろうなろうと悩みだす  
まあよしと認めて向かう次の坂  
西宮市 緒方美津子

荒縄を持ち歩いてます何か  
育てたらあかんよそれはトリカブト  
弘前市 稲見 則彦

廃屋の番をしている鬼薊  
めざし二尾今夜も旨い吟醸酒  
弘前市 高瀬 霜石

甘栗も甘納豆もよき肴  
飲んだあとなぜか目につくラーメン屋

河内長野市 木見谷孝代  
コロナ前と変わらず故郷待っていた  
見納めかもしれないと実家後にする  
男鹿市 伊藤のぶよし

運勢のいいところ取りで生きる質  
一本を抜くと三本生える棘  
佐賀県 真島久美子

血圧計振り切れそうな痩せ我慢  
おひとりのライフスタイル究めの中  
三田市 村田 博

磨り減っている訳でもないが背が縮む  
高槻市 片山かずお

遅咲きと思っていない今日も旬  
羽曳野市 吉村久仁雄

親の汗子が見て育つ町工場  
初めての駅に目礼して降りる  
橿原市 居谷真理子

定年だ俺は自治会子は会社  
三田市 堀 正和

服脱いでしまえばみんな五分と五分  
俺である証の片減りのシューズ  
大阪府 平井美智子

食欲は衰えぬまま秋が来た  
三田市 上田ひとみ

枚方市 谷 英也  
萎びても色香を詠うまだ若い

美面市 広島 巴子  
脳トレで鍛え頑張る五七五

大阪市 岩崎 公誠  
一日に一句練り上げよく磨く

芦屋市 竹山千賀子  
川柳に出合わなければボケていた

神籠県 禰 モモト  
川柳誌アリも一緒に読みなこなす

鳥取県 斉尾くにこ  
趣味ひとつわたしの自然エネルギー

河内長野市 森田 旅人  
エイヤツとおもいきつての投函日

松山市 郷田 みや  
必着を信じてポストまで急ぐ

米子市 池田 美穂  
プーチンをピロシキに入れ食べてやる

寝屋川市 平松かすみ  
ややこしい雲まで軍艦に見える

広島市 松尾 信彦  
野党にも右派あり左派もあるらしい

大阪市 岩崎 玲子  
オオタニさん人間的に半端ない

三原市 鴨田 昭紀  
こつそりと妻がスマホをチエックする

神戸市 松倉 正美  
ロマンス詐欺捕らえて見ればしょぼい奴

米子市 妹能令位子  
猫二匹人間二人つつがなし

大阪市 東 敏郎  
効能に責任のないコマーション

貝塚市 石田ひろ子  
住み馴れた家の階段踏み外す

豊中市 上出 修  
甘かった急峻だった老いの坂

唐津市 坂本 蜂朗  
大股で歩き老化にねじを巻く

寝屋川市 富山ルイ子  
柿葡萄梨に無花果秋が好き

鳥取市 上山 一平  
道の駅秋をみつけて栗ごはん

大洲市 花岡 順子  
ロボットに聞いて貰っている悩み

神戸市 山根 弘華  
石橋を叩きすぎたかまだ一人

横浜市 加藤 佳子  
一人飯慣れた調子のランチ時

今治市 永井 松柏  
ニンゲンの間に魑魅魍魎が棲む

大阪府 高木 道子  
坊さんと世相を語る月命日

富田林市 山野 寿之  
坊さんも正座苦手で椅子持参

尼崎市 清水久美子  
お舅の板についてる武士言葉

尼崎市 水田 紀惠  
小麦高貧乏人は米を喰え

名古屋 山本三樹夫  
冷蔵庫隙間出来だす物価高

奈良市 山本 昌代  
アレنجが楽しみ今日のお味噌汁

東大阪市 青木 隆一  
今年もか高い秋刀魚に目が泳ぐ

大阪市 内田志津子  
鉛筆のような秋刀魚が高値つけ

三田市 多田 雅尚  
自給率の低下が招く国の危機

神戸市 能勢 利子  
助手席でナビとケンカをする夫

尼崎市 宗 和夫  
いい歳になってもできぬ痩せ我慢

宮崎県 惠利 菊江  
一円が人に拾われ安堵顔

高槻市 初代 正彦  
ゴミの日も見ぬがどうしたの鴉よ

鳥取市 田賀八千代  
深夜便ですとスズムシ演奏会

寝屋川市 廣田 和織  
妻の指示忘れぬうちにやっておく

大阪市 笠嶋 惠美  
おとろえがさびしさ倍にするのかな

堺市 坂上 淳司  
前後ろ違えて穿いていたタイツ

鳥取県 竹信 照彦

パソコンは息子が買った中古品

大阪市 江島谷勝弘

パソコンは頑として日本語で打つ

大阪市 平賀 国和

気が付く葉スマホの中の孫を見る

八幡市 武田 悦寛

隣から届いたかぼちゃ笑っている

八幡市 武田 悦寛

ゴミ出し日女性に薄く紅をさす

大阪市 榎本 舞夢

骨折中手抜きすること知りました

神戸市 上田 和宏

本心を言ったが本音まだ残る

日高市 根岸 方子

正解を求め介護の日は続く

大阪市 小野 雅美

私なんかと言いつつ鼻が高いまま

札幌市 三浦 強一

大相撲ああ全勝は死語となり

羽曳野市 徳山みつこ

たまにしか来ない曾孫に疲れ切る

高槻市 島田千鶴子

泥まみれのアルバムにいた愛し人

府中市 岸田 武

惚けたのは企業戦士の後遺症

枚方市 栃尾 奏子

卵焼きくらいは焼いて欲しいです

香芝市 大内 朝子

心臓が今年の夏は音を上げた

西宮市 福島 弘子

スーパーへ行く決心の要る暑さ

三田市 野口 龍

日焼けした皮がポロポロむけていく

西宮市 高橋千賀子

夏バテは無縁三キロ肥えました

大阪市 宮崎シマ子

句会という用にコロナが通せんぼ

三田市 大西 重男

法事までコロナにかまけ省略す

三田市 大西 重男

孫ついにコロナにかかり一人前

岡山県 高岡 茂子

人並みにコロナの数に仲間入り

大阪市 吉積 栄次

知恵熱であつてほしいと孫の熱

鳥取県 山下 節子

微熱はあるがコロナではありません

藤井寺市 鈴木いさお

紙と筆あつたら今は「忍」と書く

広島市 羽城 裕子

マスクかけ妻カルチャアのフランス語

塩竈市 木田比呂朗

口と鼻見たことがない人がいる

大阪市 阪井 恵子

大内 朝子

福島 弘子

野口 龍

高橋千賀子

宮崎シマ子

大西 重男

高岡 茂子

吉積 栄次

山下 節子

鈴木いさお

羽城 裕子

木田比呂朗

阪井 恵子

今井万紗子

大内 朝子

高橋千賀子

宮崎シマ子

大西 重男

高岡 茂子

吉積 栄次

山下 節子

鈴木いさお

羽城 裕子

木田比呂朗

阪井 恵子

今井万紗子

今井万紗子

神戸市 敏森 廣光

ワクチンのテストにされる高齢者

吹田市 西沢 司郎

コロナ禍で空白四年墓参り

東大阪市 佐々木満作

巣籠りももう限界だ旅に出る

岡山市 永見 心咲

近隣の県民割もみな使う

岡山市 永見 心咲

久しぶり祭り音頭に傘が舞う

鳥取市 永原 昌鼓

検査良しこれで一年また飲める

米子市 野川 宣子

缶ビール無いと始まらない夕餉

富士見市 中島 通則

やみつきになった芋焼酎の愛

笠岡市 藤井 智史

いつもので通じる横丁の飲み屋

大阪市 高杉 力

期限切れビール注いでる美人ママ

大阪市 白谷よしみ

酒飲んで吞まれて口説く赤い耳朶

和歌山市 まつもとともこ

激論を地酒はじつと聞いていた

高槻市 松岡 篤

まれにある静かな夜の Copp 酒

和歌山市 北原 昭枝

敏森 廣光

西沢 司郎

佐々木満作

永見 心咲

永原 昌鼓

野川 宣子

中島 通則

藤井 智史

高杉 力

白谷よしみ

高杉 力

松岡 篤

北原 昭枝

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

あらさくら

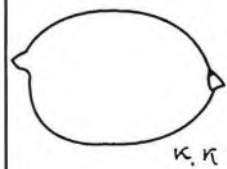
共選欄

檸檬

抄

(薰風書、カッタとも)

(投句318名)



「一度」 江島谷 勝弘選

一度二度核の三度は許さない  
温暖化一度上がれば世は異変  
百年に一度の雨が月に二度  
蜜の味覚え取賄止められぬ  
今一度脇を締めてる物価高  
賭けごとは一度勝ったら病み付きに  
大バーゲン一度ゲットしました並び  
週一度満員になる割引日  
申カツのソース二度付け禁止です  
奥入瀬は一度は行ってみたいとこ  
富士山に一度登ってみたいとこ  
今一度ワイキキでフラ踊りたい  
もう一度聞いてみたいなひばり節  
脱税と一度言われてみたかった  
達者な内一度食べたいA5牛

豊中市 水野 黒兎  
防府市 坂本 加代  
宝塚市 岸田 万彩  
神戸市 富永 恭子  
貝塚市 吉道あかね  
河内長野市 藤塚 克三  
豊中市 松田蟻日路  
枚方市 丹後屋 肇  
富士見市 中島 通則  
箕面市 大浦 初音  
奈良市 加門もと子  
東大阪市 北村 賢子  
神戸市 山根 弘華  
寝屋川市 伊達 郁夫  
神戸市 松倉 正美

「一度」 永見心咲選

もう一度逢いたい人が増えてきた  
一度きりのこの世に未練ありまして  
うつぶんが一度に爆ぜるざくろの実  
申カツのソース二度付け禁止です  
マンネリズムいちど保護色脱いでみる  
一度だけ触れた一億の小切手  
アホウ鳥一度聞いたら忘れない  
脱皮してセミのぬけ殻シースルー  
一度目は返すつもりでいたお金  
悪行の一度もないと言えますか  
もう一度考えたいという返事  
一度目のワクチンすごく痛かった  
やる気ならあなたの席を空けて待つ  
今一度生きなおそうか逆上がり  
今一度脇を締めてる物価高

尾道市 小畑 宜之  
高槻市 島田千鶴子  
大阪市 津村志華子  
富士見市 中島 通則  
松江市 柳田かおる  
松江市 石橋 芳山  
男鹿市 伊藤のぶよし  
沖繩県 宮 すみれ  
今治市 安野かか志  
河内長野市 森田 旅人  
富山市 伴 よしお  
広島市 羽城 裕子  
奈良県 中原比呂志  
河内長野市 坂野 澄子  
貝塚市 吉道あかね



阪神の監督一度してみたい	美作市	岡本	余光
県民割温泉旅行してみるか	三田市	堀	正和
浪人は一度にしてよお兄ちゃん	鳥取県	本庄ひろし	
もう一度杖をつかずに歩きたい	上尾市	中村	伸子
一度だけお願ひしますジャンボくじ	米子市	竹村紀の治	
今一度鍵閉めたかと確かめる	倉吉市	宮田	風露
日に一度うまいと呻く喉仏	岐阜県	喜多村正儀	
入道雲缶蹴りしたいもう一度	河内長野市	穂口	正子
もう一度あなたと見たい白い虹	大阪市	川端	一步
今一度悩んでみたい髪型を	神戸市	斎藤	隆浩
もう一度 何度もせがむ絵本読み	大阪市	宇都満知子	
六十年代をもう一度してみたい	大阪市	谷口	義
人生に一度くらいはあるチャンス	越谷市	久保田千代	
もう一度考えたいという返事	富山市	伴	よしお
天地人一度に取った事がある	札幌市	小澤	淳
月一度ずぼらする日を決めてある	大阪市	石田	孝純
日に一度みがいています妻の爪	河内長野市	坂野	澄子
決心は十七歳の夏のこと	三田市	上田ひとみ	
もう一度やってみるかと思春の鍬	米子市	妹能令位子	
一度だけ黙って受けたタカラヅカ	芦屋市	上野多恵子	
今一度読み直してゐる資本論	大阪市	高杉	力
「発送をもって」一度も来ないです	広島市	岸本	清

もう一度だけを信じて第7波	奈良県	長谷川崇明	
過ちも一度ならばと高くくる	大阪市	近藤	正
きっぱりと一度でダメと切る勇氣	米子市	伊塚美枝子	
小難しい話一旦噛み砕く	河内長野市	梶原	弘光
一度だけ密度の高い恋でした	松江市	相見	柳歩
再会がやっと叶ったのは遺影	奈良県	安福	和夫
バツイチの勲章ふところが広い	香南市	桑名	孝雄
一度だけもう一度だけ耳に膀胱	大阪市	原	幸子
後引けず一度の嘘が丸太り	橋本市	石田	隆彦
週一度五穀入り飯達者です	三田市	北野	哲男
一度だけ許されて歯を食いしばる	鳥取市	中村	金祥
一度では上手くはけない五本指	大阪市	今村	和男
オペ終わりもう一度この世へ還る	岡山県	藤澤	照代
家裁出る二人一度も振り向かず	三田市	村田	博
元特攻一度は死んだ身を語る	河内長野市	中島	一彌
一度押したら地球破滅の核ボタン	岡山市	大石	洋子
温暖化一度上がれば世は異変	防府市	坂本	加代
この猛暑一度三途の川ツアー	鳥取県	竹信	照彦
夏の夜の罪を呼び出す泌尿器科	池田市	太田	省三
体重計増える時はもう一度	豊中市	齋藤奈津子	
今一度悩んでみたい髪型を	神戸市	齋藤	隆浩
もう一度アライ訊けばボロが出る	明石市	瀬島流れ星	

年一度誰も誘わず上にぎり

豊中市 貝塚 正子

一度だけカンニングして今がある

弘前市 稲見 則彦

日に一度小銭出し入れボケ防止

神戸市 輿水 弘

一度だけ買った株式売れぬまま

可見市 板山まみ子

一度だけしつかり踏んだ甲子園

尼崎市 八木 幸彦

ハザードは一度つきりねさようなら

松山市 大内せつ子

アマゾンで一度も買わぬ昭和人

山口市 兼崎 徳子

一度だけ昼は松茸 夜は蟹

丹波篠山市 酒井 健二

日に一度笑う約束とする

尼崎市 藤田 雪菜

一度だけ触れた一億の小切手

松江市 石橋 芳山

一度きり会ってさよなら告げておく

生駒市 饗庭 風鈴

もう一度出番ありそう休耕田

羽曳野市 吉村久仁雄

一度でも誘いに乗れば責めて来る

三田市 多田 雅尚

コンパクト一度覗いて出陣す

神戸市 米田利恵子

うつぶんが一度に爆ぜるさくろの実

大阪市 津村志華子

結婚もホールインワンも一度だけ

川西市 大坪 一徳

妻天下一度も頭上がらない

大阪市 田原 康雄

嫁姑一度は上げた大花火

三田市 生田えい子

一度だけ生駒山までプチ家出

尼崎市 山田 厚江

再婚だなんて一度で充分よ

犬山市 金子美千代

家裁出る二人一度も振り向かず

三田市 村田 博

結婚はまだ一度しかしていない

尼崎市 藤井 宏造

一度だけ一度だけには次がある

大阪市 石田 孝純

しまり屋の財布を一度見てみたい

横浜市 菊地 政勝

一度では済まなくなつた物忘れ

黒石市 石澤はる子

一度きりの人生ですぞ使い切る

三次市 伊藤 寿子

この道のきのうも今日も一度きり

大阪市 宇都満知子

半年に一度命を確かめに

大阪市 横山 里子

一度きりの人生桜散るように

鳥取市 岸本 宏章

どら焼の栗を確かめまた閉じる

大阪市 滝井えみこ

一度なら踏み外しても良かったか

交野市 山野 双葉

手を出せば虜どうします貴方

大阪市 田中ゆみ子

月一度リッチな眠り美容室

香芝市 山下じゅん子

一生に一度も来なかつたモチ期

笠岡市 藤井 智史

もう一度化けてみますか人間に

河内長野市 穂口 正子

もう一度最強であつてくれ円

鳥取県 斉尾くにこ

一・五あつた視力をもう一度

藤井寺市 太田扶美代

どなた様も一回きりの霊柩車

寝屋川市 平松かすみ

六十三四年に一度の義理果たし

西宮市 緒方美津子

いずれ一度約束だけが残される

大阪市 井丸 昌紀

野路菊を摘めば一度に込み上げる

奈良市 高橋 敬子

浪人は一度にしてよお兄ちゃん

土佐清水市 辻内 次根

逆上がり一度も出来ぬまま老いる

鳥取県 本庄ひろし

大阪府 大川 桃花

体重計増える時はもう一度  
逆上がり一度も出来ぬまま老いる  
一度では聴き取りにくい老いの耳  
週一度五穀入り飯達者です  
晚餐は梅干し入りのにぎりめし  
一生に一度産湯も葬式も  
どなた様も一回きりの霊柩車  
体温が一度上がって医者に行く  
年一度人間ドック行つたのに  
円やかさ渋味玉露は一度の差  
一という数字の底に住む魔物  
がん告知海が一度に引いてゆく  
千年に一度の揺れで被災する  
どじょうがいたら二度めを待つてます  
おい金魚一度ニンゲンやつてみな  
一度切りの人生何で捨てるのよ  
一度だけ泣いたわ海をつくつたわ  
家族みな納得してる家族葬

秀 句

豊中市	齋藤奈津子
大阪市	大川 桃花
尾道市	村上 和子
三田市	北野 哲男
鳥取市	岸本 孝子
松山市	栗田 忠士
西宮市	緒方美津子
大阪市	吉積 栄次
大阪市	田中ゆみ子
寝屋川市	川本 信子
大阪市	平井美智子
高槻市	富田 保子
塩竈市	木田比呂朗
奈良市	大久保眞澄
橿原市	居谷真理子
神戸市	奥澤洋次郎
黒石市	北山まみどり
弘前市	高瀬 霜石
河内長野市	村上 直樹
堺市	坂上 淳司
桜井市	安土 理恵

どじょうがいたから二度めを待つてます  
一という数字の底に住む魔物  
もう一度聞いて欲しいと蟬が泣く  
一度くらい覗いて欲しい緑の下  
またいつか等と一度も来ぬいつか  
見上げてもう下りてこぬ蜘蛛の糸  
消しゴムで口にしたこと消せたらね  
360度の一度はわたし  
鬱の字を一度はそらで書けたけど  
ワンチャンス捉えて紙飛行機ゆく  
意気地なし一度であきらめるなんて  
一度出た生け簀へ二度と帰れない  
ハザードは一度つきりねさようなら  
被爆地へプーチン一度いらつしやい  
袋綴じ一度くらいはあるでしょう  
一度だけ泣いたわ海をつくつたわ  
どうしても付いて行けない恋でした  
もう一花咲かせる種を蒔きました

秀 句

奈良市	大久保眞澄
大阪市	平井美智子
大阪市	内田志津子
大阪市	高杉 力
三原市	笹重 耕三
橿原市	居谷真理子
八王子市	川名 洋子
富田林市	中村 恵
宝塚市	岸田 万彩
枚方市	栃尾 奏子
明石市	糘谷 和郎
尼崎市	八木 幸彦
松山市	大内せつ子
羽曳野市	徳山みつこ
佐賀県	真島久美子
黒石市	北山まみどり
三田市	上田ひとみ
三田市	稲角 優子
唐津市	坂本 峰朗
堺市	柿花 和夫
鳥取県	門村 幸子

「アラヨツ」と一度のこの世綱渡り

「粒」

(投句 217名)

成田 雨 奇 選



一粒に仏を描き奉納す  
 グリコ一粒とんぼり川の待ち合わせ  
 リハビリの箸を大豆が逃げまわる  
 点滴の粒が充電する命  
 転がった薬追いかけて回る  
 サボテンの米つぶほどの花いとし  
 歯に詰まるトウモロコシと渡り合う  
 納豆を三分混ぜる癖がある  
 一粒も残さぬマナー戦中派  
 一粒の豆もつかめず歳を知る  
 仏壇を閉じれば大粒の涙  
 一粒も残さぬ行儀今も持つ  
 大粒梨運び鳥取を送る  
 一粒の愛がほしいと虐待児  
 飲んだかな残る錠剤数えてる  
 大臣が段々小粒になって行く  
 言い合って悔いのつぶつぶ胃に残る  
 どのどんぐりも明日はそれぞれ光つてる  
 粒揃い個性が何かかわからない  
 大粒の妻の涙に非を悟る

奈良県 中原比呂志  
 堺市 澤井 敏治  
 大山市 金子美千代  
 富田林市 山野 寿之  
 米子市 野川 宣子  
 生駒市 饗庭 風鈴  
 大阪市 滝井えみこ  
 三田市 堀 正和  
 河内長野市 藤塚 克三  
 枚方市 谷 英也  
 大阪市 小野 雅美  
 鳥取市 大前 安子  
 福西 茶子  
 河内長野市 坂野 澄子  
 奈良県 長谷川崇明  
 神戸市 松倉 正美  
 奈良県 渡辺 富子  
 羽曳野市 徳山みつこ  
 岡山市 大石 洋子  
 大阪市 平賀 国和

一粒の涙に脆い男たち  
 正露丸仁丹共に生きる友  
 入社時は粒揃いだが末は何  
 粒ぞろい牽制し合い何もせず  
 液体に変えて毎晩米と麦  
 粒選りを揃えた校舎にもいじめ  
 若者がみんな小粒に見える古い  
 粒よりでないが今でもいい仲間  
 やつと全快米粒までも踊ってる  
 年波に錠剤飲んで生き延びる  
 衣食足り夢は小粒になり果てる  
 一粒の平和の種となれ吾子よ

大田市 横山 里子  
 鳥取県 門村 幸子  
 鳥取県 山下 節子  
 松江市 中筋 弘充  
 大阪市 奥村 五月  
 大田市 花岡 順子  
 大洲市 岸田 万彩  
 宝塚市 吉道あかね  
 貝塚市 今井万紗子  
 堺市 木見谷孝代  
 河内長野市 妹能令位子  
 米子市 吉村久仁雄  
 羽曳野市  
 倉吉市 牧野 芳光  
 大阪市 宇都満知子  
 大阪市 岡田 恵子  
 寝屋川市 廣田 和織  
 米子市 中原 章子  
 富田林市 中村 恵  
 伊丹市 延寿庵野鶴  
 橿原市 居谷真理子

一粒の納豆を噛む独り酒  
 軸

天  
 地  
 一粒のパンチパーマはお洒落です  
 地を覆う始め一粒だった麦

「叫び」

(投句 215名)

奥田 由美 選



うっせえわ叫ぶあんたがうっせいわ  
 待望の生命オギヤーと飛びだした  
 子の叫び狂信の母聞こえない  
 叫ばんでも聞こえています四畳半  
 山頂で叫ぶ陽希に気を貰う  
 肝臓の悲鳴気付かぬ飲みつ振り  
 一発の銃声叫び声に似る  
 叫んではみたが戻らぬ日の筈  
 叫びたい心がボクの起爆剤  
 裏をかく絶叫マシンの悪巧み  
 戦争は惨い瓦礫が泣き叫ぶ  
 泣き叫び殻を破って来た苦勞  
 南極の氷河が叫ぶ温暖化  
 叫び疲れて眠ってしまったか怒り  
 ムンク以来ずっと叫んでいる大地  
 叫ぶ度 おんなは度胸つけてゆく  
 安全な場所から反戦を叫ぶ  
 ストレスを絶叫マシンでふき飛ばす  
 叫んでも届かぬ声が響する  
 反戦の叫びを遠く遠く聞く

明石市 桃谷 和郎  
 横浜市 川島 良子  
 大阪市 平賀 国和  
 堺市 今井万紗子  
 松山市 宮尾みのり  
 大山市 関本かつ子  
 丹波篠山市 酒井 健二  
 和歌山市 北原 昭枝  
 東京都 川本真理子  
 三田市 村田 博  
 河内長野市 藤塚 克三  
 奈良県 中原比呂志  
 八幡市 武田 悦寛  
 和歌山市 柏原 夕胡  
 堺市 澤井 敏治  
 高槻市 富田 保子  
 米子市 中原 章子  
 米子市 伊塚美枝子  
 吹田市 西沢 司郎  
 大阪市 平井美智子

叫ばねば日本は何も変わらない  
 つぶやきが叫びになつていく値上げ  
 叫びたい時には心経を三度  
 叫んでも泣いても君は雲の峰  
 この辺で止める叫べば腹が減る  
 世間体と加齢が邪魔をする叫び  
 夢を失くして叫ぶことさえ忘れてる  
 叫びすぎだと体重計に叱られる  
 おもいきり叫ぶころの丸洗い  
 オーイ山叫んで木霊呼んでみる  
 夕日の海で叫ぶしかない一人の居  
 キャーは若い子年増はオオーと叫ぶ

鳥取市 岸本 孝子  
 奈良県 長谷川 崇明  
 松山市 栗田 忠士  
 大阪市 津村志華子  
 大阪市 石田 孝純  
 神戸市 富永 恭子  
 倉吉市 牧野 芳光  
 大阪市 小野 雅美  
 箕面市 酒井 紀華  
 鳥取県 竹信 照彦  
 男鹿市 伊藤のぶよし  
 鳥取市 福西 茶子  
 松江市 中筋 弘充  
 倉吉市 大羽 雄大  
 堺市 坂上 淳司  
 佐賀県 真島久美子  
 横浜市 加藤 佳子  
 大阪市 大沢のり子  
 鳥取県 門村 幸子  
 富山市 伴 よしお

絶叫は空き店舗から響いている  
 叫んでも白馬の王子来ぬ独り  
 耳澄ませば地球が軋む音がする  
 叫んでも祖父父母が追尾するデート

人  
 地  
 天  
 軸

# 初歩教室

## 題一紙

### 水野黒兔

常任理事会で決めたことだから初歩教室を担当してくれと理事長からのお達し、ははっと畏まって受けたが、もとより浅学非才。この欄を借りて皆様と一緒に勉強させていただきます。では参りましょう。

以下、☆は皆様の句、★は参考句です。

☆絵手紙に笑えむ母の窓を足す 優子

ほほえむは微笑むが正しいです。下5の窓を足すがやや意味が判然としないので

★絵手紙に母の微笑む白い窓

★絵手紙の窓に微笑む母を描く

☆思いの丈切手もえらび届けましょ 閑

下5が若干子供っぽいので

★切手にも思いを込めて書く手紙

☆包み紙敷を伸ばされ出番待つ 静恵

逆の内容にするともっと川柳らしくなる

かもしれせんね。

★包み紙敷伸ばしたが出番来ず

☆広告の裏で勉強した時代 智恵子

裏の文字が似てはいるけど活字にない字になっていました。

★広告の裏で勉強した戦後

☆サクラ色婚因用紙様変わり 智恵子

婚姻が正しいですね。文字が怪しい時は是非辞書で確かめてください。

★ピンク色の結婚届ある時代

☆和紙刻む金澤翔子魂を 義明

金澤さんは若い書道家。下5の座りが悪いので順序を変えてみます。

★魂を和紙に揮毫の翔子展

☆難問ばかり答案用紙埋めぬまま あきこ

★難問に答案用紙真っ白け

☆修了証あれこれあるがただの紙風 鈴  
これも一つの感じ方かもしれません証書に敬意を込めた句にするのもいいかも。

★ただの紙だが懐かしい修了証

★あれこれの記憶溢れる修了証

☆紙芝居昭和の子等をメルヘンへ博之

自分のこととして詠んでみますと

★メルヘンへボクを誘った紙芝居

☆帰る子へチラシの裏におやつなど百合

★帰る子へチラシに包む里の秋

☆匠業和紙すく姿美しい 貴美江

美しいと言つてしまわないで、読む人にならうと思わせてみましょう。

★和紙を漉く匠の技に眺め入る

★和紙を漉く匠の技に見入る旅

☆またしても和紙の袋は捨てられぬ 不二夫

★捨てられぬ見事な和紙の菓子袋

☆往年のアイドル歌手が紙おむつ 通則

他人事ではなく実際とは違うにしても自分のこととして詠むと切実感が強くなると  
思います。

★銀幕を夢見たボクも紙おむつ

☆人生行路いくつ渡つた紙の橋 和夫  
紙の橋はもろく危いということの例えで  
しよか。

★人生の橋は紙はほとんどろかった

紙という文字は入りませんが

★人生を妻と渡つた橋いくつ

☆八百屋さん包装はいつも新聞紙ひとみ  
中8を解消しましょう。そして事実を述  
べるだけにとどまらず、自分の思いを込め  
てみましょう。

★ 温もりを包む八百屋の新聞紙

次の三人の句は575を一気に書かず、

一字分空けありますが、空きは不必要です。

☆ 紙一枚 その気になれば 武器になる

龍

★ 紙一枚をペンの力で武器にする

☆ ドキドキ感 五円握って 紙芝居行 久

★ 紙芝居五円握って汗握る

☆ 直筆の期待膨らむ ラブレター行 久

膨らむの文字が似て非なる文字になっていました。

★ 実ること期して直筆ラブレター

☆ 全てウエブ 今後なくなる 紙ベース

弥生

★ ウエブ化に活字文化が消えかかる

☆ 福巡り御朱印集めメトロにて 栄子

メトロでなくともいいわけで、何か別の

5音で句を豊かにしましょう。

★ ご朱印の福を求めて鄙の旅

☆ 千羽鶴ウクライナへと飛んで行け

栄子

★ 千羽鶴万羽で足りぬウクライナ

☆ 薄べらな紙一枚が決める道 誓子

紙の内容がわかるといいですね。

★ 一枚の誓紙わたしの道を決め

しかし誓紙という言葉が固いので

★ 結婚届ただ一枚が決めた道

☆ いただいた和紙張茶筒捨てられず 開子

★ 中身より和紙の茶筒が貴重品

☆ 異国から届く絵手紙に説く夜 えみこ

★ 異国からの手紙子供と地図を繰る

☆ 孫二つじゃんけんはんばあ一つ 厚子

二つと一つの対比が狙いででしょうか。

しかしあまり効いていません。

★ 孫二歳じゃんけんはんばあばかり

☆ インクの香汚れ懐かし藁半紙 厚子

★ 謄写版の汚れ懐かし藁半紙

☆ 天下晴れ紙飛行機の一人旅 一平

★ 天高く紙飛行機に託す夢

☆ 一気呵成墨跡にじむ美の世界 一平

★ 墨痕のにじみに書家の腕の冴え

☆ 紙ヒコーキ愚痴を乗せたら飛ばなんだ

ちよつと悲観的過ぎるので

★ 紙飛行機愚痴を乗せたら舞い戻る

もつと元気を出して

★ 紙飛行機はくの夢乗せ高い天

☆ 笹飾り紙繕名人 母想う

双葉

★ 笹飾り紙繕り上手の母偲ぶ

☆ 子ら嫁に残ったままの紙風船 次郎

紙風船では感慨にふけるには弱いので思

いがもつとこもる物にしてみますと

★ 紙の雛残して嫁嫁ぐ秋

☆ チケットもお金も電子になる令和 尚

★ 電子化に静かに消えてゆく論吉

☆ ひと時を陽気に騒ぐ紙コップ 和子

★ 同期会陽気に騒ぐ紙コップ

☆ 投票の紙に託す次の世を 良子

★ 投票用紙に次の世託す総選挙

☆ 御無沙汰の絵や句が映える和紙はがき 照枝

★ 御無沙汰の句に絵が映える和紙はがき

☆ ポスト棟哀も怒りも預けます のりひろ

★ 哀楽の気持ポストにまた預け

☆ ぶきつちよな墨の香残る命名書 節子

★ 墨の香に思いを込めて命名書

☆ ぬり繪うま自分満足紙も誉める ミヨノ

★ 良く描けて自分をほめてやるぬり繪

今月の佳作

◎ メールでは紙の温さは届かない 優子

◎ 受け入れる覚悟を決めて紙おむつ 和子

◎ 物忘れ増えて必需のメモ用紙 静恵

# 川柳塔鑑賞

同人吟 藤井智史

—10月号から

アマビエも疲れ切ってる第七波

中原比呂志

アマビエという絶対的守護神も連投で炎上しているのか。コロナに打ち勝つ新戦力も必要。

高い壁文句言いたい不合格

奥村五月

「努力しているのに超難問を出してくるとは。ほんまにもう。もっと簡単にせえや(怒)」と心の声が聞こえる。

体調はコレステロール高いだけ

江島谷勝弘

私も微妙にコレステロールが健診で引っかかっている。動脈硬化になりやすいとか。何か良い方法は無いのだろうか。

幸せを掴み取る日の前屈み

平井美智子

今までの苦勞が背なに乗っかってきたのだろう。幸せを掴み取って、是非背なを伸ばしてほしい。

趣味多く毎日増えるゴミの数

前田恵美子

趣味が沢山あって良いなあ。ゴミは増えても素晴らしい作品は残っているはずだ。これからも挑戦を望む。

寝転んだついでに空を持ち帰る

斉尾くにこ

良い天気だなあ。気持ち良いなあ。日のストレスも飛んでいきそう。明日からまた頑張ろう。

手遅れだ四季はリズムを失った

栃尾奏子

季節ごとに旨いものがあるのだが、いつでも食べられるようになった。良いことなのか。悪いことなのか。

逆立ちをしたら知らない町になる

牧野芳光

見慣れた風景も自分の考え方次第で新しい世界になるのである。悲哀と期待が入り混じった句のように感じる。

新聞が溜息どつと載せて来る

石澤はる子

物価高騰、好きなプロ野球チームの敗北、訃報、柳壇は没、「はあー」と言ってしまう。

新婚と分かる二人が押すカート

高杉力

二人が押すカートのカゴの中に入っている物で新婚であると分かるという着眼点が素晴らしい。

塾帰り西日に向かうほかはなし

乗原道夫

学校の勉強についていけないのか、模試の成績が悪かったのか、西日が悲しさを増大している。頑張れとは言わない。

洗濯ばさみボキボキ折れて夏終る

谷口義

洗濯物を乾かす頻度が高かったのだから。洗濯ばさみも疲労困憊になってしまった。今年の夏も暑かったなあ。

二重投句どちらも没になりホツと

井丸昌紀

句帳をペラペラ。あちやー二か所に出してもうた。どうしよう。(数か月後)両方没や。良かった。んっ？両方没？



## 山盛りの飯が猛暑のエネルギー

笹重耕三

元気の秘訣は、山盛りの飯。その通りだと思ふ。しっかりと食べて、アクティブに動きましょう。

## これからは自己責任のコロナです

坂本加代

コロナ罹者は、どんどん増えてきているが、緊急事態宣言は無い。ワクチン接種など自己防衛が必要となるだろう。

## 大胆に血を吸う蚊ほど叩かれる

岸本宏章

おいしい血を吸ったのは良いが、逃げるスピードが遅くなっている蚊を何度も叩いたことがある。欲張りな蚊の最期。

## 四コマ目ここが私の正念場

倉益一瑤

人生の起承転結の「結」の部分。長生きをするには、「結」を作らないこと。ほとんどん紙を足して、元気でいて下さい。

## シエルターを造らなくても良いですか

福西茶子

コロナ、戦争などこの世には安全地帯が無い状態になってきている。私も無菌で安全なシエルターが必要だと思つた。

## 郵便の週二休には急かされる

中原章子

郵便の週二休には、投函する川柳作家たちには不利になった。一晩寝かす間も無く投函された様子が目に浮かぶ。

## スーパーのトレーのままで食べている

辻内次根

皿に移せば良いが、面倒くさいときもある。そのまま食べても良いじゃあないか。横にビールを添えて…。

## 誰の胸にも思ひ出の駅がある

太田扶美代

旅先の駅、それとも高校を卒業して、大学生活を行うため、故郷を離れ、降り立った駅か。沢山思い出の駅があるなあ。

## 荒廃が進んで脳ミソは荒地

石橋芳山

きれいな整地だけが良いとは限りません。荒地になった方がおもしろい句が作れると思う。たぶん…。

## アイスクリーム毎日三個頑張れる

松本知恵子

毎日三個、羨ましい。大仕事をしたら後のデザートは格別だと思ふ。私もどら焼きを三個食べて句を作ろう(笑)。

## 残されてガラクタになる宝物

大石洋子

ガラクタだけど「捨てた」とは詠んでいないので、大事に取っていると推測される。好きなら引き続き残すべきだ。

## 主婦だって休みたい日は電池抜く

久保田千代

電池をちゃちゃつと抜いて、句会や大会に来て下さい。お会いできる日を楽しみにしています。

## 川柳を始めポストを除く癖

能勢利子

耳が良いのか、郵便配達のパイクの音が開こえると走って二階から下りてポストを確認する。柳誌があることを願う。

## 昼飲んだビールで汗が止まらない

村田博

昼間からビール、羨ましい。汗で出てしまうのは、もったいない。涼しいところで飲むのが良いのか。

## 時時は妻の磁場から離れたい

丸山孔一

時時は、一人で好きなどころへ行きなくなる。同感である。磁場という束縛が良いときもあるが…。

# 水煙抄鑑賞

—10月号から

西田 美恵子

本心をうっかり漏らす月明かり

坂野 澄子

なんと素晴らしい月夜でしょう。春の気だるい月夜も、冬の凍てつく月夜も私は好き。一番好きなのは、やはり中秋の名月。二人で歩きながら月明かりに背を押され、つい本心を言ってしまった。

「結婚しませんか」

飛脚より遅い気がする郵便屋

東 定生

今日出せば明日は届いていた郵便物、うっかりすると三日も四日もかかってしまう事がある。なーんだ飛脚より遅いではないか。え！速達料出せば明日届くですって！それは無いでしょう。

立てば母座れば亡父を思う場所

倉橋 悦子

台所に立つと何時も母を思い出す。洗い物する水の音、トントンと物を切

る後ろ姿、そして茶の間の一番奥は父の座る場所、偉そうに座ったらもう動かない。父と母の姿が目には浮かぶ。

無理難題なんなくこなす妻がいる

堀 本のりひろ

夫かと思いましたがよ。妻なんですな。明治、大正の女は強かったけれど、私なんか夫に頼りつきり、先に逝かれたら、私は生きて行けないなんて言ってます。

何着もあるのに服が決まらない

山野 すみれ

これはちよつと派手だし、これにこれは合わないしああそうそう、これがいいわと決めて履いてみるとうーんウエストが！

鏡の前で脱いだり着たり、「あなた〜これどつちが良いと思う？」

ギブアップするな仏も神もいる

相見 柳歩

何をしてても裏目に出る。この生き辛さは何だろう。昨日もパンを焼いたのに、イースト忘れて硬いパンになってしまった。あゝ神様仏様。

聞かなけりや苦勞しないで済む話

加藤 佳子

知らなけりや良かった、知ったばっかりに、そんな事ってよくありますよね。でも聞いてしまったんですから、ええい！ここは男だ、一肌も二肌も脱いでやろうじゃありませんか。

比べ合う服もバッグも夫まで

榎 葉良子

偶然、街でばったり友人に出会った。お久しぶりと近況報告。チラチラと服やバッグを横目で、つい横にいらしたご主人にご挨拶。言わなくて良いものを、ウチの主人ですのと紹介して別れた。何でもない女同士の出会いのニコマである。

いい話ひとつ拾って今日は丸

岡村 風琴

夕刊の隅に、何ともほんわかするような良いニュースを見つけた。思わずニコツとした。お日様に温めてもらった布団に潜り込んだような、暖かい気持ちになった。今日は丸としよう。

男前の顔で咲いているアマリリス

西川 千鶴

アマリリスの花を思い浮かべた。まさしく男前の凛々しい顔であった。明日は花屋に行き大っきいアマリリスを買おう。



日本国と日本人(2)

欠点の無い人間はいません。そのような人間が集まって出来ているのですからパーフェクトな国もありません。何処の国も多かれ少なかれ問題を抱えています。前回は日本の良い所を取り上げましたが、今回は少し耳の痛いところ、触れてほしくないところを突いた作品を拝見しました。

地球儀の隅で蠢く日本国

日本中どこにでもある小京都

ペランダの干し物日本はアジア

いつからか真夏と真冬だけの国

悪人がこんなに増えていた日本

六百万台監視カメラがある日本

あちこちで警報装置鳴る日本

国民総生産(GDP)ランキングでは、アメリカと中国に次いで世界第三位を誇る我が国ですが、地球規模での存在感はずいぶん低く、悪くはアジアの隅で蠢いている小さな国という印象でしょう。

過ごしやすい春と秋が少なく、猛暑と極寒と悪人が増えています。犯人を逮捕するのに監視カメラが大いに役立っていますが、このような状況が進めば監視カメラと警報装置共に家庭の必需品になりそうです。

テレビジョンばかり見ている日本人

どンドンと進む日本のスーダラ化

外人の介護に頼る長寿国

鈴木いさお

森永 喬

萩原 遼

稲見 則彦

坂東 倫子

村田 絹子

島田千鶴子

天根 夢草  
堀 正和  
森下 一知

羅針盤正確ですか日本丸  
舵取りが危なっかしい日本丸  
借金で座礁しないか日本丸  
なんとまあこの国どこへ行くのやら

岩本 浩二  
三宅 保州  
坂本 加代  
尾畑なを江

これからの国を支えて行かねばならない若者がテレビ漬けでは困ったものですが、第一線を退いた高齢者にとっては自宅で手軽に楽しめる娯楽として最適でしょう。

政府の借金と政府が保有する金融資産を差し引いた実質的な借金総額は約120兆円とのこと。これは会計上「健全な額の範囲」という説もありますが、さて如何なものでしょう。座礁せず安全な航海を続けてほしいものです。

米朝会談日本は蚊帳の外

日本に軍靴の音はいりません

九条は永久に日本の常備薬

サービス残業は日本の美德

一色の日本の冬も美しい

日本の未来を歌う鯉のぼり

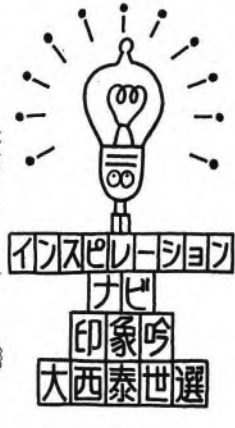
日の丸にグッドデザイン賞上げる

ロシアが波風を立てている現在。世界中に軍靴の音が高まっている気配です。しかし、憲法第九条によって戦争を放棄した我が日本国では軍靴の音も戦車の轟音も不要です。

この章では日本のマイナスイメージを取り上げましたが、このまま終了ではいささか後味が悪いので口直しを幾つか。サービス残業は褒められたことではありませんが、伝統的な忠誠心的一端でもあります。冬景色や鯉のぼりと共通する

端麗な美しさが「日の丸」に凝縮されています。

福田 好文  
塩満 敏  
水野 黒兎  
藤井 智史  
岩佐タン吉  
木天 麦青  
西出 楓菜



(投句 190名)

物価はどんどん上がるし、世界情勢はますますキナ臭くなってくるし、我が身にはあちこち不協和音が出て来るし、一体この先どうなってしまうのかと不安が募るばかり。

テレビで見る破壊されたウクライナの映像を見ていると、戦後七十七年なんて、ひとつ飛びに逆戻りする、そう思っています。人間の愚かさばかりが目立ちますが、人間の英知もまだまだ発揮できるはずと願わずにはいられません。では、ナビを。

米子市 八木 千代  
落葉してあけつびろげの森になる

(評) 鬱蒼と葉の繁った森は何となく秘密めいて神秘的。それがまあ、葉が落ちてフインキはコロッと変わりました。

鳥取市 吉田孔美子  
丸いものつい標的にしたくなる

(評) 射撃とか弓矢とか、的は丸いですか

らついですよね。その中心を狙いたくなるのは本能と言うべきかな。

弘前市 高瀬 霜石  
シエルターで生まれてシエルターで死す  
(評) コワイですねえ。何だか近未来の小説か映画の話みたい。これが現実にならぬよう祈るばかりです。

岡山市 大石 洋子  
高額なお布施をしたら救われる

(評) 昔は「地獄の沙汰も金次第」と言われたものの、何かしら笑える余裕があったように思えますけどね。

寝屋川市 平松かずみ  
むつかしい背中につける塗り薬

(評) これ、独り暮らしの不便さを感じる瞬間って聞いた事があります。まあ、人それぞれですが。

松山市 宮尾みのり  
肝心なところで念珠の糸が切れ

(評) 糸が切れて散らばった面倒くささはネックレスも数珠も同じ。拾い残しが無いかと見直して、あーしんど。

黒石市 北山まみどり  
遅咲きじゃないのよ常にマイペース

(評) マイペースな作者にはライバルという捉え方も無いのかも。時間かかっても大輪の花が咲くこと間違いなし。

朝霞市 前田 洋子  
百回忌誰も知らない先祖さま

(評) 今、生きている人たちが誰ひとり知

らなくてもれっきとしたご先祖さま。でも百回忌はスゴイ。

松山市 大内せつ子  
美しいものにあわんとダンゴムシ  
(評) ダンゴムシってすぐに丸くくなって自分の世界に閉じこもっているように見えます。あれって拗ねていますの？

可見市 板山まみ子  
狐なら落葉を札に変えられる

(評) これもよく言われて来ましたね。変えられるのなら変えてほしいわあ。いえ、人様の為に使うんです、ホント。

尼崎市 清水久美子  
いつも会う人と会わない診療所

三田市 村田 博  
花時計までもミサイル飛んでくる  
米子市 池田 美穂  
折っても叶わぬ事が多すぎる

神戸市 山崎 武彦  
イヤリングの大きい方がよく喋る

河内長野市 梶原 弘光  
白上げて赤下げないで様子見る

交野市 山野 双葉  
また一人友を見送りおはぎ買う

尼崎市 藤田 雪菜  
満天の星のたもともみじ風呂  
樫原市 居谷真理子  
飲んべいのアブが飛び込む紙コップ

大阪市 平井美智子  
化けるには程よい秋の風が吹く

杖方市 栃尾 奏子  
無いものが欲しいスズメもカナリヤも

松山市 郷田 みや  
今朝のこともさっと忘れる得意技

杖方市 藤田 武人  
ミサンガは妻の呪文で絞め付ける

大阪府 高杉 力  
枯れ葉舞い詩人になっていく男

鳥取市 上山 一平  
お祝いの真珠の指輪八十の春

貝塚市 石田ひろ子  
満月も一緒に乗った観覧車

富田林市 山野 寿之  
わたくしが最後に降りる縄電車

奈良市 山本 昌代  
軽やかな手拍子さあさ踊りゃんせ

箕面市 出口セツ子  
風のまま自由国境越えてて飛ぶ

三田市 堀 正和  
日が暮れりや帰って来ます一人ずつ

藤井寺市 鴨谷瑠美子  
ときどきは鎖の音がする絆

箕面市 酒井 紀華  
姫鏡台裏もおもてもお見とおし

大阪市 田中ゆみ子  
風神の怒りの団扇なんとする

黒石市 石澤はる子  
一つずつバラされてゆく僕の過去  
大阪市 内田志津子  
お静かに金魚掬っているところ

松山市 栗田 忠士  
レンゲソウの首輪送った淡い恋

防府市 坂本 加代  
輪投げする介護施設の笑い声

唐津市 仁部 四郎  
そうですね花一匁時価いくら

河内長野市 大島ともこ  
散り際の覚悟のお顔よう見せて

尾道市 小川 道子  
手にスマホ昭和歌謡を聴きながら

大阪市 江島谷勝弘  
南無阿弥陀南無阿弥陀仏友が逝く

松山市 柳田かおる  
結局はひとり一人でゆく枯野

宝塚市 岸田 万彩  
善人の顔で潜ってゆく茅の輪

東大阪市 佐々木満作  
枯葉散る人間の果無さを知る

尼崎市 近兼 敦子  
あきらめて穴はぼっかりあいたまま

佐賀県 真島久美子  
もう誰も指のサイズを聞きに来ぬ

大阪市 小野 雅美  
目の前の私気づかぬ振りですか

西宮市 高橋千賀子  
巣ごもりも猫と遊んで日が暮れる

鳥取市 永原 昌鼓  
ころがった一円どこか見当たらぬ  
豊中市 藤井 則彦  
来し方を思い起こしてふと孤独

池田市 太田 省三  
チャールズがやっと国王老いの春

喜屋川市 川本 信子  
先着順宇宙の星の所有権

大山市 金子美千代  
ノーと出た占い愛が揺らぎだす

倉吉市 宮田 風露  
台風がおどし文句のように来る

東京都 川本真理子  
哀しみの折り返し点秋彼岸

豊中市 水野 黒兎  
枯葉から冬の始まるシャンゼリゼ

奈良市 大久保眞澄  
ピンポンタッシュユ犯人は風らしい

宮崎県 惠利 菊江  
便りから温い言葉が飛んで来る

大阪市 奥村 五月  
サイズでは負けるが技で金星や

和歌山市 上田 紀子  
正直に生きよう肩も軽くなる

高槻市 初代 正彦  
危険予知いつも帽子を被ります

1月号発表  
(11月15日締切)



(平本 霧石人 画)  
柳箋に2句

# 柳界展望

★富田林市民文化祭富柳会第72回川柳大会は9月24日富田林すばるホールにて開催。出席者81名。同人成績。

秀句 中村 恵  
凭れたらしいのに君は  
甘え下手

秀句 小野 雅美  
泣く余裕なかった母の  
割烹着

★第7回東北川柳大会は9月25日東京エレクトロンホール宮城にて開催。同人成績。

河北賞 木本 朱夏

夢助賞 高瀬 霜石

特選 木本 朱夏

コンパスを回す私のテ  
リトリ― 他2句

特選 高瀬 霜石  
つらいこといっぱいあ  
つただらう 食べな

特選 他1句

森田 旅人  
混沌のトンツのあたり  
から希望 他1句

特選 平井美智子  
離陸準備完了雨も止み  
ました

★おりひめ☆ひこぼし  
川柳会 第2回誌上大会。  
参加者487名。同人成  
績。

天 永見 心咲  
山梔子の誓詞は白いま  
までした

★第4回榎原市民川柳大  
会誌上大会。同人成績。

秀句 大久保真澄  
直感がこの人ならと言  
つたから

▽出版△

鈴木いさおさん（藤  
井寺市）が、「川柳句  
集おおきに」（A5判、  
208頁、新葉館出版、  
1500円＋税）を出版。  
20年間に発表した3万句  
近くから438句収録。

▽訂正とお詫び△

○九月号P82上段後ろか  
ら6行目、おばあちゃん  
はいつも最後に知らんけ  
ど→おばちゃんはいつも  
最後に知らんけど。

○十月号P40上段4行  
目、懐かしい誤字脱字あ  
る古句張→懐かしい誤字  
脱字ある古句帳。P69上  
段後ろから6行目、ふざ  
けたでは済ませぬイジ  
メの図→ふざけてたでは  
済ませぬイジメの図。

P72下段11行目、出口セ  
ツコ→出口セツ子。P89  
下段川柳塔打吹斉尾くに  
お報→斉尾くに。お報。P  
101上段1行目、コロナ過  
の地球丸ごと洗いたい↓  
コロナ禍の地球丸ごと洗  
いたい。P104新同人紹介  
東定生の推薦者 完司・  
朱夏・美智子→恭昌・満  
作・眞澄。P104新同人紹  
介、東敏郎さんの住所、大  
阪市東住吉区矢田1-20  
1-20→大阪市東住吉区住  
道矢田1-20。P106下

段大会案内 故磯野いさ  
む名譽主幹偲ぶ会→磯野  
いさむ名譽主幹偲ぶ会。

▽新誌友紹介△  
郡山市 安藤 敏彦  
（一九九五、川柳塔社）

紹介者 木本 朱夏  
東大阪市 青木ゆきみ  
紹介者 江島谷勝弘（木）AM10

故磯野いさむ名譽主幹偲ぶ会 追悼記念句会  
日時 令和4年12月10日（土）午前10時30分受付  
出句締切 12時00分（欠席投句拜辞）  
場所 ヴィアール 大阪  
大阪市中央区安土町3-1-3  
TEL 06-4705-2411

偲ぶ会 14時  
追悼句会 15時、各題1句  
事前投句 〔芝居〕田中 新一 選（11月10日（木）必着）  
宿題 〔写す〕江畑 哲男 選  
〔愛妻〕重徳 光州 選  
〔歌う〕久崎 田甫 選  
〔くすり〕黒川 孤遊 選  
〔絵画〕小笠原 望 選  
〔旅〕森中恵美子 選

懇親宴 17時～19時予定（要予約・7000円）  
会費 3000円（弁当付き・追悼句集）贈呈）  
問い合わせ 番傘川柳本社 TEL 06-6361-2455

三田市 難波 克興  
紹介者 北野 哲男  
▽川柳塔誌電子化事業△  
10月1日「谷垣史好句集」

# みよみ子

毎月24日締切・35句以内厳守  
掲載は原稿到着順となります。  
楷書で誤字のないようお願いします。  
編集部

## 川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

無限大の可能性あるゼロである  
天眼鏡覗けばわたくしの明日  
進  
拡大解釈したのが運の尽き  
久美子  
可哀想誰も見てくれぬ昼の月  
勝弘  
月給の振り込み以来尻の下  
史郎  
いい日だった月うれしげについて来る  
直子  
ほろ酔いに月もお供をしてくれる  
満作  
満月を見ると心も丸くなる  
朝子  
喧嘩もう止めよう月が笑ってる  
久仁雄  
大花火月が慌てて雲隠れ  
眞澄  
人間が行ったら月もご迷惑  
憲彦  
ただ歩くムーンライトの恋でした  
行兵衛

ええ月や思わず手と手合わして  
紛争の国の空にも同じ月  
陽一  
恩返し骨折る数がまだ足りぬ  
哲夫  
YESよりNOの返事が難しい  
篤  
ゴキブリにひっくり返る妻の声  
まつお  
呪いなら呪み返してくる鏡  
昌紀  
仕返し怖くて妻に逆らえぬ  
としお  
長風呂を案ずる声へ大丈夫  
大子  
無農薬恵みの土に返す汗  
崇明  
恩受けたお返しちゃんとしなければ  
裕之  
返り咲く今がチャンスに燃えている  
民子  
夕立のお返しのように虹が出る  
ひろ子  
お早うに笑顔を返すいい日和  
芳香  
成金がゆく万札ちらつかせ  
いさお  
妻の手の内で舞ってるから平和  
克博  
シャッター街褪せた幟がひらひらと  
福貴子  
ロボットのかけらが舞っている宇宙  
小枝子  
天寿全う母は蝶々になりました  
智子  
あんなにも信じていた物の軽さ  
江里子  
ひらひらと舞い降りてきた余命表  
万紗子  
お好み焼きかつお躍らせさあどうぞ  
満知子  
どうせなら老後楽しくひらひらと  
萌  
午前様へ離婚届が貼ってある  
たかこ

## 川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

海の水青と信じたおさない日  
真由美  
小学校青組あつた運動会  
英子  
信号は黄色から赤青があと  
友二  
海の青空の青とは夏でしょう  
久美子  
青春を語れば長い長い夜  
則彦  
見積書一けた多く青ざめる  
孝子  
またひとつモノクロになる青写真  
規子  
ふみを青く青いインクは捨てられぬ  
ひろ  
青い目のペンパルがいた青春期  
龍馬  
気うつな日エールをくれる青い空  
初枝  
気持ちでも若葉青葉に負けはせぬ  
義明  
群青の空見て明日を立ち上げる  
重虎  
青色の原器は夏の日本晴れ  
隆樹  
青りんご非情の雨の仕打ちうけ  
美鈴  
青いまま落ちるリンゴもあるのです  
慕情  
青空とコラボして飛ぶ赤トンボ  
ひとし  
青空を切り裂いて来る戦闘機  
霜石  
ブルージーンズ気取らぬ若さ敬老会  
洋子  
がんばるのよそう青りんごシヤリシヤリ  
和香子  
青森もついに線状降水帯  
柳子  
壮絶な戦いでした逆転打  
磊

風の気紛れ戦にも平和にも

呼び戻す記憶と対の唄がある

春寿過ぎ亡母と遊ぶ少年期

玉ねぎを一個買ひする野菜高

癖のない男銚子によく溶ける

わたくしのロマンチックが止まらない

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにこ報

傷口が小さい時に手当する

湯上りの満天の星涼み台

言い勝つてせいせいしたが眠れぬ夜

ふつきれて前頭葉がよく笑う

難題も溶けてせいせい腹も減る

せいせいした喉から鯛の骨が抜け

袴を脱げばせいせい一庶民

俺は苦手なのに相手は声掛ける

私より安くみられる省略語

安かろう不味かろうとは真理です

昔よりバナナ卵が安くなる

順番で決まる役員安っぽい

安、安とほとけさまにはなれません

夏休み日が暮れるまで魚とり

誕生日祝いの膳は出世魚

のおよし

風来坊

一呑

ふさふ

花峯

吹喜

久芽代

貴恵

芳江

宣子

龍枝

重忠

滋

大鯨

紀子

玲坊

富隆

重利

石花菜

義人

美知江

釣り針を逃れた魚の高笑い

海荒れて今日は魚の休息日

まつりの夜僕の金魚になりました

そのうちに日本海に熱帯魚

愚痴一つこぼさず愚痴を聞く金魚

いい勝負キスの天婦羅アジフライ

わたくしに魚偏つてマーマイド

和歌山三幸川柳会

西川 千鶴報

掌で泳がされてる思い遣り

予防接種済ませコロナの波泳ぐ

豊かに生きる楽しく酒の飲める人

ストレスを丸ごと飲んだ里の川

飛行機に乗る時いつも死を覚悟

懸命に泳ぐと波も妥協する

将来の夢を飲んでる哺乳瓶

泳げないされど水着は持っている

ローカル線乗れば溶け込む国ことば

あいまいな言葉でひび割れを避ける

ならぬなら等身大で生きてみる

消しゴムに笑われている誤字脱字

戦争を酒の肴にしない父

急流に逆らい泳ぐこともある

節子

紀美恵

紀の治

芳光

三津子

完司

くにこ

昭枝

起世子

まき

菜摘

一雄

純子

和子

宏枝

宏子

敏照

碧

ひろ子

保州

彦弘

米田恭昌選

コロナ以降私の世界小さくなり

ウクライナへ届け反戦の叫び

初対面距離を縮めた里ことば

プーチンよ死んだ子ども骨拾え

手抜きした土砂にひまわり咲き誇る

いつの間にか役に立たない高齢者

耳打ちが功を奏したサヨナラ打

宗教の告発をした殺人者

独り居の気まま放題今が旬

貧乏性ついつい比べ安い方

佳句地十選

(10月号から)

大内朝子選

ボツボツと覚悟する日が近くなる

生きている音が聞こえる裏長屋

もうよりもまだで生きたい老いの道

子を案じ親を案じている絆

手の甲のしわつまみ上げ年を知る

すっぴんでマスクに頼る日々である

譲り合うどうぞどうもの温い風

泥縄の策でどうとう第七波

抱き合うも武器を持つのも同じ腕

(安和夫)

すみ子

いさお

大子

一歩

由紀女

遊行

満作

黒兎

忠子

げんえい

勝弘

宏造

菜摘

無限

れい香

聡美

大子

眞澄

道子



車窓からみれば長閑な野良仕事

公園の仲間入りする乳母車

乗り換えの駅で一杯旨い酒

再会の温もり添えて乗車券

人ごみに飲まれて慣れぬ都市砂漠

幸せはリズムに乗ってやって来る

泳がしてくれた上司の太い肩

目が泳ぐ大トロ口ばかり時価の寿司

メダカ飼うどの子もみんな自由形

薬飲むときは信じている長寿

カナヅチも海に飛び込みたい猛暑

手の平の上で泳がされています

今でしよう米寿生き抜くエネルギー

世を渡るどの泳法がいいかしら

泳げれば助かる命と子に教え

回覧板うれしい話乗せて来る

清濁を合わせ飲んでる現在地

風に乗りこの種どこの庭で咲く

ため息がどつと乗り込む終電車

エレベーター乗る時なぜか息を止め

飲み込んだ弱音が喉で足掻いてる

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

記憶にはあるが名が出ぬクラス会

栄香

剛

義泰

准一

あき子

明子

知香

眞智子

和美

よしこ

幸

さやか

満喜子

弘子

悦男

敏雄

ひろみ

康則

侃大

澄夫

俊介

千鶴

忘れた記憶すくくと立ち上がる

記憶ある親父の言葉子に話す

竹高の決勝戦を見た昭和

八十四歳母の乳房を記憶する

父と母記憶のなかの柳談義

風づくりにアイデア楽し子供会

リフォームへアイデア浮かび解く着物

入道雲よ何かアイデアくれな

日本一暑い夏なら甲子園

風鈴が止まったままの熱帯夜

ひまわりを胸に反戦歌を歌う

白球を追うと入道雲が湧く

バカボンを真似てステテコ妻嫌う

太陽と夏は友だちだったはず

ふるさとの花火は僕の胸に咲く

猛暑に挑む貨物列車の轟音

長かつた0歳笑う熱下がる

重圧を下したユズくんの笑顔

夏の虫雨には雨の護身術

保育所で習った通り手を洗い

ゆっくりと前へ空にはくじらぐも

とうめいかあさんになってまもってね

夢香

日出夫

蘭幸

輝恵

千代美

弘子

慶子

比呂子

節生

節夫

京子

昭紀

宣之

笑子

敬子

和子

歩美

厚子

貞子

初音

史子

小二沙弥

えだまめよたべられるじゅんぴはできてるか

うみとそらどつちがひろいんだろうなあ

五歳すず

近藤 正報

城北川柳会(大阪)

自慢するものがないので笑顔だけ

忘れたい事があつたら米を研ぐ

先生の優しさに触れ気が和み

努力とは報われるまでどこまでも

武器よりもペンの力を信じたい

もりもりと白米食べて孫肥る

先生も患者と一緒持病持ち

蝶蝶も喪服で送る森英恵

探してますのはのニュース目と耳で

ケータイの鳴らぬ日々ある孤独感

洗脳をする先生に近寄りぬ

ほろ酔いで妻の話も上の空

よくぞまあこんなところで千枝田

思いではおこげのにぎり母の声

年甲斐など上の空です今が旬

おめでとうアプリが褒める一万歩

妻どこへ電話架けると家で鳴る

章

このままで済まいいい日はきつと来る 賢子 沙汰なしが無事と思つた落とし穴

スマホなど持たぬと山の一軒家 郁夫 絶食が解けて安らぐ三分粥

巨神戦声をかけても上の空 満作 一時の安らぎを得る夏昼寝

一目惚れ親の意見も上の空 肇 安らぎの時はいつくるウクライナ

私には機能が多すぎるスマホ かずお おやなせやはり夢はますますでかくなる

世の動き指一本で知る時代 信子 国境でひまわり震え泣いている

トイレにも風呂にも持っていくスマホ 宏造 いつも通り夜のしじまと朝ばらけ

枕元にスマホ置いて安堵する ルイ子 愚痴なのか自慢か境目が微妙

この秋も松茸に縁なさそうで 和夫 夏バテと鰻重二箱たいらげる

扶けたり扶けられたり世は円い 亜成 したり顔まつげを伏せて猫かぶる

潮どきを忘れたわけでなし長寿 志華子 四角ばらず丸く生きたい年金者

百均率スリーコインズリッチ感 義明 利子よりも高い切手で通知くる

雷鳴に柱のきしむ古い家 黒兎 静かに逝く今日もうるさく爺は言う

百円の花瓶で楚楚と百合の花 恭子 バトカーを見れば隠れる癖がある

俯くなど三年振りの大花火 星雨 一言で子の意を通す親心

強面がやさしく摘まむ冷奴 千賀 どうせなら統一葬にしませんか

浮いている宇宙に行けば蹟かぬ 五月 猛暑日を越えて暑い日何日かな

政治家は信念曲げて闇の金 政治家 政治家は信念曲げて闇の金

ウクライナコロナと同時終息を 規之 ウクライナコロナと同時終息を

花の下未来のボクへ埋めた箱 福子 南大阪川柳会

金貸した友の行方は探さない 和子 防犯のカメラ作動に見守られ

玉音が六月ならば核落ちず 淳司 うつかりの介助ATMの前

安らぎを妻に求めた反省記 純風 柳右子

被災地に若い力が泥を出し 直子

頑張れよプロペラの音救助ヘリ 千鶴子

葉野菜を蝶から助けたくネット 東風

助けたいけれど私も泳げない 力

助けると言えぬ二歳の悲しい死 大子

助け合い昔むかしの隣り組 志華子

飲む程の金しかない酒注がれ 蕉子

助けると言えず固まるひきこもり 実

四と九縁起の悪い予約席 満作

背を預けどこまで行こう汽車の旅 風羅

妊婦さん座席確保で回りホッと 静美

遅刻者に最前列が待っている 柳伸

床を背に気まずい酒を飲む役目 博

末席に座り野心を膨らます 楓楽

社会的弱者の振りで群れている 弘子

弱者だから後ろの席に座ってる シマ子

八十路前もう弱者だと胸を張る 勝弘

デジタルの海で溺れる高齢者 常男

物価高弱者の財布狙い撃ち 常男

弱い者劣る政治まだ見えぬ いさお

花ジュース子供の事故の献花台 一歩

バリウムがジュースならばと胃が叫ぶ ひさ乃

君レスカ僕は冷コー初デート まゆみ

双葉

長柳会(大阪) 大浦 福子報

若い娘の注文真似てスムーズ  
 雨雨雨泥のジューズが襲い来る  
 酒の相手にジューズの婿が頼りない  
 初盆の灯りが有りし日を照らす  
 痩せるつもりお八つはやめる努力する  
 もりもりと食べる子供がうらやまし  
 咲き揃う向日葵ここは平和です  
 黙禱に読経のような蝉しぐれ  
 八月忌不戦の誓いさるすべり  
 二十四の瞳に涙八月忌

はびきの市民川柳会(大阪)藤原 大子報

おはようと毎朝ラインくれる友  
 幼児の挨拶いつも愛おしい  
 お隣へ越して来ましたよろしくね  
 お早うさん元気を貰うランドセル  
 友人と挨拶がわり縄のれん  
 おはようが言える賢いオウム飼う  
 ていねいなその挨拶に野心あり  
 お悔やみのことは八十でも苦手  
 ありがとう最後の言葉交わしたい  
 何も言わずまずは私の手を握る  
 挨拶は相手の心癒す武器

よしみ 昌紀 亜成 通江 ルイ子 峰子 蟻日路 敏治 克己 国和

コロナ禍で世界会議もグータッチ  
 庭の花活けて我が家のご挨拶  
 今日とは昨日と違う時刻む  
 国葬にしたのは誰か刻みこむ  
 初恋の思い出刻む学生服  
 じわじわと心に刻む良い映画  
 レコード盤昭和を刻む音流れ  
 名言を胸に刻んで世を渡る  
 反戦を心に刻む彬の碑  
 遍路旅大師が刻む像に逢う  
 悠久の時を刻むや応神陵  
 円空の刻んだ丸太いのち持つ  
 食べさせたくて食べさせたくて微塵切り  
 今日への悔い刻んで胸に仕舞いおく

みつこ 瑠美子 宏造 勝弘 冬のト こみつ 大子 フジ 千鶴子 ちづる いさお 楓 楽 扶美代 久仁雄

錆びた勘それでも稀に顔を出す  
 運だけの勝利は消えるシャボン玉  
 くじ当たる第六勘の売り場です  
 につこりするとおまけをもらえました  
 おもてなし日本の良さに癒される  
 サービスと言われたけれど腑に落ちず  
 タイムサービスお買い得です私  
 先生も残業させてサービスか  
 堪忍と妻への儀礼暮らす日々  
 私とは違うコロンの匂うシャツ  
 勝ちとつた高嶺の花も枯れすすき  
 サービスがじつと狙っている財布  
 勘の良さを重ねて急降下  
 勘だけに頼つてうまくいく事も  
 勝ち抜いて確かに満ちてくる自信

ダン吉 和宏 明 小雪 寿子 よしこ 知香 敦巳 信勝 精子 八茶 節子 佳子 光

わかやま吟社

小谷 小雪報

つぶやきが叫びになって来た卒寿  
 アスリート雄叫び上げる沿道で  
 ウクライナの叫び聴こえぬブーチン氏  
 命あるかぎり平和を叫びたい  
 許してるあなたがいつも勝っている  
 残り火が勝利の夢を外さない  
 気を抜く勝利の神はよく転ぶ

徑子 タカ子 紀子 夕胡 あきこ 富美子 大輪

川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

三分へ一日かけて通院日  
 幕を開け同じムジナを炙り出す  
 塩減らし砂糖も減らし家の味  
 薄味で五臓六腑を休ませる  
 お馴染みができ早朝のウォーキング

遡行 三樹夫 まみ子 かつ子 美千代

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下 凱柳報

論吉さん君に再開久しぶり

夢でいい父母に再会してみたい

火に油注ぐ再会だった恋

七夕に再会のナスあばれ馬

再会の男はロバになっていた

指切りの指が再開待っている

知恵もなし金なし暇はありすぎる

知恵もなく淋しく送る日なたぼこ

戦時中食糧難の亡母の知恵

断捨離へ知恵はいらない肝っ玉

失敗を重ねた知恵だ無駄がない

愛と憎からんで知恵の輪が解けぬ

火を使う人間だけの知恵がある

婆ちゃんの知恵を聞こうと仏間行く

さーで来る信じて来ない福の神

勲章

房江

茶人

一平

拓治

紫陽

洋子

初恵

哲子

賢吾

千賀子

無限

宏章

金祥

凱柳

ヨーヨーも膨れつ面で夏終る

スマホ見るママをみつめる子供の目 喜美子 えみこ

青春譜とところどころに涙あと 満知子 (圓)恵子

踏んばったサウナのような夏が往く 次郎

ブライドと一緒に消えた夏帽子 旅人

口ほどに暑く感じぬ老いなのか 敏郎

酷暑日も六腑を癒すホット飲む (阪)恵子

炎天の蟬にうんざり人まばら 和男

空よりも君を見ている遠花火 美智子

携帯の小窓に雨が降っている 孝純

散らばったご飯はポチの仕業です 雅美

ところどころ改ざんの跡ある日記 孝純

水撒けばうっとり顔の夏の花 雅美

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

穏やかなるごめんねとありがとう 佳子

穏やかな口調一変皆正座 素頼馬

穏やかに喋ってほしい僕の妻 勝弘

作物の声を聞いているお百姓 憲

穏やかな母の背中が道しるべ さくら

穏やかな日余白のページ埋めていく 万紗子

笑む如き友に一輪白い菊 みつこ

穏やかな表情生ききった顔だ 扶美代

安価でも味満足の定食屋  
ジエネリックまこと同じに効くのかな  
老い独り安い湯豆腐ひとと食う  
格安のプラン探して旅に出る  
安物を買って得したような顔  
おいしいと言わせて見せる安い肉  
低廉の卵がガードする庶民  
影法師しよげるな再会又ある

厚子  
虻 蝸  
重忠  
みつ子  
鐘 旭  
龍 枝  
欣 之  
(門)千代

手でひさし眩しい君をみつづける

よしみ 康雄

夏ばての蚊気弱すぎるアタッカー  
盆太りお供え物を食べ過ぎて  
スマホなしテレビも捨ててわれ平和  
まばらな客に大絶叫のロック歌手  
美容院行った妻には声を掛け

幸徳  
はるみ  
てるひこ  
晋一  
康雄

川柳de遊ぼう会(大阪) 小野 雅美報

木の癖を生かす庭師の思いやり  
 お互いの癖も許して丸く住む  
 仲人に聞いてなかつた女癖  
 亡き友の癖字の賀状も来ない  
 七癖と言うが数えりや十五癖  
 友の鼻ビクビクあれはきつと嘘  
 縮れ毛がハイジのような可愛い子  
 あまえ癖字を取つても直らない  
 口癖を孫がそっくり真似ている  
 長男の癖字に笑う熨斗袋  
 文豪の癖のある字も味となる  
 几帳面字にも人柄滲ませる  
 一日の反芻をする仕舞風呂呂  
 庭野菜採算よりは新鮮さ  
 ごちそうのメの小皿はお漬けもの  
 別嬪の野菜を工場で作る  
 スーパーに並ぶ野菜も多国籍  
 イケメンの顔写真みて買う野菜  
 近頃の野菜は匂をわきませず  
 うまいぞと大きなかぼちゃ抱いて父  
 ひっそりとラストまで添う夫婦岩  
 日向はコラジオ聴いてて飯まだか  
 日々精進ライフワークを目指してる

五月 秀でてるライバル我に目もくれず  
 俣子 独り旅ラストランです冥土まで  
 尚邦 きやらばく川柳会(鳥取)後藤 宏之報  
 いさお 雨降りに休めぬハウス物置きに  
 光雄 冗談の通じぬお方ややこしい  
 清 鮎もらい味この上もなしやはり夏  
 八千代 盆踊りいつもと違う僕がいる  
 廣子 湯上りにアズキアイスも捨て難い  
 育子 覚えてるテレビ画面の上高地  
 満知子 立秋が過ぎたと声に出してみろ  
 和夫 今日の日が楽しかったら良しとする  
 ひさ子 朝ドラのあとは終日甲子園  
 朝子 甲子園夫婦の母校共に負け  
 史郎 バテましたウナギ差し入れパワーアップ  
 敬子 盆の花足元を見て値を上げる  
 進 花ビラを散らす鉛筆削りカス  
 萌 本物と間違えそうなる戻り梅雨  
 憲彦 ひろし  
 玄也  
 美津子 プラザ川柳(大阪) 藤塚 克三報  
 ひろ子 生き様が普段の顔を変えてゆく  
 敏治 取れ立てがやっぱりうまい巻き網魚  
 満作 通り雨止むまで待てぬせっかち者

里子 政界の激辛消えて今静か  
 時雄 起き際に川柳一句書き止める  
 恵子 ふだん着で喋れる人がいて嬉し  
 令位子 盆が過ぎ普段通りの食卓に  
 宏之 黙食が美味しかったよなせ言えぬ  
 久直 普段着の下にシヤネルをちらつかせ  
 雨奇 赤ちゃんのあくびいいねがつく不思議  
 治代 求愛のポーズ動物には勝てぬ  
 俊久 電話切り普段の声に戻る妻  
 宣子 何時何処で逝くかも知れず下着白  
 紀の治 ぼたる川柳同好会(大阪)水野 黒兔報  
 美緒 長い椅子だった勤続四十年  
 菜々 見栄捨てて夫をなだめて車椅子  
 美穂 一日を椅子から椅子へ動くだけ  
 千代 水際は緩みマスクは続行中  
 ひろし 入学から続くマスクで卒業へ  
 千代 かがりつけ医と死ぬまで続くおつきあい  
 百歳まで生きてやれやれしてみたい  
 彼岸花やれやれ夏も終わりだな  
 ああ乗れたこれで遅刻はせずすむ  
 また今年サンマ高値で食べそね  
 満年齢言わないことが美の秘訣

政夫 靖子 悦夫 景子 和代 一彌 清乃 弘光 正子 淳司 正子 奈津子 契子 純子 直子 宏造 則彦 春代 勝弘 黒兔 順子

蹴躓いた俺に満月ニツコリと  
おはようと毎朝妻とハグをする

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音  
一面は写真太文字スポーツ紙  
原点は写真太文字スポーツ紙

原点はB29の飛来音  
一面は写真太文字スポーツ紙  
原点は写真太文字スポーツ紙

原点はB29の飛来音

六甲川柳会 梶谷 和郎報

せめて読書を楽しまんウイズコロナ  
あとがきを読んでから買う新刊書

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

国葬は教団まみれのキーパーソン  
先を読め言った夫に離縁状

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

故障して始めて読んだ説明書  
美味しさの原点いつも母の味

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

内なる声先は短し今朝は晴れ  
深読みをしすぎて一歩踏み出せず

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

懐かしい寄せ書き読んで浮かぶ顔  
どうしても国葬やらないかんのか

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

頑固だが美魔女に弱い太い眉  
政権党ズブズブでした教会と

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

始まりは子猫貰って飼ってから  
働きのバックinghamに虹が立つ

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

する事がない何回も深呼吸  
ウクライナ神も仏もあるものか

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

太い眉自説絶対譲らない  
吾がDNA精子卵子のミスマッチ

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

和宏

和宏

和宏

和宏

和宏

忠志

忠志

忠志

忠志

忠志

栄

栄

栄

栄

栄

武彦

武彦

武彦

武彦

武彦

盛夫

盛夫

盛夫

盛夫

盛夫

川柳さんだ(兵庫)

酒井 健二報

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

原点はB29の飛来音

犬乗ってますばあちゃんの乳母車 耕治

乗って乗ってと若葉マークが乗せたがる かずお

流れ星願いごととならただひとつ ひとみ

逝った人思いは風に乗せるほか 洋次郎

つらい時そっと温い手乗せた人 廣光

半分が反対している国葬 健二

身から出た錆びだと思ふあの事件 勝弘

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

待ち受けの画面でわかる宝物 ゆきみ

体操はアイサービスに決めました 迪

反抗期照れ隠しするふくれ面 緑

照れること無くなってきた歳とった 野薫

限りなくクロに近いになぜ不起訴 俊雄

もう良いよ自由にしなと蛇の衣 靖夫

断り切れぬあの日を憶う八月忌 惠美子

レジでピーススマホ世代に俺キヤッシュ 邦男

コロナでは来てはくれない救急車 宗鉄

逝くのならスマホを持っていつてくれ 洋次郎

誰よりも私の秘密知るスマホ 敦子

熟せればスマホはとても便利です 新録

指切りの指が照れてるおさげ髪 武彦

ちよっとだけ節電します早く寝る みよし

体操の後のビールで太鼓腹

八月八日未明スズムシが鳴く

爺ちゃんのラジオ体操タコ踊り

利便性高いスマホが世を乱す

何でやろ妻が鼻歌笑顔やで

揺れているところが故故かいとおしい

写メールへ不意に届いた呱呱の声

スマホの普及新聞ばなれ加速する

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

迷うたらおもしろい道を選ぶ僕

決めかねる紺かピンクか服の色

ロボットのサービスイつても迷わない

他人でも迷子放送気にかかり

この先の余命迷わず走りたい

欲を捨て身軽になつて余生あり

五欲まだあるのは生きている証

死ぬまでに使いきれない貯めた金

スイーツを提げて帰ろう妻の乱

あー円安せめて自衛にネギ植える

エビアンのはボトルに入れるうちの水

しんどくてバスに替えてと赤字線

健康であればその他入りません

幸彦

勝弘

盛夫

良種

隆一

紀乃

野鶴

美津子

初音報

英坊

照代

柳明

ゆきみ

佐和子

れい香

初音

こみつ

純

菊江

和子

宗鉄

楓華

迷い猫いやしいやされ二十年

詰め放題伸ばし引つ張り積み上げる

孫二人頼むと預け娘は出掛け

持て余す元氣徘徊する病

国葬で総理迷えば民二分

タンス預金使い切れないかも知れぬ

気まぐれに買って積んどく直木賞

切り捨てたはずの煩惱あばれ出す

早よう寝よ間が持ちません休肝日

この頃は乱れるほどの髪がない

幸せを掴みとるためいる両手

お帰りとワン公からのキスの雨

喪が明けた女が女の顔になる

幸せを宙に浮かして迷い箸

ぐつと握りしめております生きる欲

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西

永久はウソ抜け落ちた永久菌

しばらくは豆腐と決めて歯医者出る

悠悠は涙の雨が土台かも

虫が鳴く虫の世界を覗き込む

濁流に川上どんな雨降りだ

ちっぴけな私の世界幸せだ

龍

厚江

新録

幸彦

修平

廣光

祐康

真核子

健二

勝弘

宏造

耕治

紀惠

隆一

かずお

茶子報

完司

弘子

茶子

小鹿

弘六

正昭

雨上りセミ追いかける夏の子ら  
ゆつくりが一番苦手私流  
類のない世界に誇る日本刀

白周  
孔美子  
重忠

湯が沸いた葉伍の知らせ返事する  
親戚も梨作りやめ貰えない  
初競りの梨の値段は誰の口

恵子  
智恵子  
日出子

コロナ後に出発を待つゼロ地点  
少子化でアンドロイドの影法師  
滅塩の食事に耐えてまだ生きる

青帆  
雪代  
あきら

テレビでは何度も行った五大陸  
ジグゾーで孫に教えた世界地図  
コロナ菌変化しながら世界中

宏章  
孝子  
瑞子

梨の季節送るばかりで届かない  
やかん持つ父の後行く墓参り  
怒り心頭葉伍頭が湯気をたて

けいこ  
佑子  
凱柳

一呼吸置けば怒りも減っていく  
小児科も産婦人科も減っちゃった  
コスト・ダウンがたり碎ける角砂糖

豊仙  
モナカ  
美智子

一月で菌プラシ替えともつたいな  
家庭でもゆつくり出来る居場所なく  
何如結ぶ戦争知らぬ平和な手

かおる  
一平  
静恵

お隣に留守を頼んで温泉に  
古ほけた葉伍昭和の音で沸く  
あの歌が脳裏にうかぶ隣組

道春  
由紀子  
完司

失敬だ百足に足を減せなんて  
好奇心パワー性欲までも減  
あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

弘充  
芳山  
太郎

何如夢に出てきてくれぬお母さん  
認知症何如僕でなく妻なのか  
ゆつくりと発酵進みしみ白髪

静恵  
一平  
かおる

お隣に留守を頼んで温泉に  
古ほけた葉伍昭和の音で沸く  
あの歌が脳裏にうかぶ隣組

道春  
由紀子  
完司

失敬だ百足に足を減せなんて  
好奇心パワー性欲までも減  
あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

弘充  
芳山  
太郎

住む世界違う高嶺の花に惚れ  
地球は回るゆつくりと老けてゆく

恒  
大鯨  
すみれ

あつた葉伍昭和の音で沸く  
あの歌が脳裏にうかぶ隣組  
宥めたり宥められたりして家族

照彦  
雄大  
知恵子

豪華とは無縁に生きて盤寿過ぐ  
過疎の村豪華列車が通り過ぎ  
豪華ではないが心の家族葬

太一郎  
佑治セミ  
はこべ

髪型が決まらぬ心決まらない  
年だけど黒より白もいじやない

知恵子  
邦代  
吹喜

逆さ富士私もあんな感じです  
ダイエット我慢し過ぎてやけぶとり  
ゼロ並べ億万長者顔作る

邦代  
吹喜  
とも子

満天の星空仰ぐ一軒家  
私の微笑はモナ・リザを超える  
ななつ星九州にいつか乗る

朝子  
和郎  
恵美子

取り敢えず宥めて寝かす酔っ払い  
貧乏ゆえ辛苦を宥め五十年

龍枝  
紀美恵  
重忠

逆さ富士私もあんな感じです  
ダイエット我慢し過ぎてやけぶとり  
ゼロ並べ億万長者顔作る

邦代  
吹喜  
とも子

満天の星空仰ぐ一軒家  
私の微笑はモナ・リザを超える  
ななつ星九州にいつか乗る

朝子  
和郎  
恵美子

梨食べて今年も生きたありがとう  
お隣もコーヒータイムいい香り

恭子  
風露  
隆昌

ゼロ並べ億万長者顔作る  
ここ出るよ「ゼロは偶数赤線を  
蒸し暑いゼロゼロゼロの貧打戦

とも子  
柳歩  
徳利

こつてりが好きで体重計が敵  
ケチャップで見えなくなったオムライス  
こつてりは正義だ豚の角煮食う

欣之  
ひとみ  
利秋

我が墓地の両側見れば絶えた家  
隣でも明かり見えない家の向き

隆昌  
さちこ

会社では重力ゼロになつて浮く

小鹿

こつてりになるまで私を煮込む

いさお

倉吉川柳会(鳥取)

大羽 雄大報

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見

柳歩報

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報



こつてりの仲が伸び切る鍋うどん

失楽園見たあとゴクリ水を飲む

みたらしの光るところは親が舐め

こつてりと塗って隠しているのは何

こつてりとみんなうちの子長屋の子

夾竹桃あの日を耐えて今盛り

耐えに耐え耐えて凌いだ日の矜持

耐震を済ませて大の字に眠る

私しかない耐える血の絆

我慢する人が居るから輪が丸い

冤罪をはらす迄は生き甲斐に

結婚は耐久レースだと思ふ

値上げラッッシュ年金減るしコロナやし

強引な国葬戦前をおもう

宗教と政治ながーいお付き合ひ

コロナ禍のモグラ叩きがまた続く

対岸の火事かのようにテレビ見る

選挙戦宗教絡み金絡み

チコちゃんに叱つてほしい戦好き

地球からなぜ戦争が無くならぬ

オリンピック金の齎き表に出

耐えに耐えたもう限界の拉致家族

川柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

寡黙から出た一言にある勇氣

杖もつた途端に足が動き出す

下積みの汗は大器の花咲かず

不安の種に水をやってる心配性

八月忌平和が続きますように

反撃は覚悟挑戦する勇氣

はだしのゲン再読をして勇氣出る

あの時に断る勇氣さえあれば

子育てに勇氣を教え育てたい

その時はその時ですという言葉

ひとりよりふたりでいるとおもしろい

涙するシーンもあるよ新喜劇

人生の器探した青年期

修理して使える位が値打ちもの

器には器に似合う料理盛る

すわり悪い盃だけど妻の作

大盛りの器に伸びる子等の著

漫才師ネタを探しに縄のれん

おもしろを売る道化師に涙粒

朗報の頭痛の種は鬨斗袋

心配だ見舞いの客が多すぎる  
言い出せぬ気配残して娘は帰る  
千賀 和織

エアコンの機嫌取りとりすこす日々  
銀杏

雨二負ケ風ニモ負ケル氣象危機  
鈍甲

お多福でも怒ればすぐに夜叉になる  
彰一

分かったと口元がただ緩むだけ  
秀雄

暑さなんかには負けるなど咲くカンナの朱  
かずお

ちよつとだけあの世へ行つてきたのです  
ルイ子

老い二人となりのトトロ見る茶の間  
賢子

今だから昔話として語る  
高鷲

茶柱が呉れた元気で靴を履く  
郁夫

母の風満ちて新盆菊香る  
あかり

ウクライナ嗚呼九条の有難さ  
いさお

銃口に愛と平和を詰めなさい  
かこ

大山滝句座(鳥取) 新家 完司報

何もない田舎暮らしが合っている  
芳光

いつも遅れて来る人に首ったけ  
寿代

ゼロがいい何も持たずに風になる  
照彦

腹の中鯨がでかくなりよつた  
芳山

大福とチョコはカロリーゼロとする  
くにこ

根拠など無いが当分大丈夫  
紀の治

汗まみれ血まみれ今日ヒマまみれ  
正人

襟に紅今夜の酒はゼロ査定

乗り遅れ事故に遭わずにすんだ幸

ゼロにゼロいくつも足した疲労感

台風に家を丸ごとラップする

ゼロゼロゼロ何個並ぶのその利率

遅くてものろくてもよいまだ自力

歳重ね黄泉へ旅立つ準備中

ゼロ歳が笑い喧嘩も収まった

一時間かけて中学遅刻なし

思い出を御破算にして恋が死ぬ

軍配を図太い方へ上げておく

石になる準備は出来ております

腹を見せアブラゼミさん横たわる

無ではないゼロにはゼロの意味がある

鞆には予備のマスクを入れておく

プーチンに薬人形も効き目なし

投網うつ準備をしつつ魚影待つ

冥途への旅の準備がまだ出来ぬ

一点が足りず落第何のその

鈍感力ついてどなたも恐くない

豊中もくせい川柳会(大阪)初代

正彦報

包丁の切れ味鬱の心解く

健二

みちを

ゆたか

余光

雄大

紫陽

幸子

由紀子

風露

けいこ

順子

麦青

石花菜

富隆

小鹿

久子

清明

重忠

規雄

コスモス

完司

悪知恵も枯れて卒寿の楕円形

飽きるほど見つけていたが名が出ない

じりじりと首絞めてくる物価高

また一枚診察券がふえました

飽きる程眺めてピカソに納得

苦勞さえ笑い話にできた亡母

蟬の唄もか細くなって秋はそこ

盃上げる飽きることなくひとり酒(未)

知恵汗も出さず文句は一丁前

ひまわりに平和を託し眺め入る

悪知恵も少し背負ってるランドセル

プーチンの横顔消しゴムでは消せぬ

明日生きる知恵を拾ったコラム欄

三度三度独り暮らしのメシ作り

知恵袋とところどころに虫の穴

ご馳走に飽きたら旨い梅茶漬

バリトンでジリジリ時計電池切れ

じりじりと暑さが続きやる気なし

じりじりと待つのも楽し初デート

呑兵衛は飽きることない酒の味(岩)

自肅にも飽きて青春切符買う

欲の皮張ると竹藪返し食う

じり貧に気付いたときは底も見え

眞理子

晴子

時子

多美子

きらり

英三

北舟

玲子

義明

憲央

敏昭

公輔

野鶴

見清

千鶴子

哲男

武人

忠子

英旺

玲子

いさお

満作

則彦

核をひらひら知恵のかけらもない国だ 眞澄

知恵の輪がもつれて人のする戦

知者賢者スマホの指にシャツ脱ぐ

無位無冠ドナーカードは持つている 美津子

物価高優等生の玉子まで

すず虫の声したようではっとする

陽は沈む戦はいつの日に終る

細い首だけど嫌なら横に振る

秋風が誘う小さな旅プラン

飽きません深い深い一七五

なんとなくそんな気がしていたのです

ひとみ

和郎

弘子

定生

行久

けんえい

美智代

則彦

かずお

すみ子

富子

### 第45回 鳥取県川柳大会 誌上大会

宿題と選者 各題2句

「耳」	後藤 宏之	選
「消える」	齊尾 くにこ	選
「嬉しい」	新家 完司	選
「思い出」	平尾 まさと	選
「大きい」	森山 盛桜	選
「ぼかぼか」	長谷川 博子	選
「塔」	竹治 ちかし	選

投句要領 規定用紙(コピー)

投句料 1000円(現金書留・小為替〈切手不可〉) 大会誌進呈

投句締切 11月30日(水) 消印有効

投句先 〒683-0105

米子市葭津1712-1

門脇かずお宛

TEL(0859-28-8078)

主催 鳥取県川柳作家協会

### 第41回 鳥取県 没句川柳供養 誌上大会

課題と選者 各題2句

「有料」	清水 月満	選
「儲かる」	薮 帆子	選
「失礼」	鈴木 かこ	選
「くすぐる」	北川 拓治	選
「悲しい」	平井美智子	選
「不自然」	新家 完司	選
「敗者復活吟」	小島 蘭幸	選

(復活吟はこの一年で没になった川柳2句)

投句切 11月30日(水) 当日消印有効

投句料 1000円(現金・定額小為替・切手可)

投句先 〒689-0202

鳥取市美萩野2丁目171-3

中村 金祥 宛

TEL(0857-59-1056)

主催 川柳ふうもん吟社

満月の影踏み遊び塾帰り  
振り向けばわたしの影に角がある  
肩書きがとれて影まで薄くなる  
似て来たなあ母の遺影の目尻皺  
血管のせせらぎが夢八十路坂  
軍拡などさらさら聞いてない九条  
さらさらと還らぬ時を砂時計  
さらさらと還らぬ時を砂時計  
血液はさらさら百歳を目指す  
民の意見さらさら聞く気ない総理

克巳  
ひろ子  
いさお  
じゅん子  
和夫  
みつこ  
史郎  
武人  
一歩

やがて紅葉擦れの音がさらさらと  
さらさらと慣れた手つきの離縁状  
川の流れ変わるごとくなく村は過疎  
若さつていいなさらさらの献血  
実り具合いちばん知っている雀  
反対を押し切り自慢する成果  
実る穂に比べ政治の不甲斐なさ  
顔見たく取りに来させる夏野菜  
働いて働き抜いてやつと今

シマ子  
半六  
ダン吉  
順啓  
保州  
敬子  
裕之

間引かれた花も満足大きな実  
刈り終えた実りの里の鱈雲  
実らねばならぬ多勢の手を借りた  
再読の本から新しい世界  
実る子へ一途に祈る母の愛  
不器用に生きて男の実る秋  
流石です人は実れば低い腰

大子  
満成  
亜成  
柁子  
寿之  
俊雄  
崇明

句会名	日時と題	会場と投句先
西宮北口 川柳会	14日(月)14時締切 席題・節目・ほやく・めっちゃ 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川柳 ねやがわ	15日(火)必着 徳・ジェラシー 肥料(こやし)・鬼・自由吟	投句・25日締め切り 投句先: 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川柳 さんだ	15日(火)13時30分締切 登場・凄い・アメリカ・驚く 自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先変更 〒669-1324 三田市ゆりのき台3-14-9 上田ひとみ
岸和田 川柳会	19日(土)14時締切 指・冴える・思わず・シック	誌上句会・投句先 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳 たちばな	19日(土)13時45分締切 席題・果物一切・じっくり 自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳 塔みちのく	19日(土)17時締切 交換・開く・打つ	会場未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 藤井寺	20日(日)14時締切 見抜く・まるで・席題共撰	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	21日(月)14時締切 結ぶ・増える・つもり・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	21日(月)13時50分締切 敏感・配る・かなり・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
和歌山 三幸川柳会	26日(土)13時15分締切 働く・笑う・旗	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
川柳 すみよし	27日(日)14時締切 足・慌てる そんなこと事もあった	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
はびきの 市川柳会	27日(日)14時締切 図星・励ます・シャツ・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん社	27日(日)13時～ 自由吟・想像・寄る・修羅場	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

# 11月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 な	3日(木) 14時締切 ジョーク・ゆっくり・叫ぶ 席題	奈良県文化会館 近鉄奈良①番出口東へ5分北側 投句先 〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城北会 川柳	5日(土) 14時締切 朴念仁・ドローン・数学 自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷藤弘
川柳 とんだばやし 富柳会	5日(土) 動・虚しい	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉吉会 川柳	5日(土) 14時締切 明り・重々・どっぶり 席題一題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡湯梨浜町545-16 竹信照彦
川柳塔 まつえ社 吟	5日(土) 13時30分締切 ブラシ・自然・乱・熱	投句先 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充 会場 雑貨公民館
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7日(月)必着 おごそか・ドキドキ ゆく年を惜しみながら…2句	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 「おりひめ☆ひこぼし川柳会」 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
ほたる 川柳 同好会	8日(火) 13時30分締切 指・足す・うっとり	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒鬼
川柳塔 さかい	8日(火) 締切・誌上句会 逆転・マイペース 折句：し・や・こ	東洋ビルディング4F 投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
川柳 あまがさき	8日(火) 14時締切 風・朝・力む・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
あかつき 川柳会	11日(金) 14時締切 飛躍・いまさら・魅・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六甲会 川柳	12日(土) 14時締切 楽器・じっくり・絞る 自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川柳塔 打吹	12日(土) 13時30分締切 図面・借りる・ざくざく・席題	倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳塔 わかやま 吟社	12日(土) 14時10分締切 兼題 = 自転車・入・ケーキ 課題吟 = 抽斗	JAビル11階(JR和歌山駅前) 兼題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 乘原道夫

## 編集後記

★すでにお気づきの方も

いらっしやるだろうが、「川柳塔」「自選集」「水煙抄」欄の空きスペースに「麻生路郎語録」を掲載していたのを、8月号から「川雑」語録に変えた。空きスペースをカットでなく記事で埋めるのは、川柳塔の伝統的な編集方針である。「麻生路郎語録」は木本朱夏さん（前編集人）が、空きスペースをより有意義に使用しようということで始めたものである。

★私が引き継ぐに当たり、「麻生路郎語録」はほぼ出尽くしたのではないかと判断した。それで「川柳雑誌」の誌面を飾った多くの人の語録を楽しんで戴きたいと思い、「川雑」語録とした。興味を持たれた方は、出典と題を示しているので、川柳

塔社HPの電子化された「川柳雑誌」で全文を読んでみてください。

★六賞発表と川柳塔まつりを同時に掲載するのは初めてのことだったが、何とか出すことができてほっとしている。（道夫）

○ある日、食事の支度をしていると、砂糖の容器に黒い点々がうごめいていることに気が付いた。

○砂糖だから蟻だなど思うけれど、私の知っていることには気が付いていない。夫に見てもらったと、アリだという。鬼になった私は砂糖を諦めて水攻めで処刑した。ところが、どこから来たのか、家中探しても見つからない。私

のたべこぼしがあるこちにあるのに、である。○忘れかけた頃、今度は油拭き用のトイレットペーパーに何匹もたかっ

## ひとこと

### 草テニス

長い年月楽しんでるものは混声合唱とテニスです。合唱は小学校から70年以上、テニスも60年以上のキャリアがありますが、大会に出る腕前はない草テニスです。10名の仲間が私以外全員男性で、70歳代の高齢者集団なのに猛暑日も休まず楽しめる元気者ぞろいです。

合唱もテニスも体力が勝負、食

事の管理は勿論、毎朝のラジオ体操で関節を動かし、速歩で心肺機能を高め、ストレッチや簡単な筋トレも欠かさないように心掛けています。

以前に膝を痛め、歩くのも辛い日が3箇月続きましたが、何とか回復してテニスが出来ようになりました。傘寿過ぎの体を勞りつつ1日でも長く「お喋りも楽しみのうち草テニス」を続けるつもりです。（板山まみ子）

ているではないか！なんと非生産的な行動である。

○網戸には、何度追いつてもやって来る同じカメムシがいる。家の中を闊歩するハエトリグモも懲りていない。

○わからへん子らや、と言うと、人間はもつとわからへんと夫に言われた。○だから川柳はやめられませぬ。（眞澄）  
▲「完本密命」佐伯泰英著全26巻を先日読み終え

た。剣豪小説であり、家族愛小説でもあり面白かった。作中の主人公が勝手に小説を進める独特の佐伯流の筆致もスピード感があり一気に読み切れた。

▲前半は「父惣三郎」が八代將軍吉宗を狙う尾張藩の刺客と死闘を繰り返す。中盤は「倅清之助」が柳生等の全国他流試合をし、人を知り、剣術を知らんと川柳は上手く思い出させてくれた。（憲彦）

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

○ ○  年 年 月 月 から から 一 半 年 年 9 5 8 0 0 0 0 0 0 0 円 } 該当の方に○をつけて下さい	紹介者	電話	住所	氏名
	(無記入でも可)		〒 -	フリガナ

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201  
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980141298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

川柳塔のホームページアドレス

<https://senryutou.net>

## 作品募集

1月号発表 (11月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭 幸選  
 水煙抄 (8句) 木本朱夏 選選  
 愛染帖 (2句) 新家完司 選選  
 檸檬抄 「ためらう」 (2句) 江島谷勝弘 共選  
 永見心咲  
 インスピレーション・ナビ (2句) 大西泰世 選選  
 一路集 (2句) 「伝える」 村上直樹 選選  
 「はるばる」 北山まみどり 選選  
 初歩教室 「守る」 (3句) 平井美智子 担当  
 初歩教室「守る」は2月号発表

2月号  
 檸檬抄 「アイドル」  
 一路集 「運」「初々しい」  
 初歩教室 「スーパー」

## ★同人特集★

### 「私の一句」

■今年中に発表された句に限ります。  
 ■締切 11月15日 (本社事務所宛)

定価 八百円 (送料100円)  
 半年分 五千円 (送料共)  
 一年分 九千八百円 (同)

二〇二二年(令和四年)十一月一日発行

発行人 小島和幸  
 編集人 桑原道夫  
 印刷所 美研アート

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一―14―17  
 花野ビル201号室

発行所 川柳塔社  
 電話 (06) 6779-1349 ○番  
 振替 〇〇九八〇一四―二九八四七九番

## 本社11月句会

とき 11月7日(月) 13時開場・13時40分締切  
 ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間  
 天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441  
 おはなし 「1と2と3と4」  
 席題 「」  
 兼題 「わざと」「インテリア」「敬う」

会費 1000円  
 投句料 1000円 (切手不可)

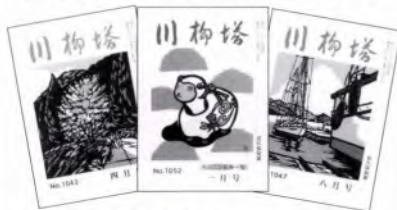
自由吟  
 混池  
 敬う  
 インテリア  
 わざと

坂井美智子氏  
 平井裕之氏  
 敏廣光  
 村田博  
 澤井治  
 木本朱夏  
 新木完司  
 (各題2句以内)

本社12月句会  
 7日(水) 午後1時から  
 兼題 「謎」「動く」「ひやり」  
 「風物詩」「自由吟」

川柳・俳句・エッセイ・小説  
 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
 TEL (06) 4800-3018  
 FAX (06) 4800-3028  
 Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp  
 ホームページ https://www.bikenart.com



# 箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ  
職人の技術で、超とろ火の火加減により、  
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE  
QRコード

舞昆のお友達に  
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで(ご試食承ります)

フリーダイヤル 0120(11)5283  
イイ コブ ヤサン

## 橋詰農園の 味好みかん

～家族で作り上げるこだわりの味～

健康なみかんの木から採れる絶品

余韻に浸れるほどの「コク」をお楽しみ下さい

〒649-0141 和歌山県海南市下津町小南 349

TEL & FAX 073-492-1692

E-mail beetrus@nifty.com

<http://www.hashizume-nouen.com>

